

日本循環器学会 会告

Contents

- 1 Circulation Journal・会告の送付有償化とメールアドレス登録のお願い
- 2 2018年度就任理事選出委員会について
 - 開催要項
 - 立候補受付から2018年度就任理事決定までのスケジュール
- 3 第82回日本循環器学会学術集会
 - 開催概要
 - プレナリーセッション・シンポジウム・一般演題要項
 - 学術集会問い合わせ先のご案内
- 77 第83回日本循環器学会学術集会
 - 開催概要
- 78 循環器専門医制度
 - 第82回日本循環器学会学術集会の循環器専門医研修単位について
 - 2018年度 日本循環器学会認定循環器専門医資格認定審査について
 - 循環器専門医認定更新のご案内／所定単位表
 - 「循環器専門医カード」再発行のご案内／循環器専門医カード再発行申請書
- 85 地方会・関連学会・研究会情報
 - 日本循環器学会地方会情報
 - 海外学会情報
 - その他の学会開催情報
 - 研究助成
- 89 ACLS 講習会情報
- 93 映像教材販売のご案内
- 98 事務局からのお知らせ
 - 登録事項変更届

2018 No.1

Circulation Journal・会告の送付有償化とメールアドレス登録のお願い

一般社団法人 日本循環器学会
代表理事 小室一成

平素は学会活動にご尽力を賜り誠にありがとうございます。

日本循環器学会では、刊行物の電子化を推進し、軽減される印刷並びに郵送費用を学会活動の一層の発展を目指し利用できるよう議論を行ってまいりました。電子化の状況と、冊子の送付有償化に向けた検討状況をご報告申し上げますと共に、会員の皆様をお願いを申し上げます。

現在、正会員の方には Circulation Journal(月次発行)・会告(3ヶ月毎発行)を希望の方に送付しております。Circulation Journal は2007年から J-STAGE における論文公開を行っており、1935年初刊である「日本循環器病学」から現在までの全論文を閲覧いただけるようになっております。Circulation Journal は約17,000人・会告は約27,000人の方へ送付しており、印刷費用と共に郵送費用が巨額となっております。また Circulation Journal は論文投稿が増え採択が難しくなっていること、新たな分野からの論文を受け入れることを考慮し、本年秋より姉妹誌である Circulation Reports の発刊(電子版のみ)を予定しております。

また、既にご報告申し上げますように当会におきましては「脳卒中と循環器病克服5ヵ年計画」の推進、「脳卒中・循環器病対策基本法」の成立のために尽力しており、今後の学会活動の一層の発展を目指しております。

こうした新たな活動並びに会員サービス向上の原資として、これまで会員へ無料で印刷・送付していた Circulation Journal・会告を、希望者のみに有償で送付するという提案をいたしました。その後、理事会・総務委員会・編集委員会で議論を重ねてまいりました結果、2018年度より以下の変更点について決定するに至りましたので、お知らせいたします。

会員の皆様におかれましては、現状をご理解の上、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

なお変更後におきましても、Circulation Journal の論文は一般に無料オンライン公開され、会告は会員にオンライン無料公開いたします。合わせて、メールにおける情報発信を積極的行ってまいりますので、まだメールアドレスをお届けいただいていない方・変更となった方は是非登録をお願いいたします。

冊子体有償化による変更点

1. 冊子体の有償化は、Circulation Journal は Vol.82 No.5(4月25日発行)、会告は 2018 No.2(5月25日発行)より適用されます。
2. 冊子体を希望する会員は、年間購読料(Circulation Journal : 4,000円・会告 : 1,000円、税・送料込)を自己負担することにより、冊子体を配布されます。

冊子体の購入を希望される会員は、所定の用紙にて事務局まで回答をお送りいただけますようお願い申し上げます。併せて当用紙にてメールアドレスの登録・変更を承ります。

会員の皆様におかれましては、今後とも日本循環器学会の運営にご支援・ご協力を賜れますよう、送付有償化にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2018年度就任理事選出委員会について

開催要項

第82回学術集会会期中に本委員会を開催いたします。以下の内容についてご確認ください。

■日時：2018年3月23日(金)18:30～19:40

(受付：18:00～18:30)

※委員会の進行により終了時刻に変更が生じることがありますのでご承知おきください。

※新理事に選出された社員におかれましては、本委員会終了後に別室にて「代表理事選挙」を予定いたします。

■会場：リーガロイヤルホテル大阪 2F「山楽」

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-68

<https://www.rihga.co.jp/osaka>

立候補受付から2018年度就任理事決定までのスケジュール

【2018年】

2月5日(月)～19日(月)

- ・立候補者の公示(2週間程度)

2月20日(火)

- ・立候補者確定の周知

3月23日(金)【第82回学術集会初日】

理事選出委員会(理事選挙)

6月29日(金)第82回社員総会

- ・新理事・新監事の承認

社員総会終了後から、新役員・新体制の任期開始

なお、役員選出要領、理事選出委員会規則ならびに役員選出等に関する定款及び定款施行細則については、ホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

(一社)日本循環器学会 「役員選挙について」

(http://www.j-circ.or.jp/senkyo/senkyo_riji.htm)

《本件問い合わせ先》
日本循環器学会事務局
shain@j-circ.or.jp

第82回日本循環器学会学術集会 (JCS2018)

開催概要

会 期：2018年3月23日(金)～25日(日)
会 長：澤 芳樹 (大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座 心臓血管外科学)
会 場：大阪国際会議場, リーガロイヤルホテル大阪, 堂島リバーフォーラム

メインテーマ：Futurability ～明日の循環器医療を拓く～

◆ Welcome Ceremony ～ Future Concert ～ 「スーパーキッズ・オーケストラ」

芸術監督は、兵庫県立芸術文化センターの芸術監督であり、世界的に活躍する指揮者である佐渡 裕氏が務めており、その佐渡氏が最も愛情を注いでいるスーパーキッズ・オーケストラです。

日 時：3月24日(土) 11:30～12:00

会 場：第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール

※コンサート会場への入場は、すべて指定席となります。詳細はホームページをご参照ください。

1. 美甘レクチャー(日本心臓財団美甘基金)

〈英語〉

Minimalist Lessons from the First TAVI Program in Rouen

A Journey from the Initial Case to Sustain Success

(3月23日(金) 11:15～12:00 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

Alain Cribier (Department of Cardiology, Hospital Charles Nicolle University of Rouen, France)

座長：Yoshiki Sawa (Department of Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

2. 真下記念講演

〈日本語〉

Recent Progress in iPS Cell Research and Application

(3月23日(金) 10:30～11:15 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

山中 伸弥(京都大学 iPS細胞研究所 所長)

座長：澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科学)

3. 会長講演

〈日本語〉

“Futurability” for Cardiology and Cardiovascular Surgery

(3月24日(土) 15:25～15:55 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科学)

座長：川島 康生(大阪大学 名誉教授／国立循環器病研究センター 名誉総長)

4. 代表理事講演

〈日本語〉

Aims of Our JCS

(3月24日(土) 15:55～16:40 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

小室 一成(東京大学 循環器内科学)

座長：小川 久雄(国立循環器病研究センター)

5. 大阪宣言

〈日本語〉

“まごころ”のおくりもの ～みんなでつなごう心臓移植～

(3月24日(土) 16:25～16:40 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科学)

6. 臓器移植法制定20周年記念鼎談

〈日本語〉

(3月24日(土) 16:45~17:25 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)
川島 康生(大阪大学 名誉教授/国立循環器病研究センター 名誉総長)
河合 忠一(京都大学 名誉教授/医療法人医仁会武田総合病院 顧問)
小柳 仁(東京女子医科大学 名誉教授)

7. 会長特別講演

〈日本語〉

- (1) 病院は ネタの宝庫
(3月23日(金) 13:20~14:05 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)
桂 文枝(落語家)
座長: 澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科学)
- (2) IL-6, Anti-IL-6R Antibody and Arid5A for the Therapy of Autoimmune Diseases Including Aortitis as Well as Septic Shock
岸本 忠三(大阪大学免疫学フロンティア研究センター 免疫機能統御学)
(3月24日(土) 17:30~18:20 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)
座長: 矢崎 義雄(国際医療福祉大学 総長)

8. The State of Art by International Honorary Member in 2018

〈英語〉

The History of Cardiac Catheterization
(3月23日(金) 14:05~14:50 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)
William Grossman(Cardiology Division, University of California San Francisco, USA)
座長: Issei Komuro (Department of Cardiovascular Medicine, The University of Tokyo, Tokyo)

9. 特別講演

〈英語〉

- (1) (3月23日(金) 9:30~10:15 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
Nir Uriel(University of Chicago, USA)
座長: Koichiro Kinugawa(The Second Department of Internal Medicine, University of Toyama, Toyama)
- (2) Enhancing Engraftment with Epicardial-Derived Cells and a Notch-Signaling Hydrogel
(3月24日(土) 9:40~10:25 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)
Charles Murry (Institute for Stem Cell and Regenerative Medicine, University of Washington, USA)
座長: Keiichi Fukuda (Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo)
- (3) iPS Cells Derived Cardiac Progenitors and Smarter Exosomes from Engineered Stem Cells for Cardiac Repair
(3月24日(土) 10:25~11:10 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)
Muhammad Ashraf(Department of Emergency Medicine, Ohio State University, USA)
座長: Shinya Minatoguchi (Department of Cardiology, Gifu University Graduate School of Medicine, Gifu)
- (4) History and Future Outlook on the Development of Cardiovascular Surgical Techniques
(3月24日(土) 8:00~8:45 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
Tirone E. David(Division of Cardiovascular Surgery of Toronto General Hospital, Canada)
座長: Hikaru Matsuda(Higashi-Takarazuka Satoh Hospital, Takarazuka)

- (5) History and Future Outlook of Cardiovascular Surgeries
(3月24日(土) 8:45~9:30 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
Magdi Yacoub(Faculty of Medicine, National Heart & Lung Institute, UK)
座長: Soichiro Kitamura(National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)
- (6) Mesenchymal Stem Cells, Cardiac Reparative Macrophages and Myocardial Infarction
(3月24日(土) 8:00~8:45 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
Ken Suzuki(Barts and The London School of Medicine, Queen Mary University of London, UK)
座長: Kimikazu Hamano(Department of Surgery and Clinical Science, Yamaguchi University, Ube)
- (7) Observations on the Pathogenesis of Atherosclerosis
(3月24日(土) 16:30~17:15 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
Axel Haverich(Department of Cardiothoracic, Transplantation, and Vascular Surgery, Hannover Medical School, Germany)
座長: Shinichi Takamoto(Mitsui Memorial Hospital, Tokyo)
- (8) Current Situation and Future Outlook of Surgeries for Congenital Heart Disease
(3月24日(土) 16:30~17:15 第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)
Pedro J. del Nido(Boston Children's Hospital, Harvard Medical School, USA)
座長: Hikaru Matsuda(Higashi-Takarazuka Satoh Hospital, Takarazuka)
- (9) Diabetic Foot Care as a Model for Health System Evolution and Innovation in the Era of NCDs (Non-communicable Diseases)
(3月25日(日) 9:45~10:30 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
Joseph L. Mills(Baylor College of Medicine, Michael E. DeBakey Department of Surgery, Division of Vascular Surgery and Endovascular Therapy, USA)
座長: Tetsuro Miyata(Sanno Hospital and Sanno Medical Center, Vascular Center, Tokyo)
- (10) (3月25日(日) 9:45~10:30 第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)
Shengshou Hu(Fuwai Hospital, National Center for Cardiovascular Diseases of China, China)
座長: Tohru Asai(Cardiovascular Surgery, Shiga University of Medical Science, Otsu)

10. Invited Lecture

- (1) Efficacy of a Wearable Cardioverter-Defibrillator after Myocardial Infarction: Results of the Vest Prevention of Early Sudden Death Trial (VEST) 〈英語〉
(3月23日(金) 15:00~15:45 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)
Jeffrey Olgin(Division of Cardiology, University of California San Francisco, USA)
座長: Kengo Kusano(Department of Cardiovascular Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)
- (2) Beyond Statins - Where to in 2018 〈英語〉
(3月23日(金) 15:00~15:45 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)
Anthony Keech(NHMRC Clinical Trials Center, the University of Sydney, Australia)
座長: Junya Ako(Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University, Sagami-hara)

- (3) Anticoagulation for Stroke Prevention in Atrial Fibrillation: Current Status and Future Perspectives
〈英語〉

(3月23日(金) 15:00~15:45 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

John Eikelboom (Department of Medicine, McMaster University, Jack Hirsh/Population Health Research Institute Chair in Thrombosis and Atherosclerosis, Canada)

座長: Hideo Mitamura (Department of Cardiology, Tachikawa Hospital, Tokyo)

11. 会長特別企画

- (1) 循環器領域における IoT 技術の進歩 〈日本語〉

(3月23日(金) 10:30~12:00 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)

座長: 松村 泰志(大阪大学 医療情報学)

渡邊 英一(藤田保健衛生大学 循環器内科)

演 者:

1. Consideration on Risk Management of Medical Devices and Systems Incorporating Information Technologies

佐久間一郎(東京大学工学系研究科 医療福祉工学開発評価研究センター)

2. Telemedicine and Wearable Devices Using Medical ICT (Smartphones)

高尾 洋之(東京慈恵会医科大学 先端医療情報技術研究講座)

3. Remotely Supervised Real-time Cardiac Rehabilitation Using ICT Technology

谷口 達典(大阪大学 バイオデザイン学共同研究講座)

4. The Development of Remote Monitoring and Tele-health System for Patients with Pulmonary Hypertension

田村 雄一(国際医療福祉大学 循環器内科)

- (2) Lifelong Cardiology in the Young の Futurability: 発生, 発達から見た心筋疾患の生涯循環器学
(一般社団法人日本循環器学会・特定非営利活動法人小児循環器学会共催) 〈日本語〉

(3月23日(金) 13:20~14:50 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: 安河内 聡(長野県立こども病院 循環器小児科)

赤坂 隆史(和歌山県立医科大学 循環器内科)

Opening Remarks:

Lifelong Cardiology in the Young: Challenge of Pediatric Cardiology for Life-long Heart Disease

安河内 聡(長野県立こども病院 循環器小児科)

演 者:

1. iPS Cell Technology for Lifelong Cardiology in Developmental Defects of Myocardium

古道 一樹(慶應義塾大学 小児科学教室)

2. Clinical Feature of Left Ventricular Noncompaction; from the Aspect of Long Term Follow-up

廣野 恵一(富山大学 小児科)

3. Management of Pediatric Cardiomyopathy for Transition Medicine in the Post-Genomic Era

武田 充人(北海道大学病院 小児科)

4. Management of Hypertrophic Cardiomyopathy in Lifelong Cardiology

久保 亨(高知大学 老年病・循環器内科)

- (3) Case Report Award Session (CRAS) Surgery Session 〈英語〉

(3月23日(金) 16:00~16:40 第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)

座長: Motonobu Nishimura (Organ Regeneration Surgery, Tottori University Faculty of Medicine, Tottori)

Ikuko Shibasaki (Department of Cardiac and Vascular Surgery, Dokkyo Medical University School of Medicine, Mibu)

演 者：

1. Effectiveness of the Impella 5.0 as a Bridge to Durable Left Ventricular Assist Device -The First Clinical Application in Japan-
Kazuma Handa (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)
2. Long Term Outcome of Autologous Skeletal Muscle Derived Cell Sheet in Severe Heart Failure Patient with Ischemic Cardiomyopathy -A Case Report-
Rintaro Yamamoto (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Hospital, Suita)
3. Trousseau Syndrome with Nonbacterial Thrombotic Endocarditis and Left Ventricular Thrombus in a Patient with Ovarian Cancer
Takura Taguchi (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka Police Hospital, Osaka)
4. A Novel Surgical Technique for Severe Coarctation of Aorta by Interposition of a Pulmonary Autograft Tube
Rie Nakai (Department of Pediatric Cardiovascular Surgery, Children's Research Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto)

(4) Case Report Award Session (CRAS) Internal Medicine Session

〈英語〉

(3月23日(金) 16:40~17:50 第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)

座長：Yutaka Otsuji (Second Department of Internal Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu)
Tomomi Ide (Department of Cardiovascular Medicine, Kyushu University, Fukuoka)

演 者：

1. A Case of Platypnea-orthodeoxia Syndrome Successfully Treated with Transcutaneous Foramen Ovale Closure; Clinical Usefulness of Positional Angiography
Kazuhiro Kuroda (Department of Cardiology, Okayama City Hospital, Okayama)
2. A Case of Severe ASD-PAH "Treat and Repair" by Epoprostenol Continuous Intravenous Infusion and Surgical ASD Partial Closure
Jihaeng Im (Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo)
3. A Case of Long QT Syndrome with Double Gene Mutation Causing Dual Phenotype in Relation to Abdominal Symptom
Masahiro Hada (Division of Cardiology, Cardiovascular Center, Tsuchiura Kyodo Hospital, Tsuchiura)
4. A Case of Left Coronary Sinus of Valsalva Aneurysm Associated with RMRP Gene Mutations
Yukari Okuma (Department of Cardiology, Shinshu University, Matsumoto)
5. Infective Endocarditis Due to Treponema Pallidum: A Case Diagnosed by Polymerase Chain Reaction Analysis of Aortic Valve
Sadahiro Hijikata (Department of Cardiology, Japanese Red Cross Musashino Hospital, Tokyo)
6. Combined Therapies with Catheter Ablation, Device Implantation and Methotrexate for Antiarrhythmic Drug-refractory Ventricular Tachycardia with Cardiac Sarcoidosis of Steroid-contraindication
Yuichi Suzuki (Internal Medicine III, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu)

7. Influence of Tyrosine Kinase Inhibitors on Repeated Thrombotic Occlusion of Bare-metal Stent in Superficial Femoral Arteries: Insights from Angioscopic Findings
Shigeki Kuwasaki (Department of Cardiovascular Medicine, Nagasaki University Hospital, Nagasaki)

- (5) LVAD ~Up-to-date and Future~ 〈英語〉
(3月23日(金) 14:05~15:35 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
座長: Akihiko Usui (Department of Cardiac Surgery, Nagoya University, Nagoya)
Shunei Kyo (Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital & Institute Gerontology, Tokyo)

演 者:

1. LVADs for End-Stage Heart Failure -Up Date and Future-
Yoshifumi Naka (Department of Surgery, Columbia University College of Physicians and Surgeons, USA)
2. Future Role of Mechanical Circulatory Sport in the Treatment of Advanced Stage Heart Failure
Mark S. Slaughter (Department of Cardiovascular and Thoracic Surgery, University of Louisville School of Medicine, USA)
3. What Will be an LVAD Japan Way?
Koichi Toda (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

- (6) Meet the Editor-in-Chief of Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology - How to Submit a Strong Manuscript 〈英語〉
(3月23日(金) 15:00~15:45 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)
座長: Osamu Yamaguchi (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

演 者:

Meet the Editor-in-Chief of Circulation: Arrhythmia and Electrophysiology -How to Submit a Strong Manuscript
Paul Wang (Stanford University, USA)

- (7) Asian Pacific CVS Summit 〈英語〉
(3月24日(土) 9:40~11:10 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
座長: Goro Matsumiya (Cardiovascular Surgery, Chiba University, Chiba)
Joseph Woo (Department of Cardiothoracic Surgery, Stanford University, USA)

演 者:

1. Twenty Years Outcomes of Valve Repair using Rigid or Flexible Ring for Degenerative Mitral Regurgitation
Byung Chul Chang (CHA Bundang Medical Center, CHA University, Korea)
2. Right Ventricular Function may Correlate the Successful Decannulation and Prognosis in Extracorporeal Membrane Oxygenation Patients
Yih-Sharng Chen (National Taiwan University Hospital, Taiwan)
3. Current Situation and Future of Cardiovascular Surgery in Thailand
Taweesak Chotivatanapong (Department of Cardiothoracic Surgery, Bangkok Heart Hospital, BDMS Hospital Network, Thailand)
4. Current Situation and Future of Cardiovascular Surgery in the United States
Joseph Woo (Department of Cardiothoracic Surgery, Stanford University, USA)

- (8) 個人情報法を踏まえた臨床研究のあり方 (日本語)
(3月24日(土) 10:20~11:20 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長: 前村 浩二(長崎大学 循環器内科学)
小川 久雄(国立循環器病研究センター)

演 者:

1. The Amended Ethical Guidelines on Clinical Research and Problems Involved on Personal Information Protection
松井 健志(国立循環器病研究センター 医学倫理研究部)
2. An Appropriate Implementation of Clinical Trials and Morality of Investigator
桑島 巖(臨床研究適正評価教育機構)

- (9) 新たな循環器専門医制度構築に向けての最近の動向(専門医制度委員会共同企画) (日本語)
(3月24日(土) 9:40~11:10 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)

座長: 木原 康樹(日本循環器学会専門医制度委員会 委員長)
吉川 勉(日本循環器学会新専門医制度検討 WG WG 長)

演 者:

1. 内科専門医制度と循環器専門医制度: 最近の動向
岩永 善高(近畿大学 循環器内科)
2. 心臓血管外科専門医制度 最近の動向と新カリキュラム整備基準
種本 和雄(川崎医科大学 心臓血管外科学)
3. 小児循環器専門医制度—最近の動向と新制度への展望—
土井庄三郎(東京医科歯科大学 小児・周産期地域医療学)
4. これからの循環器専門医制度
白山 武司(京都府立医科大学 循環器内科)
5. 新専門医制度施行に向けた不整脈専門医制度の整備
池主 雅臣(新潟大学 保健学科)
池田 隆徳(東邦大学 循環器内科)
平尾 見三(東京医科歯科大学 循環器内科)
6. CVIT 専門医制度の理念と変遷
上妻 謙(帝京大学 循環器内科)

- (10) これからの心臓外科女性医師~男女共同参画に向けて~ (日本語)
(3月24日(土) 9:00~10:00 第15会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 牡丹)

座長: 新浪 博士(東京女子医科大学 心臓血管外科)
齋藤 綾(東邦大学医療センター佐倉病院 心臓血管外科)

演 者:

1. 小児心臓外科という世界に入って
長谷川 然(大阪母子医療センター)
2. 大学キャリアから臨床実践病院へ出てみて~女性でも目指せるトップサーजन~
宮木 靖子(神戸徳洲会病院 心臓血管外科)
3. 教育・研究・医療を担う大学病院でのニーズ
神吉佐智子(大阪医科大学 胸部外科学教室)
4. 心臓血管外科医に続けるには・・・。
柴崎 郁子(獨協医科大学 心臓血管外科)

- (11) 心血管疾患の臨床疫学研究の課題と展開~臨床から地域へ, 地域から臨床へ~ (日本語)
(3月24日(土) 9:40~11:10 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 磯 博康(大阪大学 公衆衛生学)
宮崎 俊一(近畿大学 循環器内科)

演 者:

1. Epidemiological Studies in the Japanese Cardiovascular Surgical Field
荻野 均(東京医科大学 心臓血管外科)

2. Front-line Emergency Cardiovascular Care in Japan
田原 良雄(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)
3. Return of the Results of Epidemiological Research in Society: The Hisayama Study
二宮 利治(九州大学 衛生・公衆衛生学分野)
4. Involvement of Epidemiologists in Clinical Cardiovascular Researches
北村 哲久(大阪大学 環境医学)
5. Issue of Selection Bias in Statistical Analysis of Observational Studies
服部 聡(大阪大学 医学統計学講座)

(12) 研修医のための心エコー ハンズオンセッション

(一般社団法人日本循環器学会・一般社団法人日本心エコー図学会共催)

〈日本語〉

(3月24日(土) 8:20~11:20/14:00~17:00 心エコーハンズオンセッション会場 堂島リ
バーフォーラム 4階 ギャラリー)

第一部 8:20~11:10

Keynote Lecture: 山田 聡(北海道大学 循環病態内科学)

講師: 勝木 桂子(大阪大学病院 臨床検査部門)

長尾 秀紀(兵庫県立尼崎総合医療センター 検査部)

川井 順一(西神戸医療センター 臨床検査技術部)

清水 博美(奈良県立医科大学病院 中央臨床検査部)

西蔭 朋子(大阪みなと中央病院 検査室)

第二部 14:00~16:50

Keynote Lecture: 山田 博胤(徳島大学 地域循環器内科学)

講師: 橋本 修治(国立循環器病研究センター)

沖 都麦(神戸大学病院 検査部)

仲宗根 出(OBP クリニック)

山口 一人(島根大学 内科学講座第四)

高尾壽美恵(新古賀病院)

(13) 生物統計が解決! 臨床研究ピットフォール

〈日本語〉

(3月24日(土) 14:20~15:20 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長: 久保田 功(山形大学)

演 者:

1. Moving from the Comfort Zone -Classical to Translational Statistics-

竹内 正弘(北里大学 薬学部臨床医学(臨床統計学))

2. How can We Connect Data to Statistical Analysis? Quality Management and Data Management in Current Clinical Researches

高田 宗典(東京大学医学部附属病院 臨床研究支援センター)

3. Statistics in Medicine: Reporting Results of Retrospective Studies

香坂 俊(慶應義塾大学 循環器内科)

4. How Far can You Do Using Clinical Databases and Population Cohorts?

宮本 恵宏(国立循環器病研究センター 循環器病統合情報センター)

(14) 心不全における非薬物治療へのターニングポイントは?

〈日本語〉

(3月24日(土) 13:50~15:20 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長: 小野 稔(東京大学 心臓外科)

大谷 朋仁(大阪大学 循環器内科学)

演 者:

1. Cardiac Resynchronization Therapy for Patients with Severely Advanced Heart Failure

西井 伸洋(岡山大学 先端循環器治療学講座)

2. Functional Mitral Regurgitation: Clinical Implications, Surgical Strategies, and the Best Timing for the Surgery

斎藤 俊輔(大阪大学 心臓血管外科)

3. Optimal Timing of Listing for Heart Transplantation for Patients with End-stage Heart Failure

世良 英子(大阪大学 循環器内科学)

4. When is the Appropriate Time to Consider Device Therapy in Advanced Heart Failure Patients?

絹川弘一郎(富山大学 第二内科)

5. When should We Consider Continuous-Flow Ventricular Assist Device for Destination Therapy?

小野 稔(東京大学 心臓外科)

(15) 複雑重症心不全とどう戦うか? ~Two heads or Too many cooks?~

(U40心不全ネットワーク合同企画)

〈日本語〉

(3月24日(土) 17:30~19:00 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長: 坂本 隆史(大分県立病院 循環器内科)

谷口 達典(大阪大学 バイオデザイン学共同研究講座)

Opening Remarks: 谷口 達典(大阪大学 バイオデザイン学共同研究講座)

演 者:

1. A Case of Severe LV Dysfunction with Multiple Problem on His Heart

西畑 庸介(聖路加国際病院心血管センター 循環器内科)

2. The Role of a Cardiologist as a Physician in Charge of the Entire Course of Heart Failure

鍵山 暢之(Division of Cardiology, Washington University in St. Louis, USA)

3. Now Opening More Opportunities for Improvements in Management

中島育太郎(聖マリアンナ医科大学 循環器内科学)

4. Therapeutic Strategies against Ischemia-related Heart Failure

重城健太郎(東京女子医科大学 循環器内科)

5. Current Status of Surgical Treatment for Heart Failure in Osaka University

堂前圭太郎(大阪大学 心臓血管外科)

6. Development of a Novel Method to Analyze Molecular Pathogenesis for Each Patient

野村征太郎(東京大学 循環器内科)

Closing Remarks: 坂本 隆史(大分県立病院 循環器内科)

(16) 緩和医療の Futurability ~高度化する医療のなかで緩和・終末期医療を考える~

〈日本語〉

(3月24日(土) 13:50~15:20 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長: 越村 利恵(大阪大学病院 看護部)

安斉 俊久(北海道大学 循環病態内科学)

演 者:

1. Palliative Care in the Heart Transplant Recipient

築瀬 正伸(国立循環器病研究センター 移植医療部)

2. Compatibility of Advanced Medicine and Palliative Care -Team Approach for Advance Care Planning before LVAD Implantation-

松浦 良平(大阪大学 心臓血管外科学)

3. The Impacts of Multidisciplinary Team Management and Palliative Care for Patients with End-stage Heart Failure

前田 靖子(豊橋ハートセンター 看護部)

4. Real World Experience and Tasks of Palliative Care for Heart Failure

大石 醒悟(兵庫県立姫路循環器病センター 循環器内科)

5. Efforts to Develop and Validate Advance Care Planning Support Tool for Chronic Heart Failure

高田弥寿子(国立循環器病研究センター 看護部)

- (17) 循環器救急疾患における診断と治療 〈日本語〉
(3月24日(土) 17:30~19:00 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)
座長: 藤井 謙司(桜橋渡辺病院 循環器内科)
小林順二郎(国立循環器病研究センター 心臓血管外科)
- 演 者:
1. Surgical Treatment for Aortic Emergencies
松田 均(国立循環器病研究センター 心臓血管外科)
 2. Experience of Tokyo CCU Network for Treatment of Acute Cardiovascular Disease
吉野 秀朗(杏林大学医学部内科学Ⅱ 循環器内科)
 3. Treatment Strategy for Acute Aortic Dissection
萩野 均(東京医科大学 心臓血管外科)
 4. Clinical Significance of Emergency Cardiovascular Care System Including Pre-hospital 12-lead Electrocardiography
田原 良雄(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)
 5. Temporal Trends in Prevalence and Outcomes of Geriatric Patients with Acute Myocardial Infarction Complicated with Heart Failure -Lessons from Miyagi AMI Registry Study-
高橋 潤(東北大学 循環器内科)
 6. Patient Transport by Highly Equipped Ambulance Car and Helicopter in Emergency Cardiovascular Medicine
澤村 匡史(済生会熊本病院 集中治療室)
- (18) Onco-Cardiology～がんと循環器診療における新たな関係～ 〈日本語〉
(3月25日(日) 10:30~12:00 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)
座長: 赤澤 宏(東京大学 循環器内科学)
瀧原 圭子(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター／大阪大学 循環器内科学)
1. Onco-Cardiology Overview: Control of Cardiovascular Toxicity by Onco-Cardiologists
向井 幹夫(大阪府立病院機構大阪国際がんセンター 成人病ドック科 腫瘍循環器外来)
 2. Cancer-Associated Thrombosis (CAT)
志賀 太郎(がん研有明病院 腫瘍循環器・循環器内科)
 3. Cardiac Dysfunction in Cancer Cachexia
石田 純一(東京大学 循環器内科学)
 4. Effect on Electrophysiological Properties in Patients with Mediastinum Extra-cardiac Cancer Treated with Carbon-ion Radiotherapy
網野 真理(東海大学 循環器内科)
 5. Onco-Pulmo Cardiology “Molecular Targeted Drugs Associate Pulmonary Vascular and Cardiac Diseases”
木岡 秀隆(大阪大学 循環器内科学)
- (19) 心臓血管外科の Futurability～循環器領域における外科医の輝ける未来に向けて～
(一般社団法人日本循環器学会・特定非営利活動法人日本心臓血管外科学会共催) 〈日本語〉
(3月25日(日) 8:00~9:30 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
座長: 上田 裕一(奈良県総合医療センター)
横山 斉(福島県立医科大学 心臓血管外科学)
- 演 者:
1. Paradigm Shift of Aortic Repair is Coming Soon: Surgeons, be Ready to Take the Leading Role of Total Endovascular Repair Era!
島村 和男(大阪大学 心臓血管外科学)
 2. The Outlook for the Treatment of Critical Limb Ischemia
東 信良(旭川医科大学 血管・呼吸・腫瘍病態外科学)

3. Future of Endovascular Treatment of Peripheral Arterial Disease: Insight from Vascular Surgeon
出口 順夫(埼玉医科大学総合医療センター 血管外科)
4. Application of Vascular Simulation Models for Surgical Treatment
保科 克行(東京大学 血管外科)
5. Influence of Blood Flow Imaging on Clinical Practice in Cardiac Surgery
板谷 慶一(京都府立医科大学 心臓血管外科 心臓血管血流解析学講座)
6. Future of Congenital Cardiac Surgery
平田 康隆(東京大学 心臓外科)
7. Futurability in Cardiac Surgery; A Role of Regenerative Therapy for Breakthrough of Conventional Surgery
宮川 繁(大阪大学 心臓血管外科学)
8. Does iPS Cell Technology Change the Future of Surgery?
升本 英利(理化学研究所多細胞システム形成研究センター 臨床橋渡しプログラム)

(20) 新しい時代を迎える大型血管炎の診断・治療の最前線 〈日本語〉
(3月25日(日) 10:30~12:00 第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)

座長: 針谷 正祥(東京女子医科大学 膠原病リウマチ痛風センター)
中岡 良和(国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部)

演 者:

1. New Therapeutic Era of Large Vessel Vasculitides
針谷 正祥(東京女子医科大学 膠原病リウマチ痛風センター)
2. New Guideline for Vasculitis Syndrome: Diagnosis of Takayasu Arteritis
磯部 光章(榊原記念病院)
3. Genetic Backgrounds and Pathophysiology of Large Vessel Vasculitis
吉藤 元(京都大学 内科学講座臨床免疫学)
4. Current Clinical Characteristics of Large Vessel Vasculitis in Japan; Takayasu Arteritis and Giant Cell Arteritis
内田 治仁(岡山大学 CKD・CVD 地域連携包括医療学)
5. Novel Treatment for Large Vessel Vasculitis Targeting Inflammatory Cytokine Signaling
中岡 良和(国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部)
6. Long-Term Outcome after Surgical Intervention for the Non-Specific Aortitis
佐々木啓明(国立循環器病研究センター 心臓血管外科)

(21) Futurability of Medical Device Development ~Let's Lead the World by Bringing Together the Power of Industry, Government and Academia in Japan and the United States~ 〈英語〉
(3月25日(日) 8:00~9:30 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: Shigeru Saitoh(Shonan Kamakura General Hospital, Kamakura)
Mitchell W. Krucoff(Medicine/Cardiology, Duke University Medical Center, USA)

Special Commentator: Hiroaki Shimokawa (Department of Cardiovascular Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai)

演 者:

1. Introduction of Harmonization by Doing(HBD) Activitise: US FDA Perspective
Kenneth J. Cavanaugh (FDA's Center for Devices and Radiological Health, USA)
2. HBD activity -MHLW perspective-
Kiyohito Nakai (Ministry of Health, Labor and Welfare, Tokyo)
3. Early Feasibility Study in US
Fumiaki Ikeno (Division of Cardiology, Stanford University, USA)

4. Early Feasibility Study in Japan
Kanji Inoue (PTMC Institute/Department of Cardiology, Kyoto University
School of Medicine, Kyoto)
5. Robert J. Thatcher (4C Medical Technologies, Inc., USA)
6. Balancing Premarket and Post-market Data Collection
Kensuke Ishii (Pharmaceuticals and Medical Devices Agency, Tokyo)
7. HBD Children Activities Report for Pediatric Devices in Japan
Satoshi Yasukochi (Heart Center, Nagano Children's Hospital, Azumino)

- (22) 地域をまもる～各地での地域医療連携の取り組み～ 〈日本語〉
(3月25日(日) 15:10～16:40 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
座長: 竹谷 哲(竹谷クリニック)
花谷 彰久(大阪市立大学 循環器内科)
1. Future Direction of Palliative Care System for Cardiovascular Disease
岡田 佳築(厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課)
 2. Palliative Care to Heart Failure Patients in the Local Community
木原 康樹(広島大学 循環器内科学)
 3. Growing Needs of Comprehensive Heart Failure Palliative Care in the Community
柴田 龍宏(久留米大学 内科学講座 心臓・血管内科部門)
 4. An Attempt at Introduction of a Common Self-care System to Prevent Hospital Readmissions in Elderly Patients with Decompensated Heart Failure in Osaka City
中根 英策(田附興風会医学研究所 北野病院 心臓センター)
 5. Local Community Partnership for People with Heart Disease Developed from Collaboration of the Clinical Pathway by Multi-disciplinary and Integrated Care Team Work between Social Welfare, Health and Medical Systems
渡辺 徳(長野県厚生連 北信総合病院 循環器内科)
 6. How can We Make the System Better for Home-based Heart Failure Management on Local Community?
弓野 大(ゆみのハートクリニック)

- (23) レジェンド道場 ～悩んでいるなら俺に聞け！～ 〈日本語〉
第1幕 不整脈のトラブルシューティングなら俺に聞け！
・難渋する AVNRT アブレーション: どのようにアブレーションするべきか?
・非機能リードのリード抜去: 適応は? どこまで抜去するのか?
(3月23日(金) 15:00～15:45 特設会場 大阪国際会議場 3階 イベントホール)
司会: 南口 仁(大阪大学 循環器内科)
対談者: 庄田 守男(東京女子医科大学 循環器内科学)
症例プレゼンター: 小津賢太郎(大阪大学 循環器内科)

- 第2幕 CTO-PCI なら俺に聞け! どうすれば良かったの、この CTO
(3月24日(土) 16:30～17:15 特設会場 大阪国際会議場 3階 イベントホール)
司会: 坂本 宗久(東京医療センター 心血管不整脈センター)
対談者: 矢嶋 純二(心臓血管研究所附属病院 循環器内科)
症例プレゼンター: 景山 倫也(那須赤十字病院 循環器内科)

- 第3幕 リバーズリモデリングなら俺に聞け!
(3月25日(日) 9:40～10:25 特設会場 大阪国際会議場 3階 イベントホール)
司会: 坂田 泰史(大阪大学 循環器内科学)
対談者: 安村 良男(尼崎中央病院 循環器内科)
症例プレゼンター: 宮脇 大(大阪大学 循環器内科学)

12. プレナリーセッション

(1) "Futurability" of Therapeutic Strategy of Heart Failure

〈英語〉

(3月23日(金) 16:00~17:30 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

座長: Yasushi Sakata (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

Mark S. Slaughter (University of Louisville, USA)

State-of-the-Art:

Future Role of MCS in the Treatment of Advanced Heart Failure

Mark S. Slaughter (University of Louisville, USA)

演 者:

1. Spatiotemporal and Integrative Analysis of the Transcriptome and Metabolome Response to Systemic Energetic Starvation with Cardiac Dysfunction

Yusuke Morita (Department of Cardiology, Kyoto University School of Medicine, Kyoto)

2. Therapeutic Genome Editing Targeting an Upstream Genetic Basis of Advanced Heart Failure

Shuichiro Higo (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University, Suita)

3. Glymphatic System with Astrocytic Aquaporin 4 is Future Therapeutic Target of Heart Failure via Restoration of Disrupted Brain-mediated Organ Association

Takuya Kishi (Department of Advanced Risk Stratification for Cardiovascular Diseases, Center for Disruptive Cardiovascular Medicine, Kyushu University, Fukuoka)

4. Direct Cardiac Reprogramming, Regeneration, and Heart Failure

Masaki Ieda (Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo)

(2) Recent Progress in Catheter Ablation for Ventricular Tachyarrhythmias

〈英語〉

(3月23日(金) 16:00~17:30 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長: Akihiko Nogami (Department of Cardiology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba)

Joshua D. Moss (University of California San Francisco, USA)

State-of-the-Art:

Ablation for Ventricular Tachyarrhythmias: State of the Art 2018

Joshua D. Moss (University of California San Francisco, USA)

演 者:

1. The Value of Pace-mapping during Sinus Rhythm to Localize the Critical Isthmus of Post-Infarct Ventricular Tachycardia

Christian de Chillou (Department of Cardiology, University Hospital Nancy, France)

2. Double Annotation Corridor Mapping for Scar-related Ventricular Tachycardia: Importance of Voltage Conducting Corridors

Ahmed Talib (Division of Cardiovascular Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba)

3. Clinical and Experimental Investigation Regarding Antiarrhythmic Effects of the Ethanol Infusion into Cardiac Vessels in Terms of Treating Ventricular Arrhythmias.

Kaoru Okishige (Heart Center, Japan Red Cross Yokohama City Bay Hospital, Yokohama)

4. Safety and Efficacy of Cryoablation in Patients with Ventricular Arrhythmias Unamenable to Radiofrequency Ablation

Koji Miyamoto (Department of Cardiovascular Medicine, Mayo Clinic, USA)

5. Multicenter Experience with Catheter Ablation for Ventricular Fibrillation Storm in Patients with Myocardial Infarction: Short- and Long-Term Follow-up Outcomes
Yuki Komatsu (Department of Cardiology, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Tsukuba)
6. Catheter Ablation for Brugada Syndrome
Yasuya Inden (Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)

(3) The Recent Advances in the Assessment of Valvular Heart Diseases with Imaging Modalities

〈英語〉

(3月24日(土) 8:00~9:30 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: Kazuhiro Yamamoto (Division of Cardiovascular Medicine, Endocrinology and Metabolism, Faculty of Medicine, Tottori University, Tottori)

Paul Sorajja (Valve Science Center at the Minneapolis Heart Institute Foundation and Abbott Northwestern Hospital, USA)

State-of-the-Art:

Transcatheter Mitral Therapy

Paul Sorajja (Valve Science Center at the Minneapolis Heart Institute Foundation and Abbott Northwestern Hospital, USA)

演 者:

1. Impact of Valvular Disease and Surgical Treatment on Left Ventricular Blood Flow and Energy Loss: Vector Flow Mapping Analysis Study
Shohei Yoshida (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)
2. Mechanism of Atrial Mitral Regurgitation: Functional Mitral Regurgitation in Relation with Atrial Fibrillation and Mitral Annulus Geometry
Yuki Izumi (Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo)
3. Acute Ischemic Mitral Regurgitation can Occur with Mild Valve Tethering: Comparison with Chronic Ischemic Mitral Regurgitation by Quantitative Real-time 3D Echocardiography
Shun Nishino (Department of Cardiology, Miyazaki Medical Association Hospital Cardiovascular Center, Miyazaki)
4. Emerging Role of the Three-dimensional Printing for the Assessment of Mitral Apparatus in Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy
Yasuhiro Hamatani (Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)

(4) Futurability of Regeneration Therapy

〈英語〉

(3月24日(土) 8:00~9:30 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: Issei Komuro (Department of Cardiovascular Medicine, The University of Tokyo, Tokyo)

Charles Murry (University of Washington, USA)

State-of-the-Art:

Regenerating the Primate Heart with Human Pluripotent Stem Cell-Derived Cardiomyocytes

Charles Murry (University of Washington, USA)

演 者：

1. The Development of Heart Assistable Pulsatile Human Cardiac Tissue Graft for Heart Failure Treatment
Katsuhisa Matsuura (Institute of Advanced Biomedical Engineering and Science, Tokyo Women's Medical University, Tokyo/Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo)
2. Establishment of a New Strategy for Heart Failure -Translational Research of Cell Sheet-Based Myocardial Regeneration Therapy-
Shigeru Miyagawa (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)
3. Repopulation of the Cells in Cardiac Niche for Regenerative Therapeutic Strategies
Youngkeun Ahn (Department of Cardiology, Chonnam National University Hospital, Korea)
4. The Role of the Bioresorbable Scaffold in a Tissue Engineered Arterial Graft for Vascular Regeneration
Shuhei Tara (Department of Cardiovascular Medicine, Nippon Medical School, Tokyo)

(5) Multilayered Cardiovascular Genetics

〈英語〉

(3月24日(土) 8:00~9:30 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長：Seiji Takashima (Department of Medical Biochemistry, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

Stuart Cook (National Heart & Lung Institute, UK)

State-of-the-Art：

The Role of Titin in Dilated Cardiomyopathy

Stuart Cook (National Heart & Lung Institute, UK)

演 者：

1. Oligogenic Familial Hypercholesterolemia, LDL Cholesterol, and Coronary Artery Disease
Hayato Tada (Department of Cardiovascular and Internal Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa)
2. HCN4 Gene Polymorphisms are Associated with Susceptibility to Tachycardia Induced Cardiomyopathy in Patients with Atrial Fibrillation
Yukiko Nakano (Department of Cardiovascular Medicine, Hiroshima University Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima)
3. Detection of Copy Number Variations by Next Generation Sequencer, a Missing Genetic Defect
Seiko Ohno (Cardiovascular Department, Shiga University of Medical Science, Otsu/Center for Epidemiologic Research in Asia, Shiga University of Medical Science, Otsu)
4. Clinical Application of Whole Exome Sequencing in Sinus Bradycardia and a Strategy for Development of a Novel Targeted Therapy
Yoshihiro Asano (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

(6) Surgical Treatment and Re-intervention for Adults with Congenital Heart Disease 〈英語〉

(3月24日(土) 17:30~19:00 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: Isao Shiraishi (Department of Pediatric Cardiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)

Pedro J. del Nido (Department of Cardiac Surgery, Boston Children's Hospital/Harvard Medical School, USA)

State-of-the-Art:

Tricuspid Valve Surgery in Adults with Congenital Heart Disease

Pedro J. del Nido (Department of Cardiac Surgery, Boston Children's Hospital/Harvard Medical School, USA)

演 者:

1. Evaluation and Management for Dilated RV Long after Repair of TF: Indication and Optimum Timing for Re-RVOTR

Takayoshi Ueno (Department of Minimally Invasive Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

2. Surgical Re-intervention for Adult with "Repaired" Congenital Heart Disease

Hajime Ichikawa (Department of Pediatric Cardiovascular Surgery, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)

3. Surgical Re-intervention Long after Fontan Procedure -Indications, Procedures, and Optimum Timing-

Shunji Sano (Department of Pediatric Cardiac Surgery, University California San Francisco, USA)

4. Heart Transplantation for Adults with Congenital Heart Disease: How to Proceed in Japan?

Hikaru Matsuda (Higashi-Takarazuka Satoh Hospital, Takarazuka)

(7) Translational Research for Coronary Artery Disease 〈英語〉

(3月25日(日) 10:30~12:00 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長: Tetsuji Miura (Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University, Sapporo)

Michel Ovize (Department of Cardiology, Louis Pradel Hospital, France)

State-of-the-Art:

Translational Research in STEMI Patients

Michel Ovize (Department of Cardiology, Louis Pradel Hospital, France)

演 者:

1. Vascular Endothelial Growth Factor-C and Cardiovascular and All-cause Mortality in Patients with Suspected Coronary Artery Disease: From the ANOX Study

Hiromichi Wada (Division of Translational Research, National Hospital Organization Kyoto Medical Center, Kyoto)

2. Renal Denervation Suppresses Coronary Hyperconstricting Responses after Drug-Eluting Stent Implantation in Pigs in Vivo through the Kidney-Brain-Heart Axis

Hironori Uzuka (Department of Cardiovascular Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai)

3. Crosstalk between Aberrant mTORC1 Activation and Necroptotic Pathway: A Novel Therapeutic Target in Ischemic Heart Failure

Toshiyuki Yano (Department of Cardiovascular, Renal and Metabolic Medicine, Sapporo Medical University, Sapporo)

4. Inhibiting Phosphatidic Acid-Mediated Hepatokine α 1-Microglobulin Signaling Mitigates Inflammation and Left Ventricular Remodeling during Myocardial Infarction

Daihiko Hakuno (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University, Kyoto)

(8) Revolutionary Strategy for Heart Failure Prevention (日本語)

(3月25日(日) 13:20~14:50 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 大屋 祐輔(琉球大学 循環器・腎臓・神経内科学)

野出 孝一(佐賀大学 循環器内科)

演 者:

1. To Prevent Heart Failure, What can We Do Next?
田中 敦史(佐賀大学 循環器内科)
2. Prevention Strategies for Heart Failure Hospitalization in Japanese Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction; Insights from JASPER Nationwide-registry
安齊 俊久(北海道大学 循環病態内科学)
3. Prognostic Impacts of Soluble Form of Basigin in Patients with Chronic Heart Failure -Prospective Large Clinical Trial with 1,147 Patients-
佐藤 公雄(東北大学 循環器内科)
4. Possibility of proBNP Measurement as a New Method for Evaluating the Heart Disease
中川 靖章(京都大学 循環器内科学)
5. Gut Microbiota and Their Relevant Metabolites could be Novel Biomarkers and Innovative Therapeutic Targets of Chronic Heart Failure
林 友鴻(神戸大学 内科学講座 循環器内科学分野)
6. Skeletal Muscle-targeted Strategy for Heart Failure Prevention in Elderly, Frail Patients after ST-elevation Myocardial Infarction
小西 正紹(横浜市立大学 市民総合医療センター 心臓血管センター)

(9) Development of Imaging in the Assessment of Myocardial Ischemia (英語)

(3月25日(日) 15:10~16:40 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長: Takashi Akasaka (Department of Cardiovascular Medicine, Wakayama Medical University, Wakayama)

Jagat Narula (Philip J. and Harriet L. Goodhart, Icahn School of Medicine at Mount Sinai/Division of Cardiology, Mount Sinai St. Luke's Hospital/Arnhold Institute for Global Health/Cardiovascular Imaging, Mount Sinai Health System, USA)

State-of-the-Art:

Recent Advances in the Non-invasive Assessment of Chronic Stable Coronary Disease

Jagat Narula (Philip J. and Harriet L. Goodhart, Icahn School of Medicine at Mount Sinai/Division of Cardiology, Mount Sinai St. Luke's Hospital/Arnhold Institute for Global Health/Cardiovascular Imaging, Mount Sinai Health System, USA)

演 者:

1. Fausto J. Pinto (University of Lisbon, Portugal)
2. On-site Assessment of CT-FFR Using Fluid Structure Interactions as a Gatekeeper of Invasive FFR
Sadako Motoyama (Department of Cardiology, Fujita Health University, Toyoake)
3. Diagnostic Accuracy of Coronary Angiography-derived Quantitative Flow Ratio for Assessing Myocardial Ischemia
Hiroki Emori (Department of Cardiovascular Medicine, Wakayama Medical University, Wakayama)
4. Saline Induced Pd/Pa Ratio can Predict Functional Significance of Coronary Stenosis Assessed by Fractional Flow Reserve
Satoshi Hashimoto (Cardiology, Suwa Central Hospital, Suwa)

5. Relationship between Global Myocardial Blood Flow Evaluated by Phase Contrast Cine-Magnetic Resonance Imaging and Regional Pressure Wire-derived Physiological Indices
Tadashi Fukuda (Cardiovascular Division, Tsuchiura Kyodo General Hospital, Tsuchiura)
6. Impaired Vasodilator Capacity of Coronary Microvessels in Patients with Vasospastic Angina -Adenosine-Stress Myocardial CT Perfusion Imaging Study-
Jun Sugisawa (Department of Cardiovascular Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai)

13. シンポジウム

(1) 冠血行再建のFuturability

〈日本語〉

(3月23日(金) 8:00~9:30 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

座長: 中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)

夜久 均(京都府立医科大学 心臓血管外科学)

演 者:

1. Is There Any Room for Improvement in Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention? A Pathological Perspective
大塚 文之(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)
2. Single-session versus Staged Procedures for Elective Multi-vessel Percutaneous Coronary Intervention: Observational Study
豊田 俊彬(京都大学 循環器内科)
3. The Development and Validation of SYNTAX Based Clinical Tools for Objective and Tailored Decision-making in Patients with Complex Coronary Atherosclerosis
浅海 泰栄(国立循環器病研究センター 心臓血管内科 心臓血管系集中治療科)
4. Futurability of Coronary Artery Bypass Grafting
秦 広樹(大阪大学 心臓血管外科学)
5. Standardization of Percutaneous Coronary Intervention: Strategies and Challenges Towards Patient-Centered Care within the KiCS-PCI Registry Network
澤野 充明(慶應義塾大学 循環器内科)

(2) 心不全と不整脈の管理～薬物治療からデバイス治療まで～

〈日本語〉

(3月23日(金) 8:00~9:30 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: 萩原 誠久(東京女子医科大学 循環器内科)

池田 隆徳(東邦大学 循環器内科学)

演 者:

1. The Impact of Rhythm Control on Reduction of Heart Failure Hospitalization in Patients with HFPEF and AF
町野 智子(筑波大学 循環器内科)
2. Impact of Catheter Ablation of Atrial Fibrillation on Long-term Clinical Outcomes in Patients with Heart Failure
宮崎 晋介(土浦協同病院 循環器センター 内科)
3. Clinical Impact of Catheter Ablation for Atrial Arrhythmias in Patients with Impaired Left Ventricular Function
野田 崇(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)
4. Outcomes of Catheter Ablation of Atrial Fibrillation in Patients Complicated with Left Ventricular Dysfunction.
池田 礼史(埼玉医科大学国際医療センター 心臓内科)
5. Relationship between Device-detected Subclinical Atrial Fibrillation and the Risk Ofheart Failure in Patients with Reduced Left Ventricular Ejection Fraction
河村 光晴(昭和大学 内科学講座 循環器内科学部門)

6. Outcomes among Cardiac Resynchronization Therapy (CRT) Patients with Nonspecific Intraventricular Conduction Delay versus RBBB, from the National Cardiovascular Data Registry.

河田 宏 (Division of Electrophysiology, Department of Cardiology, University of California, Irvine, USA)

7. Role of Pharmacotherapy on Reducing Sudden Death in Patients with Heart Failure.

志賀 剛 (東京女子医科大学 循環器内科)

(3) 誰がステントグラフト治療の未来を開きますか?—Aortic team の重要性— 〈日本語〉

(3月23日(金) 10:30~12:00 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)

座長: 倉谷 徹 (大阪大学 低侵襲循環器医療学)

宮本 伸二 (大分大学 心臓血管外科)

演 者:

1. Future Prospects of the Aortic Team -Lessons from the UK as an Aortic Cardiologist
鈴木 亨 (Cardiovascular Medicine, University of Leicester, UK)
2. Initial Experience with Endovascular Aortic Aneurysm Repair by Aortic Team -Initiative of Cardiologists
飯田 修 (関西労災病院 循環器内科)
3. The Role of Cardiologist in Aortic Team for Appropriate Management of Aortic Diseases in Consideration of Minimal Invasive Treatment
中田 淳 (Department of Cardiology, Schwabing Hospital Munich, Germany)
4. Multidisciplinary Aortic Team for Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm
福田 宏嗣 (獨協医科大学 心臓・血管外科)
5. Welcome to the New Aortic Team with Neurologists for Arch TEVAR
金 啓和 (大阪大学 心臓血管外科)
6. Our Current Approach to Establish Much Less Invasive EVAR
吉鷹 秀範 (心臓病センター榊原病院 心臓血管外科)

(4) チームで心臓を治す, 癒す: 新しい組織の構築と実践 〈日本語〉

(3月23日(金) 8:00~9:30 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長: 伊藤 浩 (岡山大学 機能制御学 循環器内科)

小林順二郎 (国立循環器病研究センター 心臓血管外科)

演 者:

1. Heart Team Approach to TAVI
前田 孝一 (大阪大学 心臓血管外科)
2. Preoperative Serum Albumin Level and Cognitive Function Influence on Improvement of Frailty after Transcatheter Aortic Valve Implantation
斉藤 和也 (心臓病センター榊原病院 リハビリテーション室)
3. Preventive Care for Patients with Possible Heart Failure by Institutional Team Approach -Challenges of Heart Failure Center-
北川 知郎 (広島大学 医歯薬保健学研究科 循環器内科学)
4. Both Multidisciplinary Team Approach, and the Outreach Network are Essential for Advanced Heart Failure Treatments
瀬口 理 (国立循環器病研究センター 移植医療部)
5. Construction and Practice of Supportive and Palliative Care Team for Refractory Heart Failure Patients
大石 醒悟 (兵庫県立姫路循環器病センター 循環器内科)

(5) 心臓突然死の病態解明と予知・予防 〈日本語〉

(3月23日(金) 13:20~14:50 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長: 清水 渉 (日本医科大学 循環器内科学分野)

堀江 稔 (滋賀医科大学 呼吸循環器内科)

演 者：

1. Early Repolarization is Involved in Ventricular Fibrillation in Patients with Variant Angina
篠原 徹二(大分大学 循環器内科・臨床検査診断学講座)
2. The Significance of Spasm Provocation Test in Patients with Early Repolarization Syndrome
鎌倉 令(国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門不整脈科)
3. Early Repolarization Syndrome Caused by a De Novo *KCND3* Gain-of-Function Mutation
高山幸一郎(滋賀医科大学 呼吸循環器内科)
4. Prognostic Significance of Cardiac Magnetic Resonance in Risk Stratification for Sudden Cardiac Death in Patients with Hypertrophic Cardiomyopathy.
邊 泰樹(榊原記念クリニック 循環器内科)
5. Predictors of Arrhythmic Events in High-risk Hypertrophic Cardiomyopathy Patients with Prophylactic Implantable Cardioverter Defibrillator
鈴木 敦(東京女子医科大学 循環器内科学)
6. Mid-term Outcomes after Use of Wearable Cardioverter-defibrillator(WCD)in Patients at High Risk of Ventricular Arrhythmias
石田 祐司(弘前大学 循環器内科)
7. Risk Stratification Techniques for Prediction of Cardiac Mortality in Patients with Left Ventricular Dysfunction: First Report of the JANIES Study
木下 利雄(東邦大学 循環器内科)
8. Induced Pluripotent Stem Cell-based Modeling of Inherited Arrhythmias
牧山 武(京都大学 循環器内科学)

(6) 循環器集中治療の現状の課題と展望, 循環器医への教育をどうする? 〈日本語〉

(3月23日(金) 13:20~14:50 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 高山 守正(榊原記念病院 循環器内科)

遠藤 智之(東北医科薬科大学病院 救急科)

演 者：

1. The Need for Critical Care Expertise in the Modern CCU Era
川上 将司(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)
2. Impact of a Multidisciplinary Team Approach Including an Intensivist on the Outcomes of Cardiac Critically Ill Patients
嘉嶋勇一郎(信州大学 高度救命救急センター)
3. The Proposal for Improving STEMI Management Based on a Comparison between Japan and the United States
宮地 秀樹(日本医科大学 循環器内科)
4. Post-Cardiac Arrest Care and the Training Has been Progressing
菊地 研(獨協医科大学 心臓・血管内科)
5. Quality Indicators of Palliative Care for Acute Heart Disease Patients.
水野 篤(聖路加国際病院 循環器内科)

(7) Advancement and Limitations of Device Treatment for Structural Heart Disease 〈英語〉

(3月24日(土) 9:40~11:10 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: Satoshi Nakatani(Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

Susheel Kodali(Structural Heart & Valve Center, NYP/Columbia University Medical Center, USA)

Keynote Lecture :

Advancement and Limitations of Device Treatment for Structural Heart Disease

Susheel Kodali(Structural Heart & Valve Center, NYP/Columbia University Medical Center, USA)

演 者：

1. Reduced Aortic Regurgitation and Improved Right Ventricular Contraction Lead to Increased Stroke Volume after Transcatheter Aortic Valve Implantation
Yuji Itabashi (Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo)
2. Impact of N-terminal Pro-B-type Natriuretic Peptide Response on Long-term Prognosis after Transfemoral Aortic Valve Implantation for Severe Aortic Stenosis
Hidehiro Kaneko (Department of Cardiology, Heart Center Brandenburg, Germany)
3. Durability of Transcatheter Heart Valves
Kei Torikai (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)
4. Efficacy and Limitation of Percutaneous Transfemoral Paravalvular Leakage Closure Using AMPLATZER Vascular Plug 2
Hidehiko Hara (Division of Cardiovascular Medicine, Toho University, Ohashi Medical Center, Tokyo)
5. Transcatheter Closure of Patent Foramen Ovale: Clinical Efficacy for Recurrent Cryptogenic Stroke Prevention and Migraine Headache
Teiji Akagi (Department of Cardiovascular Medicine, Okayama University, Okayama)

(8) Explore the Japanese Evidence of Cardiovascular Disease in Gender Medicine -Ask the World-class Expert (英語)

(3月24日(土) 8:00~9:30 第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)

座長：Yasuko Bando (Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)
Peter Collins (National Heart and Lung Institute, Imperial College London and Royal Brompton Hospital, UK)

Keynote Lecture：

Stable Coronary Heart Disease in Women

Peter Collins (National Heart and Lung Institute, Imperial College London and Royal Brompton Hospital, UK)

演 者：

1. Sex Differences of Klotho-related Molecules in Smoking-related Health Damage
Keiko Yamauchi-Takahara (Health and Counseling Center, Osaka University, Toyonaka)
2. Sex Differences in Patients' Characteristics, Treatment and Outcomes in Patients with Acute Myocardial Infarction -Data from the OACIS Registry-
Daisaku Nakatani (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)
3. Are There Gender Differences in Long-Term Outcomes of Coronary Artery Disease Patients in Japan?: Insights from the SHINANO Registry
Kyuhachi Otagiri (Department of Cardiovascular Medicine, Ina Central Hospital, Ina)
4. Evidence for Sex Differences in Japanese Patients with Chronic Heart Failure -A Report from the CHART-2 Study-
Yasuhiko Sakata (Department of Cardiovascular Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai)
5. Gender Differences in the Efficacy and Outcome of Atrial Fibrillation Ablation: Insights from the Kansai Plus Atrial Fibrillation (KPAF) Registry
Nobuaki Tanaka (Cardiovascular Center, Sakurabashi-Watanabe Hospital, Osaka)

(9) 多様化する医療に向けて臨床研究の方向性を再考する 〈日本語〉

(3月24日(土) 8:00~9:30 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長: 安田 聡(国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門)
植田真一郎(琉球大学 臨床薬理学講座)

演 者:

1. Nationwide Real-World Database of the Japanese Acute Myocardial Infarction Registry (JAMIR) Established by Integration of the Regional Registries
小島 淳(熊本大学 生命科学研究部 心不全先進医療共同研究講座)
2. A Large Scale Multicenter Prospective Observational Study to Clarify Complexity of Heart Failure with Preserved Ejection Fraction(HFpEF)-PURSUIT-HFpEF Study-
彦惣 俊吾(大阪大学 循環器内科学)
3. The Role and Utility of JROAD for Diversifying Medical Treatment in Japan
宮本 恵宏(国立循環器病研究センター 循環器病統合情報センター)
4. Proposal of Clinical Trial for Appropriate Deprescribing in Elderly Cad Patients with Polypharmacy: Rationale and Design Based on Patients Registry
徳重 明央(琉球大学 臨床薬理学)
5. Future Directions for Research in Cardio-Oncology
田尻 和子(筑波大学 循環器内科)

(10) 川崎病既往成人の冠動脈病変の病態の評価と管理 〈日本語〉

(3月24日(土) 8:00~9:30 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)

座長: 金澤 英明(慶應義塾大学 循環器内科)
三谷 義英(三重大学 小児科)

演 者:

1. How to Manage the Patients into Adulthood after Kawasaki Disease Complicated with Coronary Artery Abnormalities
田村 俊寛(天理よろづ相談所病院 循環器内科)
2. Real World Condition of Medical Treatment to the Patients with Post Kawasaki Disease at Adult Cardiovascular Department: Single Center for 10 Years Analysis
原 英彦(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)
3. Long-term Outcomes of Coronary Artery Bypass in Kawasaki Disease Patients
田所 直樹(国立循環器病研究センター 心臓血管外科)
4. Coronary Vessel Wall Imaging by Multi-Detector Computed Tomography and Optical Coherence Tomography in Adults after Kawasaki Disease: Risk for ACS
大橋 啓之(三重大学 小児科学)
5. What Role Do the Vasa Vasorum Play in the Sequelae of Coronary Arterial Lesions in Kawasaki Disease?
垣本 信幸(和歌山県立医科大学 小児科)
6. Evaluation of Vascular Inflammation by FDG-PET in Adult Patients with a History of Kawasaki Disease and Coronary Artery Lesions
田原 宣広(久留米大学 内科学講座 心臓・血管内科部門)

(11) わが国の循環器医療提供体制の課題と展望 〈日本語〉

(3月24日(土) 13:50~15:20 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)

座長: 永井 良三(自治医科大学)
小川 久雄(国立循環器病研究センター)

演 者:

1. Current Efforts concerning Cardiovascular Medical Service System in Japan
岡田 佳築(厚生労働省 健康局がん・疾病対策課)
2. The Establishment of Systems for the Treatment of Cardiovascular Diseases in an Aging Society
磯部 光章(榊原記念病院)

3. Necessity of Harmonizing Regional Health Plans and Regional Health Visions with Providing System of Cardiovascular Medicine
今村 知明(奈良県立医科大学 公衆衛生学講座)
4. Efforts on Creating Index of Medical Service System for Acute Coronary Syndrome and Acute Aortic Syndrome to Construct Desirable System.
坂田 泰史(大阪大学 循環器内科学)
5. The Current Status of Cardiovascular Medicine in Japan; Insights from JROAD and JROAD-DPC Database
安田 聡(国立循環器病研究センター)
6. Outpatient Cardiac Rehabilitation as a Post-Discharge Comprehensive Cardiovascular Disease Management Program
後藤 葉一(公立八鹿病院)

(12) 止血異常・出血素因を合併する循環器疾患の診断と治療 〈日本語〉
(3月24日(土) 17:30~19:00 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)

座長: 佐田 政隆(徳島大学 循環器内科学)
堀内 久徳(東北大学加齢医学研究所 基礎加齢研究分野)

演 者:

1. Oral Anticoagulant Therapy for Patients with Atrial Fibrillation Receiving Hemodialysis
赤尾 昌治(国立病院機構京都医療センター 循環器内科)
2. Impact of Baseline Thrombocytopenia on Bleeding and Mortality after Percutaneous Coronary Intervention
渡部 宏俊(京都大学 循環器内科学)
3. What are Appropriate Treatments for Heparin-induced Thrombocytopenia-associated Thromboembolism?
宮田 茂樹(国立循環器病研究センター 臨床検査部)
4. Aortic Stenosis and Acquired von Willebrand Syndrome: Insights from the AVeC Study
三浦 瑞樹(小倉記念病院 循環器内科)
5. Gastrointestinal Bleeding Event during Left Ventricular Assist Device Therapy
齋木 佳克(東北大学 心臓血管外科学分野)

(13) Cardiomyopathy: New Aspect of Diagnosis and Treatment from the Recent Knowledge 〈英語〉
(3月24日(土) 13:50~15:20 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長: Hiroaki Kitaoka (Department of Cardiology and Geriatrics, Kochi University, Kochi)
Carolyn Y. Ho (Harvard Medical School/Cardiovascular Genetics Center at Brigham and Women's Hospital, USA)

Keynote Lecture:

Hypertrophic Cardiomyopathy: Using Genetics to Bring Greater Precision to Medicine
Carolyn Y. Ho (Harvard Medical School/Cardiovascular Genetics Center at Brigham and Women's Hospital, USA)

演 者:

1. Hypertrophic Cardiomyopathy: New Aspects of Diagnosis and Treatment from Recent Knowledge
Perry Elliott (Centre for Inherited Cardiovascular Disease, UK)
2. Genetic Basis and Clinical Significance of Hypertrophic Cardiomyopathy
Toru Kubo (Department of Cardiology and Geriatrics, Kochi Medical School, Kochi University, Kochi)
3. DCM Phenotypes Induced by Knockdown of DAPIT in Zebrafish: A New Insight from Mitochondriopathy
Yoji Nagata (Department of Cardiology, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa)

4. Analysis of Genetic Variants and Chamber Specific RNA Expressions in Patients with Advanced Heart Failure.

Hidetaka Kioka (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

5. IgG Subclasses and Autoantibody against β_1 -Adrenergic Receptor -Similarities and Differences between Dilated and Peripartum Cardiomyopathy

Yuji Nagatomo (Department of Cardiology, Sakakibara Heart Institute, Fuchu)

(14) 超高齢社会と心不全

〈日本語〉

(3月25日(日) 8:00~9:30 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

座長: 木原 康樹(広島大学 循環器内科学)

筒井 裕之(九州大学 循環器内科学)

演 者:

1. Daily Activity of Hospitalized Octogenarians with Heart Failure, the Most Important Determinant of Their Prognosis

阿部 暁(新潟南病院 循環器内科)

2. Hospital-community Partnership to Prevent Hospital Readmission in Elderly Patients with Decompensated Heart Failure in the Metropolitan Area

中根 英策(医学研究所 北野病院 心臓センター)

3. Clinical Pathway by Hospital and Home Care Teamwork Facilitates Integrated Management and Communication for Elderly Patients with Chronic Heart Failure

渡辺 徳(長野県厚生連北信総合病院 循環器内科)

4. How to Activate Multidisciplinary Intervention for Heart Failure in Community-based Care System? Aims of the Hiroshima Heart Health Promotion Project

日高 貴之(広島大学 循環器内科)

5. Comprehensive, Integrated Approach to Support Elderly Patients with Heart Failure and Their Caregivers across Multiple Care Environments

眞茅みゆき(北里大学 看護学部看護システム学)

6. Focusing on Life of Heart Failure -Home Medical Care-

弓野 大(ゆみのハートクリニック)

7. Surrogate Decision Making for End-of-life Care in Elderly Patients with Heart Failure -Needs of Advance Care Planning and Shared-decision Making-

衣笠 良治(鳥取大学 病態情報内科学)

(15) Molecular Mechanism for Chronic Heart Failure: What We Do -And Don't- Know?

〈英語〉

(3月25日(日) 10:30~12:00 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

座長: Yoshihiko Saito (First Department of Internal Medicine, Nara Medical University, Kashihara)

Masafumi Yano (Department of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, Ube)

演 者:

1. Corticotropin Releasing Hormone Receptor 2 is Critical for the Development of Chronic Cardiac Dysfunction

Mikito Takefuji (Department of Cardiology, Nagoya University School of Medicine, Nagoya)

2. Fyn Regulates Subcellular Redox Signaling in Cardiac Remodeling

Shouji Matsushima (Department of Cardiovascular Medicine, Kyushu University Hospital, Fukuoka)

3. Transcriptional Pathways Underling the Development of Heart Failure

Koichiro Kuwahara (Department of Cardiovascular Medicine, Shinshu University, Matsumoto)

4. Dilated Cardiomyopathy (DCM) -linked Heat Shock Protein 60 (HSP60) Mutations Cause Upregulation of ROS and Autophagy through Mitochondrial Dysfunction.

Shinji Makino (Department of Cardiology and Health Center, Keio University, Tokyo)

5. Critical Role of Intercalated Disk Protein Afadin in Cardiac Protection against Chronic Pressure Overload-Induced Heart Failure

Hisakazu Ogita (Division of Molecular Medical Biochemistry, Department of Biochemistry and Molecular Biology, Shiga University of Medical Science, Otsu)

(16) Current Status and Future Perspective of Treatment for the Patient with Critical Limb Ischemia 〈英語〉

(3月25日(日) 10:30~12:00 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)

座長: Kimihiro Komori (Division of Vascular Surgery, Department of Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)

Joseph L. Mills (Baylor College of Medicine, USA)

Keynote Lecture :

Improving Care for Patients with Chronic Limb-Threatening Ischemia: Incorporating SVS WIfI, PLAN (Patient, Limb and ANatomy) and GLASS (Global Anatomic Staging System) into treatment algorithms (from the upcoming Global Vascular Guidelines)

Joseph L. Mills (Baylor College of Medicine, USA)

演 者 :

1. Low-intensity Pulsed Ultrasound is a Novel Strategy for Therapeutic Angiogenesis in Patients with Critical Limb Ischemia

Yukihito Higashi (Department of Cardiovascular Regeneration and Medicine, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, Hiroshima)

2. GCSF-Mobilized CD34+ Cells as a Regenerative Medical Product for Rescue from Critical Limb Ischemia

Atsuhiko Kawamoto (Translational Research Informatics Center, Foundation for Biomedical Research and Innovation, Kobe)

3. Initial Outcome of Endovascular Treatment of Critical Ischemic Limbs in Hemodialysis Patients with Isolated Below-the-knee Disease

Takashi Maruyama (Department of Cardiology, Takatsu General Hospital, Kawasaki)

4. Impact of Hemodialysis on Outcomes for Patients with Critical Limb Ischemia: Assessment Using the Wound, Infection, and Foot Infection Classification

Shin Okamoto (Kansai Rosai Hospital Cardiovascular Center, Amagasaki)

5. Difference in the Proximal Anastomotic Site for the below Ankle.

Kenichi Watanabe (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University School of Medicine, Suita/Department of Cardiovascular Surgery, Suita Tokushukai Hospital, Suita)

(17) Role of Inflammation and Immune System in the Process of Vascular Injury 〈英語〉

(3月25日(日) 8:00~9:30 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)

座長: Toyooki Murohara (Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)

演 者 :

1. The Potential of Seno-therapy for Atherosclerotic Disease

Tohru Minamino (Department of Cardiovascular Biology and Medicine, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata)

2. Macrophage Dynamin-related Protein 1, a Mitochondrial Fission Protein, Accelerates Inflammation and Neointimal Thickening after Vascular Injury
Jun-ichiro Koga (Center for Disruptive Cardiovascular Medicine, Kyushu University, Fukuoka)
3. Inhibition of Fatty Acid Synthase Suppresses Vascular Smooth Muscle Cell Proliferation and Neointimal Formation: Potential Therapeutic Target in Atherosclerosis
Hiroki Matsui (Department of Laboratory Sciences, Gunma University Graduate School of Health Sciences, Maebashi)
4. Importance of the Anti-inflammatory Adipocytokine in Vascular Disease
Koji Ohashi (Molecular Cardiovascular Medicine, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)
5. The Mechanism by Which Lifestyle-related Diseases Cause Atherosclerosis: The Role of Innate Immune System
Daiju Fukuda (Department of Cardio-Diabetes Medicine, Institute of Biomedical Science, Tokushima University Graduate School, Tokushima)

(18) Mechanisms and Novel Therapeutic Targets of Cardiovascular Dysfunction in Metabolic Diseases
〈英語〉

(3月25日(日) 10:30~12:00 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)

座長: Ken-ichi Hirata (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Internal Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe)

Daniel Kelly (Penn Cardiovascular Institute, University of Pennsylvania, USA)

Keynote Lecture:

Fuel Metabolic Checkpoints as Targets for Cardiometabolic Disease

Daniel Kelly (Penn Cardiovascular Institute, University of Pennsylvania, USA)

演 者:

1. The Roles of Lactate Metabolism in Cardiac Function
Norihiro Takeda (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo/PRESTO, JST, Tokyo)
2. Ketone Body Metabolism and Cardiovascular Diseases
Yuichiro Arima (Department of Cardiovascular Medicine, Kumamoto University, Kumamoto)
3. Elovl6-driven Fatty Acid Metabolism Regulates Hypertrophic Response in the Heart Subjected to Pressure Overload in Mice
Hiroaki Sunaga (Department of Cardiovascular Medicine, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi)
4. TTC39B Inhibition Attenuate Ubiquitination and Proteasomal Degradation of LXR and Improve Both Atherosclerosis and Non-Alcoholic Steatohepatitis
Masahiro Koseki (Cardiovascular Medicine, Osaka University, Suita)

(19) 症例から学ぶ肺高血圧症の病態~From Bed to Bench~
〈日本語〉

(3月25日(日) 13:20~14:50 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長: 桑名 正隆 (日本医科大学 アレルギー膠原病内科学分野)

瀧原 圭子 (大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター/大阪大学 循環器内科学)

演 者:

1. Contribution of Multiple Risk Factors to the Development of Pulmonary Hypertension after Interferon Therapy for Hepatitis C Virus Infection
世良 英子 (大阪大学 循環器内科学)

2. Immunosuppressive Therapy Ameliorates Severe Pulmonary Hypertension and Refractory Vasospastic Angina in a Patient with Eosinophilic Granulomatosis with Polyangiitis
紺野 亮(東北大学 循環器内科学)
3. Vasoconstriction Plays a Crucial Role in Severe Pulmonary Arterial Hypertension
阿部弘太郎(九州大学 循環器内科学)
4. Inhibition of Endothelin-1 Actions Improved Systemic Sclerosis-related Vasculopathy through Anti-oxidant Effects Leading to Increased Nitric Oxide Bioavailability
八木 秀介(徳島大学 医歯薬学研究部 循環器内科学)
5. Hypoxia Exacerbates Pulmonary Hypertension in a Patient with BMPR2 Mutation: Reprogramming of Smooth Muscle Cells
中村 一文(岡山大学 循環器内科学)

- (20) 併存疾患における最新至適高血圧治療を探る 〈日本語〉
(3月25日(日) 15:10~16:40 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)
座長: 檜垣 實男(愛媛大学 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学)
前村 浩二(長崎大学 循環器内科学)

演 者:

1. Association of Blood Pressure Control Level with Left Ventricular Morphology and Function and with Subclinical Cerebrovascular Disease
中西 弘毅(Department of Medicine, Columbia University Medical Center, USA)

特別発言: 脳卒中専門家の立場から

北園 孝成(九州大学 病態機能内科学)

2. Optimal Blood Pressure Targets in Hypertensive Patients with Coronary Artery Disease: Focusing on Age and Left Ventricular Systolic Fraction
菊池 規子(東京女子医科大学 循環器内科学)
3. Hypertension and the Risk of Adverse Events in Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry
石井 充(国立病院機構京都医療センター 循環器内科)

特別発言: 心臓病専門家の立場から

甲斐 久史(久留米大学医療センター 循環器内科)

4. Points to Keep in Mind for Treatment of the Elderly Hypertensive Patients with Mild Cognitive Impairment and Frailty
石川 譲治(東京都健康長寿医療センター 循環器内科)

特別発言: 老年病専門家の立場から

楽木 宏実(大阪大学 老年・総合内科学)

- (21) 糖尿病性心血管合併症の病態と新たな治療 〈日本語〉
(3月25日(日) 13:20~14:50 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)
座長: 湊口 信也(岐阜大学 循環病態学・呼吸病態学)
木村 剛(京都大学医学部附属病院 循環器内科)

演 者:

1. Diabetic Vascular Injury is Consisted of Several Dysglycemic Mechanisms
村田 誠(群馬県立心臓血管センター 循環器内科)
2. Influence of Slow Peak Post-challenge Plasma Glucose Level on Syntax Score
谷田 篤史(日本医科大学 循環器内科)
3. Different Features of Coronary Plaques in Patients with Diabetes Mellitus Comparing with Dyslipidemia: A Speckle-tracking Intravascular Ultrasound Study
川崎 雅規(岐阜大学 再生医科学循環・呼吸病態学)

4. Relation between Low-density Lipoprotein Cholesterol/Apolipoprotein B Ratio and Triglyceride-rich Lipoproteins in Patients with Coronary Artery Disease and Diabetes Mellitus

谷 樹昌(日本大学 循環器内科)

5. Postprandial Hyperinsulinemia is Involved in Cardiovascular Disease in Type 2 Diabetes

槇野 久士(国立循環器病研究センター)

6. New Emergence of Proteinuria in Diabetic Patients is Related to Continuous Blood Pressure Control

副島 弘文(熊本大学 循環器内科)

14. ジョイントシンポジウム

〔海外〕

(1) Meet the ESC in Japan Session 1

〈英語〉

Atrial Fibrillation and Heart Failure -An Underestimated Combination

(3月23日(金) 10:30~12:00 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: Jeroen J. Bax (Leiden University Medical Center, The Netherlands)

Ken Okumura (Division of Cardiology, Saiseikai Kumamoto Hospital Cardiovascular Center, Kumamoto)

演 者:

1. Understanding Atrial Fibrillation: New Insights in Pathophysiology
Barbara Casadei (University of Oxford, UK)
2. Prognostic Implications of Atrial Fibrillation in Heart Failure
Toshihisa Anzai (Department of Cardiovascular Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo)
3. Drug Therapy of Heart Failure in Patients with Atrial Fibrillation: How to Do It Right?
Michel Komajda (Department of Cardiology Hopital Saint Joseph Paris France, France)
4. Results and Implications of AF Ablation in Heart Failure Patients
Koichi Inoue (Cardiovascular Center, Sakurabshi Watanabe Hospital, Osaka)

(2) KSC-JCS Joint Symposium

Lipid Lowering Therapy in the Current Era for Patients with Coronary Artery Disease 〈英語〉

(3月24日(土) 8:00~9:30 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)

座長: Hiroyuki Daida (Department of Cardiology, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo)

Dong Hoon Choi (Yonsei University, Korea)

演 者:

1. Is Personalized Lipid-Lowering Therapy Needed in High-Risk Patients?
Sang-Hak Lee (Yonsei University College of Medicine, Korea)
2. Antiplatelet Therapy in East Asians: What is Different?
Kyung Woo Park (Seoul National University Hospital, Korea)
3. JAS Guidelines 2017 for Secondary Prevention
Hidenori Arai (National Center for Geriatrics and Gerontology, Obu)
4. Lipid Lowering Therapy in the Current Era for Patients with Coronary Artery Disease
Katsumi Miyauchi (Department of Cardiology, Juntendo University School of Medicine, Tokyo)

(3) CSC-JCS Joint Symposium

New Devices for Interventional Cardiology

〈英語〉

(3月24日(土) 13:50~15:20 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: Junya Ako (Department of Cardiovascular Medicine, Kitasato University, Sagami-hara)

Xianghua Fu (The Second Hospital of Hebei Medical University, China)

演 者:

1. Comparison of the Impact of 6-French and 7-French Sheaths on Long-term Radial Artery Occlusion after Transradial Coronary Intervention
Xianghua Fu (The Second Hospital of Hebei Medical University, China)
2. Latest Evidence of Endovascular Therapy for Patients with Peripheral Artery Disease
Osamu Iida (Kansai Rosai Hospital, Amagasaki)
3. New Devices in Structural Heart Disease Therapy
Hidehiko Hara (Division of Cardiovascular Medicine, Toho University, Ohashi Medical Center, Tokyo)
4. Development of Cardiovascular Devices: China Case
Shen Li (Shanghai Institute of Cardiovascular Diseases and Department of Cardiology Zhongshan Hospital Fudan University, China)

(4) Meet the ESC in Japan Session 2

Aortic Valve Disease

〈英語〉

(3月24日(土) 17:30~19:00 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: Stephan Achenbach (University of Erlangen, Germany)

Satoshi Nakatani (Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

1. Aortic Valve Disease in Japan: An Updated Status
Kentaro Hayashida (Keio University School of Medicine, Tokyo)
2. Echocardiography to Assess Aortic Valve Stenosis
Jeroen J. Bax (Dept of Cardiology, Leiden University Medical Center, The Netherlands)
3. Aortic Regurgitation -Threshold for Surgical Intervention-
Takashi Kuni-hara (Department of Cardiovascular Surgery, the Cardiovascular Institute, Tokyo)
4. Fausto J. Pinto (University of Lisbon, Portugal)

(5) AHA-JCS Joint Symposium

Management and Treatment of Hypertrophic Cardiomyopathy (HCM): A Clinical Perspective

〈英語〉

(3月24日(土) 17:30~19:00 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長: Yuichiro Maekawa (Internal Medicine III, Hamamatsu University School of Medicine, Hamamatsu)

Ivor J. Benjamin (Medical College of Wisconsin, USA)

演 者:

1. Clinical Utility of Biomarkers in Hypertrophic Cardiomyopathy
Hiroaki Kitaoka (Department of Cardiology and Geriatrics, Kochi University, Kochi)
2. Management of Atrial Fibrillation in Hypertrophic Cardiomyopathy
Seiji Takatsuki (Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo)
3. Surgical Management of Left Ventricular Outflow Obstruction in Hypertrophic Cardiomyopathy
Shuichiro Takanashi (Department of Cardiovascular Surgery, Sakakibara Heart Institute, Fuchu)

4. Early Detection of End-stage Hypertrophic Cardiomyopathy
Yasushi Sakata (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University
Graduate School of Medicine, Suita)
5. Hypertrophic Cardiomyopathy; Diagnosis and Treatment
Mark Link (UT Southwestern Medical Center, USA)
6. Strategies for Risk Stratification and Prevention of Sudden Death in Hypertrophic
Cardiomyopathy
Paul Wang (Stanford University, USA)

(6) Asian Session

Emerging Biomarkers in Cardiovascular Diseases

〈英語〉

(3月25日(日) 8:00~9:30 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)

座長: Koji Maemura (Department of Cardiovascular Medicine, Nagasaki University
Graduate School of Biomedical Sciences, Nagasaki)
Youngkeun Ahn (Department of Cardiology, Chonnam National University
Hospital, Korea)

演 者:

1. Biomarkers in Heart Failure
Yukihito Sato (Department of Cardiology, Hyogo Prefectural Amagasaki
General Medical Center, Amagasaki)
2. Emerging Biomarkers in Cardiovascular Disease
Jang-Whan Bae (Chungbuk National University, College of Medicine, Korea)
3. Novel Biomarkers for Heart Failure with Preserved Ejection Fraction
Chokai Wu (National Taiwan University Hospital, Taiwan)
4. Novel Biomarkers in Young Patients with Acute Coronary Syndromes
Sazli Shahlan Kasim (UiTM Teaching Hospital Puncak Alam, University
Technology MARA, Malaysia)
5. The Role of Biomarkers in Optimizing Heart Failure Treatment Strategies
Jorge Sison (Section of Cardiology, Medical Center Manila, Philippines)

(7) ACC-JCS Joint Symposium

Antidiabetic Drug and Heart Failure

〈英語〉

(3月25日(日) 15:10~16:40 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)

座長: Hiroyuki Tsutsui (Department of Cardiovascular Medicine, Kyushu
University Graduate School of Medical Science,
Fukuoka)
Andrew P. Miller (Cardiovascular Associates, USA)

演 者:

1. Diabetes and Heart Failure -Diabetic Cardiomyopathy and Beyond
Yasuko K. Bando (Department of Cardiology, Nagoya University Graduate
School of Medicine, Nagoya)
2. Cardioprotective Effects of New Diabetes Drug
Koichi Node (Department of Cardiovascular Medicine, Saga University, Saga)
3. Diabetes and Heart Failure
Lee R. Goldberg (University of Pennsylvania, USA)
4. CV Outcome Trials of Diabetic Drugs
Andrew P. Miller (Cardiovascular Associates, USA)

(8) ESC-JCS Joint Symposium

Imaging or Physiology: Which is More Useful for Coronary Artery Disease? 〈英語〉

(3月25日(日) 13:20~14:50 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長: Takashi Akasaka (Department of Cardiovascular Medicine, Wakayama Medical University, Wakayama)

Fausto J. Pinto (University of Lisbon, Portugal)

1. Session Objectives

Takashi Akasaka (Department of Cardiovascular Medicine, Wakayama Medical University, Wakayama)

2. Physiology (FFR & iFR) is Essential in Daily Practice

Martine Gilard (Département de Cardiologie CHRU La Cavale Blanche, France)

3. FFRct may Change Daily Clinical Practice; From The ADVANCE Registry Experience

Tomohiro Kawasaki (Cardiovascular Center, Shin-Koga Hospital, Kurume)

4. Should Coronary Imaging Change Treatment Strategies -What is the Evidence?

Stephan Achenbach (Department of Cardiology, Friedrich-Alexander-University Erlangen-Nuremberg, Germany)

5. Oct in Coronary Artery Disease

Takashi Kubo (Department of Cardiovascular Medicine, Wakayama Medical University, Wakayama)

6. Fausto J. Pinto (University of Lisbon, Portugal)

〔国内〕

(1) 日本成人先天性心疾患学会ジョイントセッション

〈日本語〉

成人先天性心疾患の臓器連関を考える

(3月24日(土) 13:50~15:20 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)

座長: 伊藤 浩(岡山大学 機能制御学(循環器内科))

小垣 滋豊(大阪大学 小児科学)

演 者:

1. 心肝連関

藤沢 知雄(済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科)

2. 心腎連関

瀬尾 由広(筑波大学 循環器内科)

3. 心血管連関

村上 智明(千葉県こども病院 循環器科)

4. 心肺連関

大内 秀雄(国立循環器病研究センター 小児循環器科)

5. 骨格筋・カヘキシー連関

稲井 慶(東京女子医科大学 循環器小児科)

(2) 日本集中治療医学会ジョイントセッション

〈日本語〉

最新のガイドラインを知る

(3月24日(土) 13:50~15:20 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 増山 理(兵庫医科大学 循環器内科)

笠岡 俊志(熊本大学 救急・総合診療部)

演 者:

1. 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017~急性心不全を中心に~

筒井 裕之(九州大学 循環器内科学)

2. ARDS 診療ガイドライン2016—最新知見、GRADE の活用を交えて—

橋本 悟(京都府立医科大学 集中治療部)

3. 急性腎障害(AKI)診療ガイドライン2016

土井 研人(東京大学 救急科学)

(3) 心筋生検研究会ジョイントセッション 〈日本語〉

ミトコンドリア研究の新展開と心不全治療への期待

(3月24日(土) 16:30~17:30 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)

座長: 武田 充人(北海道大学 小児科)

金森 寛充(岐阜大学 循環病態学)

演 者:

Opneng Remarks

尾上 健児(奈良県立医科大学 第一内科)

1. mitochondria dynamics~mitophagy と心機能~

山口 修(大阪大学 循環器内科学)

2. ミトコンドリア心筋症の病理と病態~総論から最新の話題まで~

武田 充人(北海道大学 小児科)

3. ミトコンドリアをターゲットとした心不全治療

井手 友美(九州大学 循環器内科学)

Closing Remarks

金森 寛充(岐阜大学 循環病態学)

(4) 日本機械学会ジョイントセッション 〈日本語〉

医療機器開発研究を支える仕組みを再考する

(3月25日(日) 8:00~9:00 第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)

座長: 梶谷 文彦(日本医療研究開発機構/元岡山大学/元川崎医科大学)

和田 成生(大阪大学 基礎工学研究科)

演 者:

1. 大阪大学国際医工情報センターの取り組み

坂田 泰史(大阪大学 循環器内科学)

2. 医療ニーズに基づく医療機器開発の重要性

谷下 一夫(元慶應義塾大学)

(5) 日本心臓核医学会ジョイントセッション 〈日本語〉

「循環器診療に核医学を活かす」—核医学検査で何が分かるのか・問題点は何か?—

(3月25日(日) 13:20~14:50 第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)

座長: 中嶋 憲一(金沢大学 核医学)

竹石 恭知(福島県立医科大学 循環器内科学)

演 者:

1. 虚血・非虚血性心疾患を鑑別する

木曾 啓祐(国立循環器病研究センター 放射線部)

2. 核医学的手法を用いた虚血性心疾患の治療戦略

納谷 昌直(北海道大学 循環器内科)

3. 心不全のリスク層別化と予後

笠間 周(群馬大学 循環器内科学)

4. 心筋症(含むサルコイドーシス)の核医学診断

福島 賢慈(東京女子医科大学 画像診断学核医学講座)

(6) 日本心エコー図学会ジョイントセッション 〈日本語〉

新しい心エコー・モダリティによる心機能評価の最近の展開

(3月25日(日) 13:20~14:50 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)

座長: 大手 信之(名古屋市立大学 心臓・腎高血圧内科学)

増山 理(兵庫医科大学 循環器内科)

演 者:

1. 2D speckle tracking による左心機能評価

楠瀬 賢也(徳島大学 循環器内科)

2. 2D speckle tracking による右心機能評価
田中 秀和(神戸大学 循環器内科学)
3. 右心機能評価における 3D(4D)echo の有用性
石津 智子(筑波大学 臨床検査医学)
4. 左心機能評価における 3D(4D)echo(speckle tracking を含む)の有用性
浅沼 俊彦(大阪大学 保健学科)
5. Vector Flow Mapping 法による左室内渦流の可視化と心機能
若見 和明(名古屋市立大学 循環器内科)

15. ラウンドテーブルディスカッション

- (1) ハイリスク弓部大動脈疾患に対する治療の将来 〈日本語〉
(3月23日(金) 13:20~14:50 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)

座長: 古森 公浩(名古屋大学 血管外科)
大北 裕(神戸大学 心臓血管外科)

演 者:

1. Could Traditional Graft Replacement of Aortic Arch in High Risk Patients be Surviving in the TEVAR Era?
湊谷 謙司(京都大学 心臓血管外科学)
2. Total Endovascular Arch Repair
倉谷 徹(大阪大学 低侵襲循環器医療学)
3. Current State and Future Perspective of Treatment for Aortic Arch Diseases in High Risk Patients
志水 秀行(慶應義塾大学 外科(心臓血管))

- (2) 感染性疾患に対する内科治療・外科治療の最前線 〈日本語〉
(3月24日(土) 9:40~11:10 第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)

座長: 齋木 佳克(東北大学 心臓血管外科学)
泉 知里(天理よろづ相談所病院 循環器内科)

演 者:

1. The Multi-modality Imaging in the Diagnosis of Prosthetic Valve Endocarditis
天野 雅史(天理よろづ相談所病院 循環器内科)
2. Early Surgical Indications in Patients with Active Infective Endocarditis: An Up-to-date Review
大原 貴裕(東北医科薬科大学 地域医療学)
3. Surgical Management of Infective Aneurysm and Prosthetic Graft Infection after Thoracic Aortic Replacement
川本 俊輔(東北医科薬科大学 心臓血管外科)
4. First Strategy for Infective Endocarditis with Various Complications ~Analysis from Multicenter Study~
吉岡 大輔(大阪大学 心臓血管外科)
5. Neurologic Complications in Infective Endocarditis: Diagnosis and Management Based on the Revised Domestic Guidelines
豊田 一則(国立循環器病センター 脳血管内科)
6. How to Treat CIEDs Infections
安藤 献児(小倉記念病院 循環器内科)

- (3) 時間軸で考える心不全治療 〈日本語〉
(3月24日(土) 8:00~9:30 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長: 佐藤 直樹(日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科)
絹川弘一郎(富山大学 第二内科)

演 者：

1. Time is Muscle in Acute Heart Failure: The Sooner, the Better.
白石 泰之(慶應義塾大学 循環器内科)
2. Reconsideration of Therapeutic Strategies for Acute Heart Failure: The Importance of Time-axis in Acute Setting
石原 嗣郎(日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科)
3. Managements for Stage A and B Heart Failure to Prevent the Progression to Stage C and D Heart Failure
岸 拓弥(九州大学循環器病未来医療研究センター 循環器疾患リスク予測共同研究部門)
4. How to Construct Optimal Therapeutic Strategy at Appropriate Timing Considering the Time Course of Heart Failure?
今村 輝彦(Division of Cardiology, University of Chicago Medicine, USA)

(4) 大規模臨床試験の現状と課題～Pitfallにはまらないために～ 〈日本語〉

(3月24日(土) 17:30～19:00 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長：代田 浩之(順天堂大学 循環器内科学)

尾崎 行男(藤田保健衛生大学 循環器内科)

演 者：

1. Complementary Role of Randomized Trials and Registry
木村 剛(京都大学 循環器内科学)
2. How to Perform Clinical Trials/Studies Successfully: Report from Tohoku University
下川 宏明(東北大学 循環器内科学)
3. Knowledge Gap in Anticoagulation Therapy for Atrial Fibrillation: Can the Evidence Derived from the Recent Clinical Trials on Direct Oral Anticoagulants be Applied Similarly to the Very Elderly Patients?
奥村 謙(済生会熊本病院 循環器内科)
4. What are Our Primary Responsibilities as Clinicians or Scientists for the Patients Suffering from Cardiovascular Diseases?
北風 政史(国立循環器病研究センター 臨床研究部)
5. How to Build up Japanese Specific Evidence for the Japanese Patients
宮内 克己(順天堂大学 循環器内科)

(5) Fontan 循環終末期における治療とその限界～緩和医療か？移植医療か？～ 〈日本語〉

(3月25日(日) 15:10～16:40 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)

座長：小垣 滋豊(大阪大学 小児科)

北川 哲也(徳島大学 心臓血管外科学分野)

演 者：

1. Surgical Treatment and Its Limitation at the Failing Fontan Circulation
上野 高義(大阪大学 低侵襲循環器医療学)
2. Mechanical Circulatory Support for Failing Fontan
平田 康隆(東京大学 心臓外科)
3. Heart Transplantation in Patients with a Univentricular Physiology
福嶋 教偉(国立循環器病研究センター 移植医療部)
4. Is Every Failed Fontan a Candidate for Heart Transplantation?
清水美妃子(東京女子医科大学 循環器小児科)
5. Adult Congenital Heart Disease Specialist View on End of Life Care of Failing Fontan
福田 旭伸(聖路加国際病院 循環器内科)
6. Palliative Care, Including Advance Care Planning, for Adults with Congenital Heart Disease
菅野 康夫(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)

- (6) 在宅で診る高齢者循環器疾患の課題と展望 〈日本語〉
 (3月25日(日) 13:20~14:50 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)
 座長: 安藤 眞一(九州大学病院 睡眠時無呼吸センター)
 久保田 功(山形大学)

演 者:

1. Data Management for Home Health Monitoring
黒田 知宏(京都大学 医療情報企画部)
2. Early Detection of Congestion in Home-based Heart Failure Management
弓野 大(ゆみのハートクリニック)
3. Noninvasive Home Tele-Monitoring Using Respiratory Stability Index for Patients with Chronic Heart Failure
高川 順也(射水市民病院 循環器科)
4. Current Status and Problems of Development of Patient Information Measurement Devices at Home Medical Care
志賀 利一(オムロン ヘルスケア株式会社 技術開発統轄部)
5. Handling Personal Information Regarding Home Medical Care Patient
坂本 団(大川・村松・坂本法律事務所)

16. トピック

- (1) 日本における DT 治療を考える 〈日本語〉
 (3月23日(金) 10:30~12:00 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
 座長: 塩瀬 明(九州大学 循環器外科学)
 戸田 宏一(大阪大学 心臓血管外科学)

演 者:

1. The Destination Therapy; Where is the Ultimate Destination?
秦 広樹(大阪大学 心臓血管外科学)
2. Health Economic Impact of DT(Destination Therapy)
田倉 智之(東京大学 医療経済政策学)
3. Home-based Self-Care and Multidisciplinary Support for Patients with Destination Therapy Left Ventricular Assist Device
肥後 太基(九州大学 循環器内科学)
4. Destination Therapy in Japan: Lessons Learned from the Experience on Patients with Bridge to Transplantation Therapy and Clinical Study of Destination Therapy
瀬口 理(国立循環器病研究センター 移植医療部)
5. How to Expand Ventricular Assist Device Therapy Outside the Urban Area?
絹川弘一郎(富山大学 第二内科)
6. What Will be the Impediments to Sustainable Destination Therapy?
齋木 佳克(東北大学 外科病態学講座 心臓血管外科学分野)

- (2) AF の抗血栓治療 up to date~最適な抗血栓療法を目指して~ 〈日本語〉
 (3月23日(金) 16:00~17:30 第2会場 大阪国際会議場 5階 小ホール)
 座長: 是恒 之宏(国立病院機構大阪医療センター)
 清水 渉(日本医科大学 循環器内科学)

演 者:

1. Real-World Underdose Usage of DOAC for Stroke Prevention in Atrial Fibrillation
山下 武志(心臓血管研究所 循環器内科)
2. Importance of Adherence to Anticoagulants
志賀 剛(東京女子医科大学 循環器内科)
3. Recent Advances on Peri-operative Management of Anticoagulation for Atrial Fibrillation
井上 耕一(桜橋渡辺病院 循環器内科)

4. Bleeding Complications in Patients with Atrial Fibrillation Receiving Anticoagulants: Up-to-Date
赤尾 昌治(国立病院機構京都医療センター 循環器内科)
5. Up to Date of Acute Treatment in Stroke
木村 和美(日本医科大学 神経内科分野)
6. Diagnosis and Treatment for Embolic Strokes of Undetermined Source (ESUS)
矢坂 正弘(国立病院機構九州医療センター 脳血管・神経内科)

- (3) FH awareness～いま, FH を再考する～ 〈日本語〉
(3月24日(土) 9:40～11:10 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)
座長: 山下 静也(りんくう総合医療センター, 大阪大学 総合地域治療学/循環器内科学)
江頭 健輔(九州大学 循環器病未来医療研究センター)

演 者:

1. Promotion of FH Awareness in Japan: Messages from Japan Atherosclerosis Society (JAS)
山下 静也(りんくう総合医療センター, 大阪大学 総合地域治療学/循環器内科学)
2. Guideline for Diagnosis and Treatment of Familial Hypercholesterolemia
斯波真理子(国立循環器病研究センター研究所 病態代謝部)
3. Clinical Characteristics and Their Outcome of Heterozygous Familial Hypercholesterolemia with Coronary Artery Disease
代田 浩之(順天堂大学 循環器内科学)
4. Lesson from Explore-J Study.
中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)
5. Clinical Implication of Genetic Diagnosis in Familial Hypercholesterolemia
野原 淳(金沢大学 循環器病態内科学)
6. Atherogenicity through Known and Unknown Mechanisms in FH
小関 正博(大阪大学 循環器内科学)

- (4) 冠動脈完全閉塞病変への挑戦 〈日本語〉
(3月25日(日) 8:00～9:30 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)
座長: 伊苅 裕二(東海大学 循環器内科学)
志手 淳也(大阪府済生会中津病院)

演 者:

1. The Development of Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion
中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)
2. Appropriateness of Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion
門田 一繁(倉敷中央病院 循環器内科)
3. Imaging Information for Percutaneous Coronary Intervention in Chronic Total Occlusions
角辻 暁(大阪大学 国際循環器学)
4. How to Improve Success in CTO PCI
大辻 悟(東宝塚さとう病院 循環器内科)

- (5) どう診る、どうする、拡張不全!～病態、診断、治療の最前線～ 〈日本語〉
(3月25日(日) 15:10～16:40 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)
座長: 増山 理(兵庫医科大学 循環器内科)
福本 義弘(久留米大学 心臓・血管内科部門)

演 者:

1. Diastolic Dysfunction in Adults with Congenital Heart Disease
建部 俊介(東北大学 循環器内科)
2. Strategies for the Diagnosis of Cardiac Amyloidosis
田原 宣広(久留米大学 内科学講座 心臓・血管内科部門)

3. Impact of Left Ventricular Longitudinal Myocardial Function on the Progression of Diastolic Function in Diabetes Mellitus
田中 秀和(神戸大学 循環器内科学分野)
4. The Clinical Characteristics and Features of HFpEF Patients with Atrial Fibrillation -A Perspective from PURSUIT-HFpEF Registry-
彦惣 俊吾(大阪大学 循環器内科学)
5. Non-cardiac Comorbidities in Patients with Heart Failure with Preserved Ejection Fraction
衣笠 良治(鳥取大学 病態情報内科学)

17. コントロバーシー

- (1) 低左心機能 MR に対する治療の最前線 〈日本語〉

(3月23日(金) 8:00~9:30 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)

座長: 松居 喜郎(北海道大学 循環器・呼吸器外科)

山本 一博(鳥取大学 病態情報内科学)

演 者:

1. Optimal Non-surgical Management for Heart Failure with Secondary Mitral Valve Regurgitation
衣笠 良治(鳥取大学 病態情報内科学)
2. Surgical Strategy for End Stage DCM-MR: Repair or Replacement?
戸田 宏一(大阪大学 心臓血管外科学)
3. Surgical Results for Functional Mitral Regurgitation -Left Ventriculoplasty and Mitral Surgery
新宮 康栄(北海道大学 循環器・呼吸器外科)
4. Percutaneous Edge-to-edge Repair for Severe Mitral Regurgitation Associated with Left Ventricular Dysfunction
大野 洋平(東海大学 循環器内科学)

- (2) さあ困った! HFrEF か? HFpEF か? 〈日本語〉

(3月24日(土) 9:40~11:10 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長: 磯部 光章(榊原記念病院)

安村 良男(尼崎中央病院 循環器内科)

演 者:

1. Left Ventricular Ejection Fraction is Essential for Assessing Pathophysiology of Heart Failure
大門 雅夫(東京大学 検査部)
2. Limitations of Classifying Heart Failure by Left Ventricular Ejection Fraction
大谷 朋仁(大阪大学 循環器内科学)
3. What is HFmrEF Which We should Handle as HFrEF?
上田 友哉(奈良県立医科大学 第1内科)
4. Transition of Left Ventricular Ejection Fraction in Heart Failure: Is HFmrEF Closer to HFpEF than to HFrEF?
坂田 泰彦(東北大学 循環器内科)
5. Heart Failure with Mid-Range Ejection Fraction
猪又 孝元(北里大学北里研究所病院 循環器内科)

- (3) 日本人における至適脂質低下療法とは? 〈日本語〉

(3月24日(土) 13:50~15:20 第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)

座長: 平山 篤志(日本大学 循環器内科)

倉林 正彦(群馬大学 循環器内科学)

演 者：

1. Intensive LDL-C Lowering Strategy in Patients with Acute Coronary Syndrome -How Far should We Go?
岩田 洋(順天堂大学 循環器内科学)
2. Early Aggressive Lipid-lowering Therapy in Patient with Acute Coronary Syndrome (ACS)
深町 大介(日本大学 循環器内科)
3. Lipid Management in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: Below 70 is not the Common Therapeutic Target for All
坂本 知浩(済生会熊本病院心臓血管センター 循環器内科)
4. Our Novel Approach for the Treatment of Diabetic Patients with Severe Coronary Artery Disease
道下 一郎(横浜栄共済病院 循環器内科)

- (4) 慢性血栓性肺高血圧症における治療のコントロールシー 〈日本語〉
(3月25日(日) 8:00~9:30 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
座長：荻野 均(東京医科大学 心臓血管外科)
伊藤 浩(岡山大学 機能制御学(循環器内科))

演 者：

1. The Changing Landscape of Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension Management: The Emergence of Hybrid Treatment Approach
大郷 剛(国立循環器病研究センター 心臓血管内科 肺循環科)
2. Progress in Medical Treatment of CTEPH and Its Limitation
田邊 信宏(千葉大学 先端肺高血圧症医療学)
3. Indication and Limitation of Balloon Pulmonary Angioplasty for Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension
松原 広己(岡山医療センター 循環器科)
4. State of the Art Pulmonary Endarterectomy for CTEPH
荻野 均(東京医科大学 心臓血管外科)

- (5) 心不全治療臨床試験におけるエンドポイントを探る 〈日本語〉
(3月25日(日) 10:30~12:00 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)
座長：猪又 孝元(北里大学北里研究所病院 循環器内科)
川上 利香(奈良県立医科大学 第一内科)

演 者：

1. Basic Principles on Clinical Trial of Medical Devices for Heart Failure in Regulatory Approval
方 眞美(医薬品医療機器総合機構 医療機器審査第三部)
2. What is the Objective in the Care of Heart Failure Patients in Aging Society?
彦惣 俊吾(大阪大学 循環器内科学)
3. Improvement of Survival Rate after Transcatheter Aortic Valve Implantation is Important Even in Elderly Patients with Severe Symptomatic Aortic Stenosis
目黒健太郎(北里大学 循環器内科学)
4. Quality of Life Shift after Percutaneous Transluminal Balloon Aortic Valvuloplasty in the Era of Transcatheter Aortic Valve Implantation
福田 幸弘(広島大学 循環器内科学)

- (6) 心房細動に対する外科治療 vs 内科治療 〈日本語〉
(3月25日(日) 13:20~14:50 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)
座長：埴田 浩(福井大学 循環器内科学)
新田 隆(日本医科大学 心臓血管外科学)

演 者：

1. Catheter Ablation for Persistent Atrial Fibrillation -Current Status and Future Direction-
宮崎 晋介(福井大学 循環器内科)
2. Efficacy of the Maze Procedure for the Patients with Longstanding Persistent AF
石井 庸介(日本医科大学 心臓血管外科)
3. Efficacy and Limitations of Percutaneous Left Atrial Appendage Closure for the Prevention of Ischemic Stroke in Patients with Atrial Fibrillation
永瀬 聡(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)
4. Surgical Left Atrial Appendage Exclusion for Stroke Risk Reduction in Patients Undergoing Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting
桑木 賢次, 天野 篤(順天堂大学 心臓血管外科学)

(7) Low risk, Intermediate risk AS に対する治療法は？—TAVI or AVR— 〈日本語〉

(3月25日(日) 15:10~16:40 第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

座長：富永 隆治(福岡和白病院)

南都 伸介(西宮市立中央病院)

演 者：

1. 5 Years Outcomes of TAVI Mainly Focused on the Function of Implanted Trans-catheter Aortic Valve
溝手 勇(大阪大学 循環器内科学)
2. Is TAVI for Low-intermediate Risk Reasonable? Inappropriate Risk Assessment with STS Score Calculator
塩瀬 明(九州大学 循環器外科学)
3. Transcatheter Aortic Valve Implantation, Current Status and Future Perspectives
林田健太郎(慶應義塾大学 循環器内科)
4. Surgical Aortic Valve Replacement is Still the Gold Standard for Majority of Aortic Stenosis, but Needs to be Improved
浅井 徹(滋賀医科大学 心臓血管外科)

18. ミート・ザ・エクスパート

(1) Passion for Developing the Artificial Heart -Save Heart Failure Patients All Around the World-

〈英語〉

(3月23日(金) 13:20~14:05 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)

座長：Hikaru Matsuda(Higashi-Takarazuka Satoh Hospital, Takarazuka)

演 者：

Rotary Blood Pump Bearing Design -Predicted and Achieved Results

Robert Jarvik(Jarvik Heart, Inc., USA)

(2) エクスパートに聞く人工知能のもたらす未来医療

〈日本語〉

(3月23日(金) 13:20~14:05 第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)

座長：麻野井英次(大阪大学 国際医工情報センター 慢性心不全総合治療学共同研究講座)

演 者：

Artificial Intelligence for Medicine

三宅 淳(大阪大学 国際医工情報センター)

(3) Dr. David's Lecture -Aortic Valve Sparring(Wet Lab)

〈英語〉

(3月24日(土) 9:45~10:45 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)

座長：Yutaka Okita(Division of Cardiovascular Surgery, Department of Surgery, Kobe University, Kobe)

演 者：

Techniques of Aortic Valve Sparing Operations

Tirone E. David (Division of Cardiovascular Surgery of Toronto General Hospital, Canada)

(4) ノーベル賞受賞研究“オートファジー”を学ぶ 〈日本語〉

(3月24日(土) 9:30~10:15 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長：湊口 信也(岐阜大学 循環器内科)

演 者：

The Role of Autophagy in the Pathogenesis of Cardiac Diseases

山口 修(大阪大学 循環器内科学)

(5) 臨床医が学ぶ循環器基礎医学 〈日本語〉

(3月24日(土) 10:25~11:10 第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)

座長：吉栖 正生(広島大学 心臓血管生理医学)

演 者：

Importance of Oxygen Metabolism in Cardiovascular Disease

高島 成二(大阪大学 医化学)

(6) 私の大動脈手術のコツ(ビデオセッション) 〈日本語〉

(3月24日(土) 13:50~15:20 第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)

座長：椎谷 紀彦(浜松医科大学 外科学第一講座)

大木 隆生(東京慈恵会医科大学 血管外科)

演 者：

1. Tips and Techniques for Challenging Situations in Endovascular Aneurysm Repair

古森 公浩(名古屋大学 血管外科)

2. EVAR for the Patients with a Ruptured Abdominal Aortic Aneurysms: Superiority of the Shonan Protocol

荻野 秀光(湘南鎌倉総合病院 外科)

3. Knack and Pitfalls of Hybrid TEVAR for Arch Aneurysms and Thoraco-abdominal Aneurysms

白川 幸俊(大阪急性期・総合医療センター 心臓血管外科)

4. Total Aortic Arch Replacement Using Antegrade Selective Cerebral Perfusion

岡田 健次(信州大学 心臓血管外科)

5. Thoracoabdominal Aortic Replacement in Kyoto University

湊谷 謙司(京都大学 心臓血管外科学)

6. Knacks of Valsalva-David Reimplantation for Aortic Root Pathologies with/without Aortic Regurgitation Including Bicuspid Aortic Valve

荻野 均(東京医科大学 心臓血管外科)

(7) 私の弁形成手術・左室関連手術のコツ(ビデオセッション) 〈日本語〉

(3月25日(日) 10:30~12:00 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)

座長：荒井 裕国(東京医科歯科大学 心臓血管外科)

高梨秀一郎(榊原記念病院 心臓血管外科)

演 者：

1. Aortic Valve Repair for Degenerative Prolapse Lesion

小宮 達彦(倉敷中央病院 心臓血管外科)

2. Remodeling with External Circular Annuloplasty for Aortic Insufficiency

高梨秀一郎(榊原記念病院 心臓血管外科)

3. Pathology Oriented Resection and Suture Repair Technique for Posterior Mitral Leaflet Prolapse: Mt. Fuji Repair Technique

荒井 裕国(東京医科歯科大学 心臓血管外科)

4. Direct Surgical Approaches for Intractable Heart Failure

松居 喜郎(北海道大学 循環器・呼吸器外科)

5. The Strategy for Standardization of Minimally Invasive Mitral Valve Plasty

吉川 泰司(大阪大学 心臓血管外科)

(8) ベッドサイドから生まれた心不全創薬の足跡 〈日本語〉

(3月25日(日) 9:45~10:30 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 山岸 正和(金沢大学 循環器病態内科学)

演 者:

The Idea and the Way of an Aquaretic for Heart Failure

折田 義正(滋慶医療科学大学院大学 医療管理学研究科)

(9) 私の先天性疾患手術のコツ(ビデオセッション) 〈日本語〉

(3月25日(日) 13:20~14:50 第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)

座長: 八木原俊克(りんくう総合医療センター)

角 秀秋(福岡市立こども病院 心臓血管外科)

演 者:

1. Anatomical Correction for Congenitally Corrected Transposition of Great Arteries

市川 肇(国立循環器病研究センター 小児心臓外科)

2. Sutureless Pericardial Repair of Total Anomalous Pulmonary Venous Connection

芳村 直樹(富山大学 第1外科)

3. Basic Skill of the Arterial Switch Operation for D-Transposition of the Great Arteries; Safeguards & Pitfalls

平松 祐司(筑波大学 心臓血管外科学)

4. Modified Norwood Operation Using RV-PA Shunt

笠原 真悟(岡山大学 心臓血管外科)

5. Aortic Valve Repair for Children

坂本喜三郎(静岡県立こども病院 心臓血管外科)

19. Late Breaking Cohort Studies/Clinical Trials

(1) Anti-platelet and Anti-Coagulation Therapy 〈日本語〉

(3月23日(金) 10:30~12:00 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: 中川 義久(天理よろづ相談所病院 循環器内科)

副島 京子(杏林大学 循環器内科)

演 者:

1. Epidemiological Study Using Medical Information Database of Antiplatelet Therapy in Patients with Percutaneous Coronary Intervention

横井 宏佳(福岡山王病院 循環器センター)

2. Interim Result of Prasugrel for Japanese Patients with Ischemic Heart Disease in Long-term Clinical Practice.(PRASFIT-Practice II)

中村 正人(東邦大学医療センター 大橋病院 循環器内科)

3. Registry of Japanese Patients with Atrial Fibrillation Focused on Anticoagulant Therapy in the New Era:1-Year Follow-up of the RAFFINE Registry

宮内 克己(順天堂大学 循環器内科学)

4. Two-Year Follow-up Outcomes of Direct Oral Anticoagulants and Warfarin for Atrial Fibrillation in Japan: Findings from the SAKURA AF Registry

奥村 恭男(日本大学 内科学系循環器内科学分野)

5. The Interim Analysis of the Xarelto Post-marketing Surveillance in Japanese Patients with Venous Thromboembolism

平山 篤志(日本大学 内科学系循環器内科学分野)

6. Anticoagulation Therapy for Venous Thromboembolism in the Real World: From COMMAND VTE Registry

山下 侑吾(京都大学 循環器内科学)

(2) Comprehensive Management of High Risk Cardiovascular Patients (日本語)

(3月23日(金) 13:20~14:50 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: 野出 孝一(佐賀大学 循環器内科)

大石 充(鹿児島大学 心臓血管・高血圧内科学)

演 者:

1. High-versus Moderate-Intensity Pitavastatin Therapy in 13,054 Patients with Stable Coronary Artery Disease: The REAL-CAD Study
永井 良三(自治医科大学)
2. The First Multicenter Placebo-controlled RCT of SGLT-2 and ARB Combination Therapy in Diabetic Patients with Uncontrolled Nocturnal Hypertension: SACRA Study
荏尾 七臣(自治医科大学 循環器内科学部門)
3. Serum Triglyceride Predicts First Cardiovascular Events in Diabetic Patients with Hypercholesterolemia and Retinopathy: Post-hoc Analysis of a Randomized Controlled Trial
多田 隼人(金沢大学 循環器内科)
4. Effects of Eplerenone on Blood Pressure and Glucose Metabolism in Japanese Hypertensives with Obesity
足達 寿(久留米大学 心臓・血管内科)
5. The First Multicenter Placebo-controlled RCT of Suvorexant on Sleep Pressure in Patients with Uncontrolled Morning-hypertension and Insomnia: SUPER-1 Study
荏尾 七臣(自治医科大学 循環器内科学部門)
6. Verify the Efficacy of Renal Artery Stenting to Define the Predictive Factors by Physiological Assessment with Pressurewire Gradient(VERDICT Study)
藤原 昌彦(岸和田徳洲会病院 循環器内科)

(3) Heart Failure (日本語)

(3月24日(土) 9:40~11:10 第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)

座長: 北風 政史(国立循環器病研究センター 臨床研究部)

絹川弘一郎(富山大学 第二内科)

演 者:

1. Clinical Characteristics, Managements, and Outcomes of Japanese Patients Hospitalized for Heart Failure with Preserved Ejection Function: The JASPER Nationwide Registry
安齊 俊久(北海道大学 医学研究院 循環病態内科学)
2. Prognostic Impact of Impaired Glucose Tolerance in Relation with Microalbuminuria in Patients with Chronic Heart Failure: The SUPPORT Trial Subanalysis
後岡広太郎(東北大学 循環器内科学)
3. Clinical Outcomes of Cardiac Sarcoidosis versus Dilated Cardiomyopathy Receiving Cardiac Implantable Electronic Devices: Analysis of the JCDTR Database
横式 尚司(北海道大学 循環器内科)
4. Risk Stratification for Cardiac Mortality Using Electrocardiographic Markers in Patients with Left Ventricular Dysfunction: The JANIES-LVD Study
池田 隆徳(東邦大学 循環器内科学)
5. Prevalence and Prognostic Value of Physical and Social Frailty in Geriatric Patients Hospitalized for Heart Failure(FRAGILE-HF)
鍵山 暢之(心臓病センター 榊原病院 循環器内科)
6. Risk-adjusted Palliative Care Quality of Care in Heart Failure Patients.
水野 篤(聖路加国際病院 循環器内科)

(4) Emerging Therapy and Strategy for Decision Making 〈日本語〉

(3月25日(日) 8:00~9:30 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長: 磯部 光章(榊原記念病院)

木村 剛(京都大学 循環器内科)

演 者:

1. Impact of FFRCT on Clinical Decision Making, Costs, and Clinical Outcomes in Japan: Lessons from the ADVANCE FFRCT Registry
赤坂 隆史(和歌山県立医科大学 循環器内科)
2. Comparison between OFDI and IVUS in PCI Guidance for Biolimus A9 Eluting Stent Implantation(MISTIC-1)
村松 崇(藤田保健衛生大学 循環器内科)
3. Tailored Adjunctive Cilostazol Therapy Based on CYP2C19 Genotyping in Patients with Acute Myocardial Infarction -CALDERA-GENE Study
海北 幸一(熊本大学 循環器内科学)
4. At Home Study: Safety and Efficacy of the Management of Pacemaker Patients via Home Monitoring versus Conventional In-Office Follow-ups
渡邊 英一(藤田保健衛生大学 循環器内科学)
5. Long-Term Extension Confirmed Steroid-Sparing Effect of Tocilizumab in Patient with Refractory Takayasu Arteritis: Result of Phase 3 Trial(TAKT Study)
中岡 良和(国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部)
6. Clinical Application of Fresh Decellularized Pulmonary Allograft Derived from Japanese Heart Transplant Recipient Heart for Pulmonary Valve Replacement
小澤 秀登(大阪大学 心臓血管・呼吸器外科学)

(5) New Device Therapy/Intervention 〈日本語〉

(3月25日(日) 10:30~12:00 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長: 平山 篤志(日本大学 循環器内科)

小野 稔(東京大学 心臓外科)

演 者:

1. Safety and Efficacy of the HVAD Left Ventricular Assist System for Advanced Heart Failure for Bridge to Transplantation in Japan
澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科学)
2. AVJ-514 Trial: 1-Year Outcomes Following AVJ-514 Mitral Regurgitation Treatment in a Japanese Cohort
齋藤 滋(湘南鎌倉総合病院 循環器内科)
3. Early Outcomes of Valve-In-Valve Procedure for Degenerated Aortic and Mitral Bioprosthesis in Japanese
山下 築(国立循環器病研究センター 心臓外科)
4. BioMimics 3D Stent System: 1-Year Results of the MIMICS-2 Study
中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)
5. Drug-Coated Balloon versus Standard Angioplasty for the Treatment of Femoropopliteal Lesions: 2-Year Results of the INPACT SFA Japan Randomized Trial
曾我 芳光(小倉記念病院 循環器内科)
6. Left Atrial Appendage Closure for the Reduction of Cardioembolic Stroke in a Japanese Population: First Results from SALUTE Trial
青沼 和隆(筑波大学 循環器内科)

(6) Coronary Artery Disease and Aortic Stenosis 〈英語〉

(3月25日(日) 13:20~14:50 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)

座長: Satoshi Yasuda(National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)

Yoshio Kobayashi(Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Chiba University, Chiba)

演 者：

1. Long-Term Clinical Outcomes of Japanese Patients with Deferral of Coronary Intervention Based on Fractional Flow Reserve: The J-CONFIRM Registry
Shoichi Kuramitsu (Department of Cardiology, Kokura Memorial Hospital, Kitakyushu)
2. First Report of the Japan Cohort 12 Month Follow-up Results from the Japan-USA HARMONEE Trial
Shigeru Nakamura (Cardiovascular Center, Kyoto Katsura Hospital, Kyoto)
3. Vascular Function Tests and Cardiovascular Risk Prediction in Patients with Coronary Artery Disease: FMD-J (Flow-Mediated Dilation Japan) Study A
Tatsuya Maruhashi (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University, Hiroshima)
4. Effect of Coronary Artery Spasm on Long-term Outcomes in Survivors of Acute Myocardial Infarction
Juntaro Deyama (Department of Cardiology, University of Yamanashi Hospital, Chuo)
5. The Impact of Institutional Characteristics on the Prognosis of Acute Myocardial Infarction with Cardiogenic Shock: Analysis from the JROAD/JROAD-DPC
Tetsuya Matoba (JCS Shock-JROAD Study Group, Kyushu University Hospital, Tokyo)
6. Treatment of Aortic Stenosis with Rapid Deployment Valves and Conventional Biological Valves -Insights from the German Aortic Valve Registry
Buntaro Fujita (Department of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Heart and Diabetes Center NRW, Ruhr-University Bochum, Germany)

20. Featured Research Session

〈英語〉

(1) Arrhythmia, Atrial, Supraventricular 1

(3月23日(金) 16:00~17:30 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: Takashi Ashihara (Department of Cardiovascular Medicine, Shiga University of Medical Science, Otsu)

Hitoshi Ichiki (Department of Cardiovascular Medicine and Hypertension, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, Kagoshima)

演 者：

1. Clinical Factors Associating with Atrial Fibrillation Recurrence after Catheter Ablation: Sex Differences in Electrophysiology
Seigo Yamashita (Department of Cardiology, The Jikei University School of Medicine, Tokyo)
2. Does Empirical Superior Vena Cava Isolation (SVCI) without Confirming Ectopic Firing in SVC Work in Patients with Atrial Fibrillation (AF)?
Kei Hirota (EP Expert Doctors-Team Tsuchiya, Kumamoto)
3. The Relationship between Lesion Gap Detected by Late-gadolinium Enhancement Magnetic Resonance Imaging and Recurrence of Atrial Fibrillation after Cryo-Balloon Ablation
Jun Kurose (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Internal Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe)
4. Cell Free DNA in Patients with Atrial Fibrillation Promotes Pro-Inflammatory Cytokine Expression in Macrophages
Masahiro Yamazoe (Department of Bio-informational Pharmacology, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, Tokyo)

5. The Iatrogenic Atrial Tachycardias after Mitral Valve Surgery Using Superior Septal Approach

Takamitsu Takagi (Department of Cardiology, Yokosuka Kyosai Hospital, Yokosuka)

6. Risk Factors for New-onset Heart Failure in Atrial Fibrillation Patients without Pre-existing Organic Heart Disease: The Fushimi AF Registry.

Yuya Aono (Department of Cardiology, National Hospital Organization Kyoto Medical Center, Kyoto)

(2) Genetics, Vascular Function, Cardiac Function

〈英語〉

(3月23日(金) 16:00~17:30 第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)

座長: Eiki Takimoto (Department of Cardiovascular Medicine, The University of Tokyo Graduate School of Medicine, Tokyo)

Masanori Asakura (Hyogo College of Medicine, Nishinomiya)

演 者:

1. Electrical Vagal Nerve Stimulation Lowers Pulmonary Arterial Pressure and Markedly Improves the Survival in Rats with Severe Pulmonary Arterial Hypertension

Keimei Yoshida (Departments of Cardiovascular Medicine, Kyushu University Graduate School of Medical Sciences, Fukuoka)

2. Identification of Eight Genetic Variants as Novel Determinants of Dyslipidemia in Japanese by Exome-wide Association Studies

Mitsutoshi Oguri (Department of Cardiology, Kasugai Municipal Hospital, Kasugai)

3. The Predictive Factors Affecting False Positive in On-Site Operated CT-Fractional Flow Reserve Based on Fluid and Structural Interaction

Etsuro Kato (Department of Cardiovascular Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo)

4. Visualization of Arterial Wall Vascularization in Patients with Takayasu Arteritis Using Superb Micro-vascular Imaging: Potential Clinical Application

Wakana Sato (Department of Cardiovascular Medicine, Akita University Graduate School of Medicine, Akita)

5. Assessment of Both Coronary Microvascular Damage and Epicardial Flow Velocity Measurement Immediately after Successful PCI Predicts Left Ventricular Remodeling

Atsushi Yamamuro (Department of Cardiovascular Medicine, Nishinomiya Watanabe Cardiovascular Center, Nishinomiya)

6. Prognostic Value of Left Ventricular Dyssynchrony Detected by Nuclear Cardiology in Japanese Patients with Coronary Artery Disease

Takumi Hatta (Department of Cardiology, Nihon University School of Medicine, Tokyo)

(3) Coronary Artery Disease, ACS, AMI

〈英語〉

(3月24日(土) 8:00~9:30 第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)

座長: Yorihiro Higashino (Division of Cardiology, Higashi Takarazuka Satoh Hospital, Takarazuka)

Takashi Morita (Division of Cardiology, Osaka General Medical Center, Osaka)

演 者:

1. Impact of Prior Antiplatelet Therapy on the Infarct Size in Patients with Acute Myocardial Infarction: The J-MINUET Study

Yasuharu Nakama (Department of Cardiology, Hiroshima City Hiroshima Citizens Hospital, Hiroshima)

2. Off-hours Presentation Does not Affect Long-term Clinical Outcomes of Japanese Patients with Acute Myocardial Infarction: J-MINUET Substudy
Hideki Ebina (Department of Cardiology, Juntendo University Shizuoka Hospital, Izunokuni)
3. Association of Admission Heart Rate with Effectiveness of Beta-blocker in Acute Myocardial Infarction Patients: A Sub-analysis of J-MINUET Study
Taishi Okuno (Division of Cardiology, Mitsui Memorial Hospital, Tokyo)
4. Impact of Previous Peripheral Artery Disease on Prognosis after Myocardial Infarction: The J-MINUET Study
Hirokuni Akahori (Division of Cardiovascular Medicine and Coronary Artery Disease, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya)
5. Cholesterol Efflux Capacity and Incident Atherosclerotic Cardiovascular Disease Events in a Japanese General Population: The Suita Study
Masatsune Ogura (Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Suita)
6. Prevalence, Clinical Characteristics and In-hospital Mortality of Acute Myocardial Infarction in Out-of-hospital Sudden Cardiac Arrest Patients
Yutaka Terajima (Division of Cardiology, Saiseikai Kumamoto Hospital Cardiovascular Center, Kumamoto)

(4) Coronary Artery Disease, Basic, Inflammation, Atherosclerosis (英語)
(3月24日(土) 13:50~15:20 第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)
座長: Yu Kataoka (Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral & Cardiovascular Center, Suita)
Hiroyuki Yamamoto (Division of Cardiovascular Medicine, Narita-Tomisato Tokushukai Hospital, Tomisato)

演 者:

1. Withdrawn
2. High Shear Stress Derived from Three-dimensional CT Angiography is Related to Acute Coronary Syndrome.
Nobuhiro Murata (Division of Cardiology, Department of Medicine, Nihon University School of Medicine, Tokyo)
3. Comprehensive Assessment of Physiological and Morphological Factors for Predicting Chronic-phase Cardiac Function after ST-segment Elevation Myocardial Infarction
Takayuki Onishi (Department of Cardiology, Hiratsuka Kyosai Hospital, Hiratsuka)
4. Heterozygous Familial Hypercholesterolemia: Insight into Polygenetic Abnormalities in Japanese Patients
Haruki Sekiguchi (Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo)
5. Current Trends of Acute Myocardial Infarction in Korea: From the Korea Acute Myocardial Infarction Registry from 2005 to 2016
Yongcheol Kim (Department of Cardiology, Chonnam National University Hospital, Korea)
6. Estrogen Maintains Mitochondrial Function and Retards Vascular Senescence via Rab9-dependent Mitophagy
Yuichi Sasaki (Department of Cardiovascular Medicine and Hypertension, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Kagoshima University, Kagoshima)

(5) PCI, Antithrombotic Therapy, Surgery

〈英語〉

(3月24日(土) 17:30~19:00 第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)

座長: Satoru Sumitsuji (Department of Cardiology for International Education and Research, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

Yoshihiro Takeda (Department of Cardiology, Rinku General Medical Center, Izumisano)

演 者:

1. Japanese Multicenter Registry for Chronic Coronary Total Occlusion; Data from Retrograde Summit General Registry
Maoto Habara (Department of Cardiology, Toyohashi Heart Center, Toyohashi)
2. Impact of Preexisting Diabetes and Neointimal Characteristics on Late Lumen Enlargement after Drug-coated Balloon Angioplasty for In-stent Restenosis
Tadatsugu Gamou (Department of Cardiovascular and Internal Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medicine, Kanazawa)
3. The Large-sized Expanded Polytetrafluoroethylene Conduit with Bulging Sinuses and a Fan-shaped Valve in the Right Ventricular Outflow Tract Reconstruction
Takako Miyazaki (Department of Pediatric Cardiovascular Surgery, Childrens Research Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto)
4. Comparison of the Efficacy of Balloon Angioplasty, Paclitaxel-coated Balloon and Stent Implantation for In-Stent Restenosis Based on OCT Analysis
Kenichi Yamane (Division of Cardiology, Cardiovascular Center, Akane Foundation Tsuchiya General Hospital, Hiroshima)
5. Inappropriate Use of Direct Oral Anticoagulant is Associated with Increased Mortality Risk in Atrial Fibrillation Patients: The Fushimi AF Registry
Hisashi Ogawa (Department of Cardiology, National Hospital Organization Kyoto Medical Center, Kyoto)
6. Renal Function and Time in Therapeutic Range in Anticoagulated, Elderly Patients with Nonvalvular Atrial Fibrillation: Subanalysis of J-RHYTHM Registry
Hiroshi Inoue (Department of Internal Medicine, Saiseikai Toyama Hospital, Toyama)

(6) Cardiomyocyte, Pulmonary Artery, Decision Support

〈英語〉

(3月25日(日) 8:00~9:30 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto)

Yuichi Tamura (Department of Cardiology, International University of Health and Welfare School of Medicine, Tokyo)

演 者:

1. Matrix Metalloproteinase-12 Produced by Ly6Clow Macrophages Ameliorate Left Ventricular Remodeling and Survival after Myocardial Infarction
Akihiko Kubota (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Chiba University, Chiba)
2. High-throughput Single-molecule RNA Imaging Analysis Reveals Spatial Heterogeneity of Cardiomyocytes in the Development of Heart Failure
Masahiro Satoh (Department of Cardiovascular Medicine, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba)

3. Identification of Celastramycin as a Novel Therapeutic Agent for Pulmonary Arterial Hypertension -High-throughput Screening of 5,562 Compounds-
Ryo Kurosawa (Department of Cardiology, Tohoku University School of Medicine, Sendai)
4. The Impact of 18F-fluorodeoxyglucose Uptake on Serial Cardiac Positron Emission Tomography Guided Therapy in Patients with Cardiac Sarcoidosis
Naoki Serizawa (Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo)
5. Impact of Decision Rule on Hospital Triage of Patients with Out-of-hospital Cardiac Arrest Due to ST Elevation Myocardial Infarction
Hiroki Nakano (Department of Cardiovascular Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)
6. Patient-specific Simulation of Mitral Valve Replacement Using the Multi-scale Heart Simulator "UT-Heart"
Hirotada Masuda (Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

(7) Regeneration Therapy, Device Therapy

〈英語〉

(3月25日(日) 10:30~12:00 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: Tomoko Kato (Department of Cardiac Surgery, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, Tokyo)

Yuji Shiba (Department of Regenerative Science and Medicine, Shinshu University, Matsumoto)

演 者:

1. Sendai Virus Vectors Achieve Mouse and Human Efficient Integration-Free Cardiac Reprogramming in Vitro and in Vivo
Kazutaka Miyamoto (Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo)
2. Delayed Coronary Obstruction Following Transcatheter Aortic Valve Implantation
Akihito Tanaka (Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)
3. Spinal Cord Stimulation Therapy for the Treatment of Critical Limb Ischemia in Contemporary Practice
Masashi Nakao (Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo)
4. Influence of Mitral Valve Tethering on MitraClip Implantation for the Patients with Functional Mitral Regurgitation
Akihiro Isotani (Department of Cardiology, Kokura Memorial Hospital, Kitakyushu)
5. Overall Experience of Gastrointestinal Bleeding Complication over 500 Patients on Continuous Flow Left Ventricular Assist Device Support
Masashi Kawabori (Cardiothoracic Transplantation and Circulatory Support, Texas Heart Institute, Baylor College of Medicine, USA)
6. A Comparative Study of Zone 0 Hybrid Total Arch Exclusion versus Traditional Open Repair for DeBakey I Aortic Dissection
Hao Lin (Department of Cardiovascular Surgery Fuwai Hospital, Chinese Academy of Medical Sciences, Peking Union Medical College, China)

(8) Arrhythmia, Atrial, Supraventricular 2

〈英語〉

(3月25日(日) 13:20~14:50 第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長: Kunihiro Kiuchi (Section of Arrhythmia, Division of Cardiovascular Medicine,
Department of Internal Medicine, Kobe University Graduate
School of Medicine, Kobe)

Koji Tanaka (Division of Cardiology, Sakurabashi-Watanabe Hospital, Osaka)

演 者:

1. Risk Stratification by 12-Lead ECG Findings in Asymptomatic and Symptomatic Patients with Brugada Syndrome.

Hiroshi Morita (Department of Cardiovascular Therapeutics, Okayama
University Graduate School of Medicine, Okayama)

2. Influence of Substrate Modification in Catheter Ablation of Atrial Fibrillation on the Incidence of Acute Complications: J-CARAF Study 2011-2016

Yuji Murakawa (Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University
Medical School, Mizonokuchi Hospital, Kawasaki)

3. Pro-inflammatory and Pro-fibrotic State of Epicardial Adipose Tissue is Associated with Atrial Myocardial Fibrosis as a Substrate for Atrial Fibrillation

Ichitaro Abe (Department of Cardiology and Clinical Examination, Oita
University Faculty of Medicine, Yufu)

4. Tailored Ablation Strategy for Persistent Atrial Fibrillation: The Utility of Combination of Voltage Map and Continuous Wavelet Transform Analysis

Shinsuke Iwai (Department of Cardiology, Hiratsuka Kyosai Hospital,
Kanagawa)

5. Early Results of the Cox-Maze IV Procedure "Without Exception" for Persistent Atrial Fibrillation

Masami Takagaki (Department of Cardiovascular Surgery, Showa University
Koto Toyosu Hospital, Tokyo)

6. Impact of Anemic Severity on Stroke/Systemic Embolism, Bleeding, and Cardiovascular Death in Patients with Atrial Fibrillation: The Fushimi AF Registry

Yoshimori An (Department of Cardiology, National Hospital Organization
Kyoto Medical Center, Kyoto)

21. 第46回循環器教育セッション

〈日本語〉

教育セッション I (ビデオセッション)

- (1) 経カテーテル弁膜症治療の Pit fall ~私はこうしている~

(3月23日(金) 15:50~16:50 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長: 高山 守正 (榊原記念病院 循環器内科)

志水 秀行 (慶應義塾大学 外科(心臓血管))

演 者:

1. 僧帽弁閉鎖不全症に対する MitraClip 治療

大野 洋平 (東海大学 循環器内科)

2. TAVI (Valve-in-valve)

前田 孝一 (大阪大学 心臓血管外科学)

- (2) PCI の神髄を極める

(3月23日(金) 16:50~17:50 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長: 小林 欣夫 (千葉大学 循環器内科学)

安藤 献児 (小倉記念病院 循環器内科)

演 者:

1. 角辻 暁 (大阪大学 国際循環器学)

2. Is Your PCI...Right? Fair? Good? Nice? Appropriate? Beautiful? Great? Awesome?
Amazing? Terrific? Marvelous? Tremendous?

中村 淳(新東京病院)

教育セッションⅡ：循環器内科各分野の新しいエビデンスをどう日本で活用していくか①

(1) 不整脈

(3月24日(土) 8:00~9:00 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長：池田 隆徳(東邦大学 循環器内科学)

渡邊 英一(藤田保健衛生大学 循環器内科)

演 者：

1. 薬物治療の最近のリアルワールドエビデンス
香坂 俊(慶應義塾大学 循環器内科)
2. 植込み型デバイスに関する最近のエビデンス
庭野 慎一(北里大学 循環器内科)
3. カテーテルアブレーションにおける最近のエビデンス
井上 耕一(桜橋渡辺病院 心臓血管センター 不整脈科)

(2) 心臓リハビリテーション

(3月24日(土) 9:00~9:40 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長：増山 理(兵庫医科大学 内科学循環器内科)

元山 貞子(藤田保健衛生大学 循環器内科)

演 者：

1. 虚血性心疾患の心臓リハビリテーション
長山 雅俊(榊原記念病院 総合診療部)
2. 心不全の心臓リハビリテーション
井澤 英夫(藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 循環器内科)

(3) 倫理

(3月24日(土) 9:40~10:00 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長：尾崎 行男(藤田保健衛生大学 循環器内科)

田邊 健吾(三井記念病院 循環器内科)

演 者：

人を対象とする医学系研究に関する倫理指針のポイント
前村 浩二(長崎大学 循環器内科学)

教育セッションⅢ：循環器内科各分野の新しいエビデンスをどう日本で活用していくか②

(1) 虚血

(3月25日(日) 10:00~10:40 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長：中川 義久(天理よろづ相談所病院 循環器内科)

上妻 謙(帝京大学 循環器内科)

演 者：

1. 機能的虚血評価の最新のエビデンスを活かす
松尾 仁司(岐阜ハートセンター 循環器内科)
2. 第2世代DESで左主幹部病変に対する血行再建の治療選択は変わったか?
田邊 健吾(三井記念病院 循環器内科)

(2) 心不全

(3月25日(日) 10:40~11:20 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長：志賀 剛(東京女子医科大学 循環器内科学)

佐藤 直樹(日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科)

演 者：

1. 心不全治療

吉川 勉(榊原記念病院 循環器内科)

2. 糖尿病患者の心不全入院予防

野出 孝一(佐賀大学 循環器内科)

(3) 高血圧

(3月25日(日) 11:20~12:00 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長：代田 浩之(順天堂大学 循環器内科学)

赤石 誠(東海大学医学部付属東京病院 循環器内科)

演 者：

1. 高齢者の降圧療法における注意点

楽木 宏実(大阪大学 老年・総合内科学)

2. 早朝・夜間血圧の重要性と厳格な降圧の必要性

荻尾 七臣(自治医科大学 循環器内科学)

22. 日本心臓財団佐藤賞記念講演

〈英語〉

(3月24日(土) 17:30~18:30 第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)

座長：Yoshiki Sawa (Department of Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

演 者：

The Role of Autophagic Degradation in Heart Failure

Osamu Yamaguchi (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

23. 審査講演会

(1) Young Investigator's Award Basic Research 部門審査講演

〈英語〉

(3月23日(金) 8:00~10:00 第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)

座長：Issei Komuro (Department of Cardiovascular Medicine, The University of Tokyo, Tokyo)

演 者：

1. Discovery of a Small Molecule to Increase Cardiomyocytes and Protect the Heart after Ischemic Injury

Hironori Hara (Department of Cardiovascular Medicine, the University of Tokyo Hospital, Tokyo)

2. A Novel Long Intergenic Noncoding RNA, Lionheart, Underlies Heart Development and Guards the Heart from Pressure Overload

Yasuhide Kuwabara (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto)

3. Semaphorin3E-PlexinD1-mediated Coordination of Blood and Lymphatic Vessels Development in the Heart, with Implications for Coronary Artery Diseases

Kazuaki Maruyama (Department of Physiological Chemistry and Metabolism, Graduate School of Medicine, University of Tokyo, Tokyo)

4. Sirt1 Counteracts Cardiac Lipotoxicity via Improving Membrane Fatty Acid Composition and Resulting ER Stress-Like Response

Tsune-hisa Yamamoto (Department of Cardiology, Keio University School of Medicine, Tokyo)

(2) 国際留学生 YIA 審査講演

〈英語〉

(3月23日(金) 10:00~12:00 第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)

座長：Koichi Node (Department of Cardiovascular Medicine, Saga University, Saga)

演 者：

1. Family with Sequence Similarity 13, Member a (Fam13a) Preserves Metabolic Health by Regulating Adipocyte Insulin Signaling
Donytra A. Wardhana (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Internal Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine, Kobe)
2. Small-Vessel Vasculopathy Due to Aberrant Autophagy in LAMP-2 Deficiency
Huan Thanh Nguyen (Second Department of Internal Medicine, Kansai Medical University, Hirakata)
3. Chronic Psychological Stress Accelerates Vascular Senescence and Impairs Ischemia-induced Neovascularization: The Role of Dipeptidyl Peptidase-4/Glucagon-like Peptide-1-adiponectin Axis
Limei Piao (The Department of Community Health & Geriatrics, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)
4. Divergent Molecular Mechanisms of Cardiac Sodium Channelopathies Exhibiting Brugada Syndrome with Multiple Electrophysiological Phenotypes
Tommy Dharmawan (Department of Cardiovascular Medicine, Gunma University Graduate School of Medicine, Maebashi)

- (3) Young Investigator's Award Clinical Research 部門審査講演 〈英語〉
(3月23日(金) 13:20~15:20 第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)
座長: Takeshi Kimura (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto)

演 者：

1. Mitochondrial Dysfunction in Epicardial Adipose Tissue is Associated with Coronary Artery Stenosis
Takayuki Nakajima (Department of Cardiovascular Medicine, Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University, Sapporo)
2. Evidence for Enhanced Inflammation of Coronary Adventitia and Perivascular Adipose Tissue in Patients with Vasospastic Angina -A Multi-modality Imaging Study-
Kazuma Ohyama (Department of Cardiovascular Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai)
3. Effect of Current and Past Cancer Treatment on Risk of Cardiovascular Events Following Percutaneous Coronary Intervention: A Kumamoto University Malignancy and Atherosclerosis (KUMA) Study
Noriaki Tabata (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University, Kumamoto)
4. Comprehensive Targeted Sequencing Uncovers the Genetic Basis of Cardiomyopathy and the Genotypes Involved in Prognosis and Left Ventricular Reverse Remodeling
Takashige Tobita (Department of Cardiology, Tokyo Women's Medical University, Tokyo)

- (4) 第8回コメディカル賞審査講演会(診断部門) 〈日本語〉
(3月23日(金) 13:20~14:50 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)
座長: 山岸 正和(金沢大学 循環器病態内科学)
池田 隆徳(東邦大学 循環器内科学)

演 者：

1. IVUS, OCT を用いた移植後冠動脈病変の定量的かつ定性的検証
横田 順(東京大学 医療機器管理部)
2. 心房細動アブレーション後の再発に関連する左房形態の検討
安田 奈央(名古屋掖済会病院)

3. Hot Balloon Ablation における 3 剤の静脈麻酔を用いた鎮静法の鎮静鎮痛評価と鎮静下においても疼痛を強く自覚する患者背景の考察
梅津 努(筑波大学 看護部 血管造影室)
4. 心筋内脂肪沈着は左室拡張機能低下速度を加速させる
小池よう子(みなみ野循環器病院 検査科)
5. 発作性心房細動アブレーション後の心房機能：3 次元エコーによるクライオバルーンアブレーションと高周波アブレーションの比較
南雲 涼太(埼玉県済生会川口総合病院 臨床検査科)
6. チーム医療としてのメディカルスタッフへの放射線防護・被曝低減に関する教育の検討
加藤 京一(昭和大学 保健医療学研究科)

(5) 第8回コメディカル賞審査講演会(臨床部門) 〈日本語〉

(3月23日(金) 16:00~17:30 第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長：荒井 秀典(国立長寿医療研究センター 高齢者総合診療科)

高橋 哲也(東京工科大学 医療保健学部)

演 者：

1. 先天性心疾患術後遠隔期患児の健康関連 QOL は嫌気性代謝閾値レベルの運動耐容能や身体活動状況と関連がある
藤田 吾郎(東京慈恵会医科大学附属病院 リハビリテーション科)
2. 心臓植込み型デバイスで測定される activity と生命予後の関連
藤原 麻未(藤田保健衛生大学 ME 管理室)
3. 心臓外科術前フレイルと CKD が術後リハビリテーション進行に及ぼす影響
板垣 篤典(心臓血管研究所 リハビリテーション室)
4. 下肢閉塞性動脈硬化症患者の身体活動と予後に関する研究：縦断調査における 2 年間の心血管イベント発生とその関連因子の検討
角森 亮介(国立国際医療研究センター 看護部)
5. 自転車エルゴメーター運動負荷試験を用いた透析関連低血圧の予防・管理
臼井 直人(嬉泉病院 リハビリテーション科)
6. 直接経口抗凝固薬内服中の心房細動患者におけるノンアドヒアランスに関連する因子の検討
宮崎 元康(福岡大学筑紫病院 薬剤部)

24. 委員会セッション 〈英語/日本語〉

(1) 循環器救急医療・災害対策委員会

(3月23日(金) 10:30~12:00 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

日本循環器学会蘇生科学シンポジウム

AHA ECC-JCS ジョイントセッション

座長：下川 宏明(東北大学 循環器内科学)

演 者：

1. Special Lecture: JCS-ITC 10 Year Anniversary Session
Mary Fran Hazinski (Vanderbilt University Surgical Critical Care, Nashville, USA)
2. 日本の循環器救急の実情：日本循環器学会指定循環器専門医研修施設1020件からのアンケート調査結果報告
田原 良雄(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)
3. Public Education による新しい心筋梗塞予防法～STOP MI キャンペーン～
上田 恭敬(大阪医療センター 循環器内科)

(2) ガイドライン委員会
ガイドラインに学ぶ1

2016-2017年度活動ガイドライン作成班報告

(3月23日(金) 9:50~10:50 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 木村 剛(京都大学 循環器内科)

演 者:

1. 肺血栓塞栓症および深部静脈血栓症の診断, 治療, 予防に関するガイドライン(2017年改訂版)

伊藤 正明(三重大学 循環器・腎臓内科学)

2. 肺高血圧症治療ガイドライン(2017年改訂版)

福田 恵一(慶應義塾大学 循環器内科)

ガイドラインに学ぶ2

2015-2016年度活動ガイドライン作成班報告

(3月23日(金) 11:00~12:00 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 先崎 秀明(埼玉医科大学総合医療センター 小児科循環器科)

演 者:

1. 成人先天性心疾患診療ガイドライン(2017年改訂版)

市田 路子(富山大学 小児科)

2. 血管炎症候群の診療ガイドライン(2017年改訂版)

磯部 光章(榊原記念病院)

ガイドラインに学ぶ3

2016-2017年度活動ガイドライン作成班報告

(3月24日(土) 8:00~9:30 第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)

座長: 清水 渉(日本医科大学 内科学 循環器内科学)

1. 感染性心内膜炎の予防と治療に関するガイドライン(2017年改訂版)

中谷 敏(大阪大学 保健学専攻 機能診断科学講座)

2. 急性・慢性心不全診療ガイドライン(2017年改訂版)

日本循環器学会/日本心不全学会 合同ガイドライン

筒井 裕之(九州大学 循環器内科学)

3. 遺伝性不整脈の診療に関するガイドライン(2017年改訂版)

青沼 和隆(筑波大学 循環器内科)

(3) 学術集会運営委員会・国際交流委員会

海外留学生セミナー&留学支援助成報告会

(3月24日(土) 8:00~9:30 第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)

座長: 坂田 泰史(大阪大学 循環器内科学)

演 者:

1. モザイク都市トロントでの留学生活

井手 盛子 (Department of Cardiovascular Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita)

2. ダラスへの研究留学: It's not a sprint, it's a marathon

橋本 寿之 (University of Texas Southwestern Medical Center, Department of Molecular Biology, USA)

3. Cross-talking—ヨーロッパで得られた視点—

栗田 真吾 (University Heart Center Zurich, Switzerland)

4. PDE1 を標的とした心不全の新しい治療戦略—大動物を用いたトランスレーショナル研究

橋本 亨(済生会福岡総合病院 循環器内科)

(4) 編集委員会

Circulation Journal Award Session

(3月24日(土) 9:40~11:10 第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)

座長: Toyoaki Murohara (Department of Cardiology, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya)

演 者:

[Clinical Investigation]

〈First Place〉

1. Variant Aldehyde Dehydrogenase 2 (ALDH2*2) in East Asians Interactively Exacerbates Tobacco Smoking Risk for Coronary Spasm -Possible Role of Reactive Aldehydes-
Yuji Mizuno (Division of Cardiovascular Medicine, Kumamoto Kinoh Hospital, Kumamoto Aging Research Institute, Kumamoto)

〈Second Place〉

2. AVJ-514 Trial -Baseline Characteristics and 30-Day Outcomes Following MitraClip[®] Treatment in a Japanese Cohort-
Kentaro Hayashida (Keio University School of Medicine, Tokyo)
3. Empagliflozin and Cardiovascular Outcomes in Asian Patients with Type 2 Diabetes and Established Cardiovascular Disease -Results from EMPA-REG OUTCOME[®]-
Kohei Kaku (Department of General Internal Medicine, Kawasaki Medical School, Kurashiki)
4. Development of a Basic Risk Score for Incident Atrial Fibrillation in a Japanese General Population -The Suita Study-
Yoshihiro Kokubo (Department of Preventive Medicine, National Cerebral and Cardiovascular Center, Suita)
5. Identification and Assessment of Cardiac Amyloidosis by Myocardial Strain Analysis of Cardiac Magnetic Resonance Imaging
Seitaro Oda (Department of Diagnostic Radiology, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University, Kumamoto)

[Experimental Investigation]

〈First Place〉

6. Transcriptional Analysis of Intravenous Immunoglobulin Resistance in Kawasaki Disease Using an Induced Pluripotent Stem Cell Disease Model
Kazuyuki Ikeda (Department of Pediatric Cardiology and Nephrology, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, Kyoto)

〈Second Place〉

7. Differential Effects of Myocardial Afadin on Pressure Overload-Induced Compensated Cardiac Hypertrophy
Dimitar Petrov Zankov (Division of Molecular Medical Biochemistry, Department of Biochemistry and Molecular Biology, Shiga University of Medical Science, Otsu)

[Asian Award]

8. Clinical Significance of Hematuria in Atrial Fibrillation with Oral Anticoagulation Therapy
Hee Tae Yu (Division of Cardiology, Severance Cardiovascular Hospital, Yonsei University College of Medicine, Seoul, Korea)

(5) 男女共同参画委員会

第8回男女共同参画委員会セッション

医療界の202030～意識を変える・組織を変える～

(3月24日(土) 10:00～11:10 第15会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 牡丹)

座長: 澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科学)

瀧原 圭子(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター/大阪大学 循環器内科学)

特別講演: 自見はなこ(参議院議員)

総合討論:

新浪 博士(東京女子医科大学 心臓血管外科)

齋藤 綾(東邦大学医療センター佐倉病院 心臓血管外科)

樗木 晶子(九州大学 保健学)

本江 純子(菊名記念病院 循環器センター)

長谷部直幸(旭川医科大学 循環・呼吸・神経病態内科学)

女性循環器医コンソーシアム: JCS-JJC 創設記念

～世界にはばたく女性循環器医～

(3月24日(土) 17:00～18:00 第15会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 牡丹)

座長: 星賀 正明(大阪医科大学 循環器内科)

泉 知里(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)

Opening Remarks: 瀧原 圭子(大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター/大阪大学 循環器内科学)

演 者:

1. 日本の循環器学術誌における女性研究者

藤井 智子(京都大学 健康要因学講座 疫学・予防医療学分野)

2. これまでの私, これからの私

大野 聡子(久留米大学 心臓・血管内科)

3. 循環器内科女性医師の総合的生活—快適な海外発表と問題提起

中山 敦子(東京大学 循環器内科)

(6) 禁煙推進委員会

第17回禁煙推進セミナー

(3月24日(土) 13:50～15:20 第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)

座長: 田口 功(獨協医科大学越谷病院)

中井 俊子(日本大学医学部附属板橋病院 医学部循環器内科 先端不整脈治療学部門)

演 者:

1. 喫煙と疾病負荷—我が国の都道府県レベル疾病負荷研究から—

野村 周平(東京大学 国際保健政策学教室)

2. 禁煙における行政の取り組み

平野 公康(厚生労働省 健康局 健康課)

3. 「頑張らずにスッパリやめられる禁煙」—禁煙外来・禁煙指導での疑問を解決します

川井 治之(岡山済生会総合病院 呼吸器内科)

4. 新型タバコの有害性と室内汚染, 使用実態, 使用者への介入方法

大和 浩(産業医科大学産業生態科学研究所 健康開発科学研究室)

(7) IT/Database 委員会

循環器 DB 研究の現状と課題—JROAD-DPC からの報告

(3月25日(日) 8:00～9:30 第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)

座長: 小川 久雄(国立循環器病研究センター)

橋本 英樹(東京大学 公共健康医学専攻保健社会行動学分野)

演 者：

1. 臨床効果データベース事業・ImPACT 研究におけるデータ収集の現状
興梠 貴英(自治医科大学 企画経営部医療情報部)
2. 医療の質の均てん化と JROAD による診療状況の「見える化」
宮本 恵宏(国立循環器病研究センター 予防健診部)
3. 公募研究の状況報告～公募研究の進め方と進捗について～
西村 邦宏(国立循環器病研究センター 予防医学疫学情報部)
住田 陽子(国立循環器病研究センター 循環器病統合情報センター)

(8) 将来構想委員会

脳卒中と循環器病克服5カ年計画シンポジウム

(3月25日(日) 8:50～10:20 第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長：宮本 享(京都大学 脳神経外科学)

小室 一成(東京大学 循環器内科学)

演 者：

- 富永 悌二(東北大学 脳神経外科)
橋本洋一郎(熊本市市民病院 神経内科・地域医療連携部 リハビリテーション科)
斎藤 能彦(奈良県立医科大学 循環器内科)
小川 久雄(国立循環器病研究センター)
平山 篤志(日本大学 循環器内科学分野)
岡田 佳築(厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課)
権 泰史(厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課)

(9) 学術委員会

2015年度採択 Translational Research 振興事業最終報告会

(3月25日(日) 13:20～14:05 第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)

座長：斎藤 能彦(奈良県立医科大学 第一内科)

演 者：

- ナチュラルキラーT細胞活性化による新たな重症心不全治療の実用化
筒井 裕之(九州大学 循環器内科学)

(10) 健保対策委員会

保険医療セミナー

(3月25日(日) 13:20～14:50 第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)

座長：代田 浩之(順天堂大学 循環器内科学)

川名 正敏(東京女子医科大学 総合診療科)

演 者：

1. 平成30年度診療報酬改定の動向について
田辺 国昭(中央社会保険医療協議会 会長(東京大学大学院 法学政治学研究科))
2. 日本心臓リハビリテーション学会の要望と結果について
後藤 葉一(公立八鹿病院)
3. 日本心血管インターベンション治療学会の要望と結果について
中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)
4. 日本不整脈心電学会の要望と結果について
山根 禎一(東京慈恵会医科大学 循環器内科)
5. 日本循環器学会, 日本心臓病学会, 日本心不全学会の要望と結果について
百村 伸一(自治医科大学附属さいたま医療センター)

(11) 心臓移植委員会

第14回心臓移植セミナー

心臓移植ドナー不足に正面から取り組む

(3月25日(日) 13:20~14:50 第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)

座長: 坂田 泰史(大阪大学 循環器内科)

猪又 孝元(北里研究所病院 循環器内科)

演 者:

1. 成人・小児・心肺同時移植現状報告

山口 修(大阪大学 循環器内科)

2. ドナー不足によって現場で何が起きているのか

肥後 太基(九州大学 循環器内科)

3. 左室補助人工心臓の永久使用は解決策なのか

齋木 佳克(東北大学 心臓血管外科)

4. 行政からのアプローチの可能性

井内 努(厚生労働省 健康局難病対策課移植医療対策推進室)

総合討論:

井内 努(厚生労働省 健康局難病対策課移植医療対策推進室)

小野 稔(東京大学 心臓外科)

布田 伸一(東京女子医科大学大学院 重症心不全制御学分野)

戸田 宏一(大阪大学 心臓血管外科)

福嶋 教偉(国立循環器病研究センター 移植医療部)

齋木 佳克(東北大学 心臓血管外科)

(12) 医療安全委員会

医療安全に関する講演会

(3月25日(日) 13:50~14:50 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長: 尾崎 行男(藤田保健衛生大学 循環器内科)

演 者:

医療安全管理の全体像~循環器診療も含めた 平時と有事の対応~

長尾 能雅(名古屋大学 医療の質・安全管理部)

(13) 倫理委員会

倫理に関する講演会

(3月25日(日) 14:50~15:50 第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)

座長: 宮崎 俊一(近畿大学 循環器内科)

近森大志郎(東京医科大学 循環器内科)

演 者:

臨床研究の環境の変化

黒川 典誉(厚生労働省 医政局 研究開発振興課)

25. 市民公開講座

(1) 日 時: 2018年3月4日(日) 13:00~15:30

会 場: 大阪市中央公会堂(大集会室)

テーマ: 第82回日本循環器学会学術集会 市民公開講座

楽しく学んで健康長寿! ~よくわかる脳と心臓のお話~

主 催: 第82回日本循環器学会学術集会, 公益財団法人日本心臓財団

後 援: 大阪府, 公益財団法人日本医師会, 一般社団法人大阪府医師会, 朝日新聞社

協 賛: 第一三共株式会社

日本心臓財団よりご挨拶: 北村惣一郎(日本心臓財団)

開会挨拶: 澤 芳樹(第82回日本循環器学会学術集会 会長/大阪大学 心臓血管外科学)

第1部 講演

司会: 堤 信子(アナウンサー)

講演①「その症状、もしかして脳卒中？どうする？」

演者：坂口 学(大阪急性期・総合医療センター 神経内科)

講演②「ここまで進化した医療の最先端～再生医療がもたらしたもの～」

演者：宮川 繁(大阪大学 先進幹細胞治療学)

講演③「心臓を長持ちさせる秘訣って、なに？」

演者：坂田 泰史(大阪大学 循環器内科学)

第2部 特別講演「落語的学問のすすめ」

桂 文珍(落語家)

第3部 事前質問への回答コーナー

閉会挨拶：澤 芳樹(第82回日本循環器学会学術集会 会長／大阪大学 心臓血管外科学)

(2) 日 時：2018年3月25日(日) 14:00～16:10

会 場：大阪 YMCA 国際文化センター(2階ホール)

テーマ：第16回心肺蘇生法市民公開講座

「命の大切さを考える」—心肺蘇生法(コールアンドプッシュ)を学ぼう—

主 催：一般社団法人 日本循環器学会 循環器救急医療・災害対策委員会

後 援：大阪府、大阪市、大阪府医師会、兵庫県医師会

プログラム：

開会挨拶

下川 宏明(東北大学)

座長：田原 良雄(国立循環器病研究センター)

秦 広樹(大阪大学)

講演①「心筋梗塞で命を落とさないために ～心筋梗塞の前兆とは～」

講師：上田 恭敬(国立病院機構 大阪医療センター)

講演②「心肺蘇生法の解説」

講師：真野 敏昭(関西ろうさい病院)

心肺蘇生法講習

コースコーディネーター：脇田 佳典(和歌山県消防学校)

井上 知美(近畿大学)

閉会挨拶：野々木 宏(静岡県立総合病院)

26. ランチョンセミナー・コーヒーブレイクセミナー・ファイアサイドセミナー

3月23日(金) 12:20～13:10

LS-1 New Technology を用いた心房細動の治療戦略：EnSite Precision™ & TactiCath™ SEの実際と可能性(仮) 〈日本語〉

(第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)

座長：吉田 幸彦(名古屋第二赤十字病院 循環器内科)

演者：副島 京子(杏林大学 循環器内科)

共催：アボット(セント・ジュード・メディカル株式会社)

LS-2 糖尿病患者の個別医療—メタボ対策からフレイル対策 〈日本語〉

(第3会場 大阪国際会議場 7階 701+702)

座長：斎藤 能彦(奈良県立医科大学 循環器内科学)

演者：綿田 裕孝(順天堂大学 代謝内分泌学)

共催：田辺三菱製薬株式会社

- LS-3 心房細動アブレーション治療の医療連携を考える (日本語)
(第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)
座長: 岡崎 修(国立国際医療研究センター病院 循環器内科)
演者: 高月 誠司(慶應義塾大学 循環器内科)
共催: 日本メドトロニック株式会社
- LS-4 大規模臨床試験を踏まえた日本人2型糖尿病の治療戦略 (日本語)
~DPP4阻害薬を治療にどう位置づけるか?~
(第5会場 大阪国際会議場 11階 1101+1102)
座長: 阿古 潤哉(北里大学 循環器内科学)
演者: 小田原雅人(東京医科大学 糖尿病・代謝・リウマチ・膠原病内科学分野)
共催: 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社/日本イーライリリー株式会社
- LS-5 MCS Therapy: A True Partnership Between Cardiologists and Surgeons (英語)
(第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)
座長: 絹川弘一郎(富山大学医学薬学研究部(医学) 内科学(第二)講座)
1. 演者: Nir Uriel(Heart Failure, Transplant, and Mechanical Circulatory Support, The University of Chicago Medicine, USA)
2. 演者: Yoshifumi Naka (Cardiac Transplantation, and Mechanical Circulatory Support Program, Columbia University/New York Presbyterian Hospital, USA)
共催: アボット(セント・ジュード・メディカル株式会社)/ニプロ株式会社
- LS-6 ここまでわかってきたファブリー病 (日本語)
(第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)
座長: 安斉 俊久(北海道大学 循環病態内科学)
1. 日本人ファブリー病患者の心病変と長期酵素補充療法の効果
演者: 本郷 賢一(東京慈恵会医科大学 循環器内科)
2. ファブリー病における血管障害
演者: 藤井 秀毅(神戸大学 腎臓内科, 腎・血液浄化センター)
共催: 大日本住友製薬株式会社
- LS-7 高齢者糖尿病の薬物治療と包括的管理 (日本語)
(第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)
座長: 北風 政史(国立循環器病研究センター 研究開発基盤センター 臨床研究部)
演者: 横手幸太郎(千葉大学 細胞治療内科学講座)
共催: 武田薬品工業株式会社
- LS-8 IMPELLA-Hemodynamic Support and Beyond (日本語)
(第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
座長: 小野 稔(東京大学 心臓外科)
代田 浩之(順天堂大学 循環器内科学)
1. 大阪大学における IMPELLA の経験
演者: 戸田 宏一(大阪大学 心臓血管外科)
2. 急性心原性ショック例における経皮的心室補助器の適応と効果
—実際の臨床症例経験からの知見及び見解—
演者: 中村 守男(Cedars-Sinai Medical Center, Los Angeles, CA, USA)
共催: 日本アビオメッド株式会社

- LS-9 VAD's Dr. Robert Jarvik's perspective 〈英語〉
 (第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
 座長: 澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科)
 演者: Robert Jarvik(Jarvik heart. Inc)
 共催: センチュリーメディカル株式会社
- LS-10 組織修復マクロファージ: 心筋梗塞治療への応用 〈日本語〉
 (第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)
 座長: 宮川 繁(大阪大学 心臓血管外科 共同研究講座)
 演者: 鈴木 憲(Translational Cardiovascular Therapeutics William Harvey Research Institute Barts and The London School of Medicine and Dentistry Queen Mary University of London, UK)
 共催: テルモ株式会社
- LS-11 進化し続ける抗凝固療法 ~XAPASS と JACRE から学ぶこと~ 〈日本語〉
 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)
 座長: 平尾 見三(東京医科歯科大学 心臓調律制御学)
 演者: 井上 耕一(桜橋渡辺病院 心臓血管センター 循環器内科)
 共催: バイエル薬品株式会社
- LS-12 冠動脈疾患の residual risk を考える 〈日本語〉
 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)
 座長: 吉村 道博(東京慈恵会医科大学 循環器内科)
 演者: 安田 聡(国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門)
 共催: 興和創薬株式会社
- LS-13 心アミロイドーシスの診断と心アミロイドーシスに潜む TTR-FAP 〈日本語〉
 (第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)
 座長: 室原 豊明(名古屋大学 循環器内科学)
 1. 日常診療に潜む心臓アミロイドーシス~どう対峙するのか
 演者: 猪又 孝之(北里大学北里研究所病院 循環器内科)
 2. 家族性アミロイドポリニューロパチーの診断と治療
 演者: 小池 春樹(名古屋大学 神経内科)
 共催: ファイザー株式会社
- LS-14 ダブルカフチップレスカニューレと EVAHEART2 が拓く VAD の可能性
 ~カニューレの左室内位置異常とポンプポケット感染症例に対する代替策~ 〈日本語〉
 (第15会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 牡丹)
 座長: 山崎 健二(北海道循環器病院先端医療センター)
 1. Inflow Design Impact Mitigating Post-LVAD Stroke
 演者: 本村 禎(Evaheart, Inc., Houston, Texas)
 2. Technical consideration to avoid inflow cannula malposition
 演者: Masahiro Ono (Texas Heart Institute/St. Luke's Hospital, Transplant and MCS, Baylor College of Medicine)
 共催: 株式会社サンメディカル技術研究所
- LS-15 Anticoagulation for Stroke Prevention in AF: Reducing the Burden of Bleeding 〈英語〉
 (第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)
 座長: 味岡 正純(公立陶生病院 循環器内科)
 演者: John Eikelboom(McMaster University)
 共催: ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社/ファイザー株式会社

- LS-16 心不全予防を考慮した糖尿病治療戦略～SGLT2 阻害薬使用の tips and tricks～ 〈日本語〉
(第17会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ダイヤモンド)
座長：平山 篤志(日本大学 内科学系循環器内科学分野)
演者：三木 隆幸(札幌医科大学 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座)
共催：小野薬品工業株式会社/アストラゼネカ株式会社
- LS-17 循環器医が考える SGLT2 阻害剤の可能性 〈日本語〉
(第18会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 楓)
座長：山岸 昌一(久留米大学 糖尿病性血管合併症病態・治療学)
演者：高島 浩明(愛知医科大学 循環器内科)
共催：サノフィ株式会社
- LS-18 How to use imaging for high risk patient 〈日本語〉
(第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)
座長：小室 一成(東京大学 循環器内科学)
1. PCSK-9 阻害剤効果判定における血管内イメージングの臨床的有用性
演者：横井 宏佳(福岡山王病院 循環器センター/国際医療福祉大学)
2. 糖尿病合併三次予防患者における画像診断と脂質治療の最前線
演者：平井 愛山(日本慢性疾患重症化予防学会(JMAP)/千葉県循環器病センター
総合診療内科)
共催：アステラス製薬株式会社/アステラス・アムジェン・バイオファーマ株式会社
- CBS-1 今こそ知っておくべき失神患者の診断最前線—Reveal LINQ 活用の実例— 〈日本語〉
(第5会場 大阪国際会議場 11階 1101+1102)
座長：安部 治彦(産業医科大学 不整脈先端治療学)
1. 植込み型心臓モニタ登場による失神原因究明のパラダイムシフト
演者：丹下 正一(前橋赤十字病院 心臓血管内科)
2. 失神の診断と治療の実例—Insertable Cardiac Monitor の使い方
演者：古川 俊行(聖マリアンナ医科大学東横病院 失神センター)
共催：日本メドトロニック株式会社
- CBS-2 心腎連関の新しい展開 多臓器連関または非心筋細胞からみた心不全 〈日本語〉
(第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)
座長：斎藤 能彦(奈良県立医科大学 循環器内科学)
多臓器連関または非心筋細胞からみた心不全
演者：小室 一成(東京大学 循環器内科学)
共催：田辺三菱製薬株式会社
- CBS-3 再生医療による心不全治療 〈日本語〉
(第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
座長：布田 伸一(東京女子医科大学 重症心不全制御学分野)
新浪 博士(東京女子医科大学 心臓血管外科)
1. 心不全治療の現状と再生医療への期待—循環器内科医の立場から—
演者：百村 伸一(自治医科大学附属さいたま医療センター)
2. 再生医療による心不全治療
演者：澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科学)
共催：第一三共株式会社/クオリップス株式会社
- CBS-4 卵円孔開存と潜因性脳梗塞：最新のエビデンス 〈日本語〉
(第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)
座長：中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)

1. 演者：木村 和美(日本医科大学 神経・脳血管内科)
 2. 演者：赤木 禎治(岡山大学 循環器内科)
- 共催：アボット(セント・ジュード・メディカル株式会社)

CBS-5 Stent graft treatment brings good fortune to aortic dissection patients
 —大動脈解離に対するステントグラフト治療— 〈日本語〉
 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)
 座長：加地修一郎(神戸市立医療センター中央市民病院 循環器内科)
 演者：加藤 雅明(森之宮病院 心臓血管外科)
 共催：日本ゴア株式会社

CBS-6 肺高血圧症における右室機能評価の意義とリオシグアートの有用性について 〈日本語〉
 (第17会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ダイヤモンド)
 座長：佐藤 徹(杏林大学 第二内科)
 演者：村田 光繁(慶應義塾大学 臨床検査医学/循環器内科)
 共催：バイエル薬品株式会社

3月23日(金) 18:00~19:00

FS-1 肺動脈性肺高血圧症における薬剤治療 overview 〈日本語〉
 ~国内外ガイドライン及び最新の Topic に注目して~
 (第3会場 大阪国際会議場 7階 701+702)
 座長：上野 高義(大阪大学 外科学講座 心臓血管外科)
 演者：高橋 朋彦(グラクソ・スミスクライン株式会社 開発本部 希少疾患医薬品
 開発センター)
 共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

FS-2 家族性高コレステロール血症の治療戦略—いつ、どのように治療介入すべきか?— 〈日本語〉
 (第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)
 座長：山下 静也(りんくう総合医療センター/大阪大学大学院 総合地域医療学寄
 附講座)
 演者：斯波真理子(国立循環器病研究センター研究所 病態代謝)
 共催：エージェリオンファーマシューティカルズ株式会社

FS-3 今改めて考える糖尿病患者の病態に即した降圧治療とは? 〈日本語〉
 (第5会場 大阪国際会議場 11階 1101+1102)
 座長：伊藤 正明(三重大学 循環器・腎臓内科学)
 演者：山岸 昌一(久留米大学 糖尿病性血管合併症病態・治療学)
 共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社/アステラス製薬株式会社

FS-4 BNPの新展開 〈日本語〉
 (第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)
 座長：川井 真(東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科)
 1. BNPの歩み
 演者：吉村 道博(東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科)
 2. BNP; 低ければ良いのか
 演者：南井 孝介(東京慈恵会医科大学 内科学講座 循環器内科)

3. BNP 研究の新展開

演者：桑原宏一郎(信州大学 循環器内科学教室)

共催：塩野義製薬株式会社/協和メデックス株式会社/東ソー株式会社/株式会社 LSI
メディエンス/アボット ジャパン株式会社/積水メディカル株式会社/富士レ
ジオ株式会社/アリーア メディカル株式会社

FS-5 第3世代 DES は何をもたらしたのか ―ステント治療を再考する― 〈日本語〉

(第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)

座長：柴田 剛徳(宮崎市郡医師会病院 心臓病センター 循環器内科)

七里 守(日本赤十字社名古屋第二赤十字病院)

1. 第二世代 DES の概念

演者：中澤 学(東海大学 循環器内科)

2. 大規模臨床試験データから考える

演者：外海 洋平(大阪警察病院 循環器内科)

3. 血管内視鏡から見た第3世代 DES への期待

演者：上野 高史(久留米大学 循環器病センター)

共催：ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

FS-6 肺動脈性肺高血圧症(PAH)の治療ターゲットとしての BMPR2 シグナル伝達系 〈英語〉

(第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)

座長：渡邊 裕司(浜松医科大学 臨床薬理学講座)

The role of BMPR2 signaling in the pathophysiology of PAH: from basic research to clinical practice

演者：Edda Spiekerkoetter (Stanford University)

共催：日本新薬株式会社

FS-7 循環器医の不眠診療～「眠り」のお悩みありませんか？～ 〈日本語〉

(第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)

座長：井上 博(富山県済生会富山病院)

演者：岡田 武規(広島赤十字・原爆病院 循環器内科)

共催：エーザイ株式会社

FS-8 Orsiro DES: Current Clinical Evidence and Future Clinical Perspective 〈日本語〉

(第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)

座長：中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)

門田 一繁(倉敷中央病院 循環器内科)

1. Current clinical evidence for the clinical performance and safety of Orsiro DES

演者：中川 義久(天理よろづ相談所病院 循環器内科)

2. Future clinical perspective of Orsiro DES

演者：中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)

共催：日本ライフライン株式会社

FS-9 糖尿病患者の心血管イベント抑制に GLP-1 受容体作動薬をどのように活用すべきか？ 〈日本語〉

(第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長：倉林 正彦(群馬大学 内科学講座 循環器内科学)

演者：小田原雅人(東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌・リウマチ・膠原病内科学
分野)

共催：ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

- FS-10 pVAD 時代における IABP の役割：心原性ショックへのアプローチ 〈日本語〉
 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)
 座長：河口 廉(群馬県立心臓血管センター 循環器内科)
 演者：山本 剛(日本医科大学 心臓血管集中治療科)
 共催：ゲティンゲグループ・ジャパン株式会社
- FS-11 TAVI の価値とは 〈英語/日本語〉
 (第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)
 座長：小林順二郎(国立循環器病センター 心臓血管外科部門)
 1. How Far TAVI Has Come
 演者：Susheel Kodali(Heart Valve Center, Columbia University, New York, USA)
 2.
 演者：坂巻 弘之(東京理科大学 経営学部)
 共催：エドワーズライフサイエンス株式会社
- FS-12 識る／診る／予防する—睡眠時無呼吸と心血管疾患の連鎖— 〈日本語〉
 (第15会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 牡丹)
 座長：清野 精彦(日本医科大学千葉北総病院/日本医科大学 名誉教授)
 1. 高血圧マネジメントにおける睡眠時無呼吸治療の意義～自治医科大学高血圧研究より～
 演者：星出 聡(自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門)
 2. 睡眠呼吸障害を見逃さない—スクリーニングする, 心血管疾患の病態を読み解く—
 演者：河野 隆志(慶應義塾大学 循環器内科 重症心不全治療学寄附講座)
 クロージングリマックス：清野 精彦(日本医科大学千葉北総病院/日本医科大学 名誉教授)
 共催：帝人ファーマ株式会社/帝人在宅医療株式会社
- FS-13 脂質異常症患者における心血管イベント再発予防の治療戦略 —EPA/AA 比の重要性— 〈日本語〉
 (第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ベリドット)
 座長：辻田 賢一(熊本大学 生命科学研究部 循環器内科学分野)
 演者：岩淵 成志(琉球大学 循環器・腎臓・神経内科学講座)
 共催：持田製薬株式会社
- FS-14 ワルファリン服用患者の出血リスクマネジメントにおける 4F-PCC(プロトロンビン複合体製剤)ケイセントラ[®]の位置づけ 〈日本語〉
 (第17会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ダイヤモンド)
 座長：山下 武志(心臓血管研究所)
 演者：矢坂 正弘(国立病院機構九州医療センター 脳血管センター 脳血管・神経内科)
 共催：CSL ベーリング株式会社
- FS-15 糖尿病合併 CKD 患者の個別化降圧療法 —SGLT2 阻害薬の意義— 〈日本語〉
 (第18会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 楓)
 座長：佐野元昭(慶應義塾大学 循環器内科)
 演者：古波蔵健太郎(琉球大学 血液浄化療法部)
 共催：大正富山医薬品株式会社

3月24日(土) 12:20~13:10

- LS-19 抗凝固に関する【本当の】疑問にお答えする50分 〈日本語〉
(第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)
座長: 中川 義久(天理よろづ相談所病院 循環器内科)
演者: 香坂 俊(慶應義塾大学 循環器内科)
共催: ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社/ファイザー株式会社
- LS-20 虚血診断における FFR/CFR その類似点と相違点 〈日本語〉
—CFR: similarities and differences compared with FFR—
(第3会場 大阪国際会議場 7階 701+702)
座長: 代田 浩之(順天堂大学 循環器内科学)
演者: 松尾 仁司(岐阜ハートセンター 循環器内科)
共催: 日本心臓核医学会/日本核医学会/富士フイルム RI ファーマ株式会社
- LS-21 エビデンスに基づいた糖尿病治療 ~SGLT2 阻害薬の位置づけを含めて~ 〈日本語〉
(第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)
座長: 野出 孝一(佐賀大学 循環器内科)
演者: 小田原雅人(東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌・リウマチ・膠原病内科学分野)
共催: 田辺三菱製薬株式会社/第一三共株式会社
- LS-22 真髄×抗凝固療法 〈日本語〉
(第5会場 大阪国際会議場 11階 1101+1102)
座長: 中尾 浩一(済生会熊本病院)
1. PCI 施行患者の心房細動治療
演者: 八巻 多(名寄市立総合病院 救急室/循環器内科)
2. 心房細動アブレーション Update: 最新テクノロジーと周術期管理
演者: 奥村 謙(済生会熊本病院 心臓血管センター 不整脈先端治療部門)
共催: 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
- LS-23 第79回冠循環談話会「冠動脈疾患をめぐる日本発のエビデンス構築」 〈日本語〉
(第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)
座長: 木原 康樹(広島大学 医歯薬保健学研究科 循環器内科学)
1. CT イメージからの冠動脈疾患発症予測の確立
演者: 元山 貞子(藤田保健衛生大学 循環器内科学)
2. 冠動脈疾患をめぐる日本発のエビデンス構築
演者: 木村 剛(京都大学 循環器内科学)
共催: 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
- LS-24 肺高血圧症の新たな治療展開 〈日本語〉
(第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)
座長: 伊藤 浩(岡山大学 医歯薬学総合研究科 循環器内科学)
演者: 小川 愛子(岡山医療センター 臨床研究部 分子病態研究室)
共催: 日本新薬株式会社
- LS-25 これからの時代に求められる心不全包括治療 〈日本語〉
(第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)
座長: 山本 一博(鳥取大学 病態情報内科学)
1. 心不全を地域で診る心不全地域チーム医療の重要性
演者: 多田 毅(倉敷中央病院 心臓病センター循環器内科)

2. 再入院回避を目指した患者指導の実際
 演者：中川 正康(市立秋田総合病院 循環器内科)
 3. 生活の場を診る心不全医療
 演者：弓野 大(ゆみのハートクリニック)
 共催：帝人ファーマ株式会社/帝人在宅医療株式会社
- LS-26 新しいガイドラインに基づいた心不全うっ血治療 〈日本語〉
 (第9会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール)
 座長：小室 一成(東京大学 循環器内科学)
 演者：絹川弘一郎(富山大学 医学薬学研究部 内科学第二)
 共催：大塚製薬株式会社
- LS-27 自己拡張型 TAVI デバイスの新しい可能性 〈日本語〉
 (第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
 座長：倉谷 徹(大阪大学 低侵襲循環器医療学)
 演者：桃原 哲也(榊原記念病院)
 共催：日本メドトロニック株式会社
- LS-28 Progress on Aortic Valve Replacement: Sutureless Valve 〈英語〉
 (第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)
 座長：澤 芳樹(大阪大学 心臓血管外科)
 演者：Axel Haverich (Dept. of Cardiothoracic, Transplantation, and Vascular Surgery, Hannover Medical School, Germany)
 共催：日本ライフライン株式会社
- LS-29 睡眠呼吸障害がもたらす血圧変動 〈日本語〉
 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)
 座長：苅尾 七臣(自治医科大学 内科学講座循環器内科学部門)
 演者：安藤 眞一(九州大学 睡眠時無呼吸センター)
 共催：フクダ電子株式会社/フクダライフテック株式会社
- LS-30 心不全パンデミックを見据えた高血圧治療 〈日本語〉
 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)
 座長：筒井 裕之(九州大学 循環器内科学)
 演者：安齊 俊久(北海道大学 循環病態内科学)
 共催：武田薬品工業株式会社
- LS-31 心機能を彩る循環器最新アプリケーション 〈日本語〉
 (第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)
 座長：玉木 長良(京都府立医科大学 放射線診断治療学)
 1. 直感, 壁運動カラーマッピング
 演者：石津 智子(筑波大学 循環器内科)
 2. Advantage of Comprehensive Myocardial Perfusion CT imaging
 演者：真鍋 徳子(北海道大学 放射線診断科)
 共催：キヤノンメディカルシステムズ株式会社
- LS-32 多剤併用時代の PAH 治療 —プロスタサイクリンの役割とは— 〈日本語〉
 (第15会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 牡丹)
 座長：田邊 信宏(千葉大学 先端肺高血圧症医療学)
 演者：松原 広己(国立病院機構岡山医療センター)
 共催：アステラス製薬株式会社/東レ株式会社

- LS-33 Complex PCI を拓く 〈日本語〉
(第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)
座長：森野 禎浩(岩手医科大学)
柴田 剛徳(宮崎市郡医師会病院)
1. Optical Coherence Tomography Guided Percutaneous Coronary Intervention in Acute Coronary Syndrome
演者：久保 隆史(和歌山県立医科大学)
2. We Love XIENCE as Gold Standard of DES
演者：川崎 友裕(新古賀病院)
共催：アボット バスキュラー ジャパン株式会社
- LS-34 肺高血圧症治療における NO-sGC-cGMP pathway の果たす役割 〈日本語〉
(第17会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ダイヤモンド)
座長：江本 憲昭(神戸薬科大学 臨床薬学/神戸大学 循環器内科学分野)
演者：波多野 将(東京大学 重症心不全治療開発講座)
共催：バイエル薬品株式会社
- LS-35 “The Lower LDL-C is Better” か 〈日本語〉
(第18会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 楓)
座長：山下 静也(りんくう総合医療センター/大阪大学 総合地域医療学寄附講座・循環器内科学)
演者：寺本 民生(帝京大学臨床研究センター)
共催：MSD 株式会社/バイエル薬品株式会社
- LS-36 DOAC 時代の抗凝固療法～リアルワールドの登録研究を読み解く 〈日本語〉
(第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)
座長：下川 宏明(東北大学 循環器内科学)
1. GARFIELD-AF—国際レジストリーから見たアジア, 日本の特徴—
演者：是恒 之宏(大阪医療センター)
2. RCT から Real World へ：日本の登録研究から考える
演者：池田 隆徳(東邦大学 循環器内科学)
共催：バイエル薬品株式会社
- LS-37 リードレスペースメーカーの現状 〈日本語〉
(第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)
座長：平尾 見三(東京医科歯科大学 循環器内科)
演者：副島 京子(杏林大学 循環器内科)
共催：日本メドトロニック株式会社
- LS-38 心房細動という駄菓子屋 〈日本語〉
(第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)
座長：井上 博(富山県済生会富山病院)
演者：山下 武志(心臓血管研究所)
共催：第一三共株式会社

3月24日(土) 16:30~17:20

- CBS-7 Onco-Cardiology 〈日本語〉
(第5会場 大阪国際会議場 11階 1101+1102)
座長：伊藤 浩(岡山大学医歯薬学総合研究科 循環器内科学)
1. がん治療関連性心血管障害
演者：志賀 太郎(がん研究会有明病院 腫瘍循環器・循環器内科)

2. 担癌患者の静脈血栓症治療における DOAC の有用性

演者：池田 聡司(長崎大学医歯薬学総合研究科 循環器内科学)

共催：第一三共株式会社

CBS-8 Protecting Patients at Risk of Sudden Cardiac Death: Results of the Vest Early Prevention of Sudden Death (VEST) Trial 〈英語〉

(第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)

座長：上妻 謙(帝京大学内科学講座 循環器内科)

演者：Jeffrey Olgin(UCSF School of Medicine)

共催：旭化成ゾールメディカル株式会社

CBS-9 超高齢社会の薬物療法と Pharmaco-frailty 〈日本語〉

～生理機能「ゆらぎ」を考慮した薬剤選択の重要性～

(第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)

座長：荒井 秀典(国立長寿医療研究センター/老年学・社会科学研究センター)

演者：竹屋 泰(大阪大学 老年・総合内科学)

共催：沢井製薬株式会社

CBS-10 プライマリーケアにおける PMC の現状と展望 〈日本語〉

～CareLink Express は医療連携の壁を超えるか?～

(第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)

座長：加藤 律史(埼玉医科大学国際医療センター/心臓内科(不整脈科))

演者：初野 健人(初野医院/帝京大学 臨床検査医学)

共催：日本メドトロニック株式会社

CBS-11 高安動脈炎診療 Up to date ～IL-6阻害療法と診療科連携の重要性～ 〈日本語〉

(第17会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ダイアモンド)

座長：磯部 光章(日本心臓血圧研究振興会 榊原記念病院/東京医科歯科大学)

演者：中岡 良和(国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部)

共催：中外製薬株式会社

3月25日(日) 9:40～10:30

CBS-12 メタボリックシンドロームと高尿酸血症～新たな治療標的 XOR～ 〈日本語〉

(第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)

座長：室原 豊明(名古屋大学 循環器内科学)

演者：下村伊一郎(大阪大学 内分泌・代謝内科学)

共催：株式会社三和化学研究所

CBS-13 新たなガイドラインを活かす！ ここだけは押さえない心不全治療のポイント 〈日本語〉

(第17会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ダイアモンド)

座長：木原 康樹(広島大学 医歯薬保健学研究科)

演者：佐藤 直樹(日本医科大学武蔵小杉病院 循環器内科)

共催：トーアエイヨー株式会社

CBS-14 高齢化社会における心不全患者の再入院予防と治療 〈日本語〉

(第18会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 楓)

座長：増山 理(兵庫医科大学 内科学講座 循環器内科)

演者：山本 一博(鳥取大学 病態情報内科学分野)

共催：ファイザー株式会社

3月25日(日) 12:20~13:10

- LS-39 日本の糖尿病治療における SGLT2 阻害薬の役割 〈日本語〉
(第1会場 大阪国際会議場 5階 大ホール)
座長: 平山 篤志(日本大学 内科学系循環器内科学分野)
1. これからの糖尿病治療における SGLT2 阻害薬への期待
演者: 坊内良太郎(国立国際医療研究センター糖尿病情報センター 臨床情報研究室)
2. 糖尿病治療 Up To Date~臨床で SGLT2 阻害薬を活かすために~
演者: 神谷 英紀(愛知医科大学 内科学講座 糖尿病内科)
共催: アステラス製薬株式会社/寿製薬株式会社/MSD 株式会社
- LS-40 急性心不全患者の治療戦略 〈日本語〉
(第3会場 大阪国際会議場 7階 701+702)
座長: 清水 渉(日本医科大学 循環器内科学分野)
演者: 坂田 泰史(大阪大学 循環器内科学)
共催: 小野薬品工業株式会社
- LS-41 循環器内科医が見逃してはならない遺伝性疾患 ファブリー病 〈日本語〉
(第4会場 大阪国際会議場 8階 801+802)
座長: 竹中 俊宏(垂水市立医療センター垂水中央病院)
1. 女性も発症する X連鎖性遺伝性疾患ファブリー病~男女で異なる症状と診断法~
演者: 安川 秀雄(久留米大学 内科学講座 心臓・血管内科部門)
2. ファブリー病の治療と治療効果判定
演者: 豊田 茂(獨協医科大学 心臓・血管内科)
共催: サノフィ株式会社
- LS-42 循環器の立場からみた糖尿病治療戦略~DPP-4 阻害薬・SGLT2 阻害薬の併用意義を考える~ 〈日本語〉
(第5会場 大阪国際会議場 11階 1101+1102)
座長: 新家 俊郎(神戸大学 内科学講座 循環器内科学分野)
演者: 佐野 元昭(慶應義塾大学 循環器内科)
共催: MSD 株式会社
- LS-43 エビデンスに基づく循環器疾患患者の便秘診療—慢性便秘診療ガイドライン2017と今後の展望— 〈日本語〉
(第6会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場)
座長: 荻尾 七臣(自治医科大学 内科学講座 循環器内科学部門)
演者: 中島 淳(横浜市立大学 肝胆脾消化器病学教室)
共催: マイラン EPD 合同会社
- LS-44 心血管腎臓病に克つために 〈日本語〉
(第7会場 大阪国際会議場 12階 1202)
座長: 北風 政史(国立循環器病研究センター 臨床研究部)
演者: 田村 功一(横浜市立大学 循環器・腎臓・高血圧内科学)
共催: シミックホールディングス株式会社/積水メディカル株式会社
- LS-45 急性・慢性心不全診療ガイドライン2017~改訂のポイント~ 〈日本語〉
(第8会場 大阪国際会議場 12階 グラントック)
座長: 室原 豊明(名古屋大学 循環器内科学)
演者: 筒井 裕之(九州大学 循環器内科学)
共催: 田辺三菱製薬株式会社

- LS-46 All what you should know about MitraClip®: update from US and Japan (英語/日本語)
 (第10会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳1)
 座長: 齋藤 滋(湘南鎌倉総合病院)
 1. 演者: Paul Sorajja (Minneapolis Heart Institute)
 2. 演者: 齋藤 滋(湘南鎌倉総合病院)
 共催: アボット バスキュラー ジャパン株式会社
- LS-47 肺動脈性肺高血圧症の診断/治療 (日本語)
 (第11会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳2)
 座長: 佐藤 徹(杏林大学 循環器)
 1. 肺高血圧症のバイオバンク構築と遺伝子診断体制の確立
 演者: 片岡 雅晴(慶應義塾大学 循環器内科)
 2. 肺高血圧症~第6回 PH ワールドシンポジウムのレビューと今後の展望
 演者: 辻野 一三(北海道大学 第一内科)
 共催: ファイザー株式会社
- LS-48 日本最大の大規模臨床試験 REAL-CAD の報告 (日本語)
 (第12会場 リーガロイヤルホテル大阪 3階 光琳3)
 座長: 永井 良三(自治医科大学)
 演者: 木村 剛(京都大学 循環器内科学)
 共催: 興和創薬株式会社
- LS-49 個別化医療を意識した血糖・血圧管理 (日本語)
 (第13会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桐)
 座長: 長谷部直幸(旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野)
 1. 積極的降圧療法 “下げる理由探し” から “下げない理由探し” への意識改革
 演者: 甲斐 久史(久留米大学医療センター 循環器内科)
 2. 糖尿病専門医はなぜメトホルミンを使うのか?
 演者: 小川 渉(神戸大学 糖尿病・内分泌内科学)
 共催: 大日本住友製薬株式会社
- LS-50 健康寿命延伸を見据えた糖尿病治療 ~SGLT2 阻害薬の心不全への期待~ (日本語)
 (第14会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 桂)
 座長: 伊藤 浩(岡山大学 医歯薬学総合研究科 循環器内科学)
 演者: 野出 孝一(佐賀大学 内科学講座)
 共催: 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社/日本イーライリリー株式会社
- LS-51 心臓核医学分野での医療情報の標準化 ~SEAMAT を用いたビッグデータ構築に向けて~ (日本語)
 (第15会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 牡丹)
 座長: 中村 淳(新東京病院)
 演者: 竹花 一哉(関西医科大学 内科学第二講座)
 共催: 日本心臓核医学会/日本メジフィジックス株式会社
- LS-52 心血管イベントリスクとしての高トリグリセライド(中性脂肪)血症の評価と治療 (日本語)
 (第16会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ペリドット)
 座長: 石田 達郎(神戸大学 内科学講座 循環器内科学分野)
 演者: 増田 大作(大阪大学 循環器内科学)
 共催: 武田薬品工業株式会社

LS-53 日本の臨床で High-Sensitivity トロポニン は本当に必要か？ ～その有用性とピットフォール～
〈日本語〉

(第17会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 ダイヤモンド)
座長：福本 義弘(久留米大学 内科学講座 心臓・血管内科部門)
演者：石井 潤一(藤田保健衛生大学 臨床検査科)
共催：シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社

LS-54 SGLT2 阻害薬併用時における 1,5AG の測定意義とその利用
〈日本語〉

(第18会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 楓)
座長：石原 正治(兵庫医科大学 冠疾患内科)
演者：高山 忠輝(日本大学 内科学系 循環器内科学分野)
共催：日本化薬株式会社

LS-55 PCI 施行患者に対するこれからの脂質低下療法
〈日本語〉

(第19会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽1)
座長：中村 正人(東邦大学医療センター大橋病院 循環器内科)
演者：伊莉 裕二(東海大学 内科学系 循環器内科学)
共催：サノフィ株式会社

LS-56 TAVI：大動脈弁狭窄症にもたらした変革とは？
〈日本語〉

(第20会場 リーガロイヤルホテル大阪 2階 山楽2)
座長：阿古 潤哉(北里大学 循環器内科)
1. TAVI up to date～最新のエビデンスと今後の展望～
演者：鳥飼 慶(獨協医科大学埼玉医療センター 心臓血管外科)
2. 低侵襲 TAVI をさらに低侵襲に～TAVI の現状と将来への展望～
演者：白井 伸一(小倉記念病院 循環器内科)
共催：エドワーズライフサイエンス株式会社

LS-57 Improving outcomes in patients with CAD: Updated treatment strategies with ticagrelor
〈英語〉

(第21会場 堂島リバーフォーラム 1階 ホール)
座長：小林 欣夫(千葉大学 循環器内科)
演者：Kim Byeong-Keuk (Severance Cardiovascular Hospital, Yonsei University
College of Medicine, Seoul, Korea)
共催：アストラゼネカ株式会社

27. 一般演題(口述, ポスター, Featured Research Session)

28. 機器・書籍展示

開催日時：2018年3月23日(金) 8:00～17:50

2018年3月24日(土) 8:00～19:00

2018年3月25日(日) 8:00～16:40

会場：大阪国際会議場 3F, 10F, リーガロイヤルホテル大阪 3F

◆ 会員懇親会

日時：2018年3月24日(土) 19:10～21:10

会場：リーガロイヤルホテル大阪 3階 ロイヤルホール, 光琳

☆大阪の食と笑いをお楽しみください。

プレナリーセッション・シンポジウム・一般演題要項

プレナリーセッション、シンポジウム、一般演題の開催要領は原則として下記の通りです(ただし一部の日本語発表セッションを除く)。

1) プレナリーセッション：

- 招請外国人による講演(state-of-the-art)を行う。その後、招請外国人及び指定または公募通過者の計5名程度による発表。ただし一部の日本語発表セッションを除く。
- 発表者は各専門領域における各自のデータに加え、現況と将来の方向について講演(オーバービュー)する。
- 発表は一部日本語発表セッションを除き英語とする。
- 総合討論は行わない。

2) シンポジウム：

- 招請外国人による講演(keynote lecture)を行う。その後、招請外国人及び指定または公募通過者の計5名程度による発表。ただし一部の日本語発表セッションを除く。
- 各自の最先端の研究について発表し、自由な討論を行う。
- 発表は一部日本語発表セッションを除き英語とする。

3) 一般演題：

- 発表者は原則として、応募時に選択した日本語または英語で行う。
- 一般演題の発表形式は、以下のように分けられます。
 - ① Featured Research Sessions in English(英語発表希望者抄録のうち比較的高得点の演題から構成)
 - ② 一般演題口述発表(発表希望言語により日本語または英語セッションに分けられる)
 - ③ ポスター発表(発表希望言語により日本語または英語セッションに分けられる)

4) 特別企画：

- 真下記念講演、トピックス(*), コントロバーシー, ミートザエキスパート(*), ラウンドテーブルディスカッション, 教育セッションは日本語で行われます。
*一部セッションは英語で行われます。
- 美甘レクチャー, 特別講演は英語で行われます。

学術集会問い合わせ先のご案内

第82回日本循環器学会学術集会ホームページ [http:// http://www2.convention.co.jp/jcs2018/](http://http://www2.convention.co.jp/jcs2018/) を開設しております。演題応募や学術集会プログラムの確認などにご利用ください。 本会ホームページからもリンクしております。

1. 採否通知

2017年12月22日(金)から、採択された演題の登録番号、採択演題名、筆頭演者名、発表日時、発表会場をホームページでカテゴリー別に掲示しておりますので、各自ご確認ください。

2. 国内演者の資格

演題応募の時点で、筆頭著書および共著者は本学会の正会員または準会員であり、かつ2017年度会費納入者であることが必要です(※ただし、学部学生、修士、初期研修医、外国人留学生はこの限りではない)。入会をご希望の方は、下記ホームページよりご入会の手続きをお願いいたします。なお、入会は、入会金2,000円および2017年度会費(正会員：15,000円、準会員：8,000円)のお振込みをもって完了します。

ホームページ <http://www.j-circ.or.jp> の「ご入会案内」に入会申込書請求の入力フォームをご利用ください。

(一社)日本循環器学会事務局
〒100-0011
東京都千代田区内幸町1-1-1
帝国ホテルタワー18F
TEL: 03-5501-0861
FAX: 03-5501-9855
E-mail: admin@j-circ.or.jp

3. 演題取り下げについて

演題の取り消しは、会期初日の2ヶ月前(2018/1/22)をもちまして受付を終了いたしました。以後(2018/1/23～)については、発表業績として取り扱うとし、取り消しは致しかねます。

4. その他

第82回学術集会のプログラム・運営などに関するお問い合わせは、運営準備室まで E-mail または Fax にてご連絡ください。

第82回日本循環器学会学術集会 運営準備室
(日本コンベンションサービス株式会社 関西支社)
TEL: 06-6221-2580
FAX: 06-6221-5938
E-mail: jcs2018@convention.co.jp

第83回日本循環器学会学術集会 (JCS2019)

開催概要

会 期： 2019年 3 月29日(金)～31日(日)
会 長： 小室 一成 (東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学)
会 場： パシフィコ横浜

メインテーマ：循環器病学 Renaissance —未来医療への処方箋
Renaissance of Cardiology for the Creation of Future Medicine

1. 美甘レクチャー

Napoleone Ferrara (Distinguished Professor, UC San Diego Moores Cancer Center, USA)

2. 真下記念講演

宮園 浩平 (東京大学大学院医学系研究科 教授)

循環器専門医制度

専門医制度委員会

第82回日本循環器学会学術集会の循環器専門医研修単位について

1. 単位加算年度について

2017年度単位として加算されます。

〈2018年度専門医資格認定更新対象の先生へ〉

2018年度専門医資格認定更新のお手続きにあたり、第82回日本循環器学会学術集会で取得される単位も更新に必要な研修単位として認められます。

但し、その他のお手続きにつきましては、各受付期間中に必ずお済ませ下さい。

その他のお手続きの内容は、本誌内「循環器専門医認定更新のご案内」の82ページでご確認ください。

また、2018年度専門医資格認定更新のための研修単位をすでに充足されている場合でも、認定更新後(2018年4月1日～2023年3月31日)の研修単位には加算されませんのでご注意ください。

〈2018年度専門医資格新規認定となる先生へ〉

2017年8月の循環器専門医資格認定試験に合格された先生は、2018年4月1日(2018年度)からの認定となりますため、今回の学術集会は研修単位付与対象とはなりません。認定開始後(2018年4月1日～2023年3月31日)の研修単位には加算されませんのでご注意ください。

2. 循環器専門医資格認定更新に必要な研修単位の登録

《受付日時・各単位数》

注)セッション・講演会の開催時間と登録受付時間は異なります。

	学術集会	教育セッション	医療安全・倫理に関する講演会
単位数	10単位	5単位	2単位
専門医研修単位 登録受付場所	大阪国際会議場 (3階 イベントホール)	堂島リバー フォーラム (1階 ロビー)	堂島リバー フォーラム (1階 ロビー)
第1日目 3月23日(金)	7:00～17:50	14:50～17:20	—
第2日目 3月24日(土)	7:00～19:00	7:00～9:30	—
第3日目 3月25日(日)	7:00～16:40	9:00～11:30	13:20～15:20

※研修単位の登録は学術集会会期中、指定の時間内に研修単位登録受付において「循環器専門医カード」を提示する事により、単位を登録する方式です。

※会期中に登録を忘れた場合、会期後にプログラム・参加証等の他書類で研修単位を申告されても受付致しません。

※単位登録お手続きの際お渡しする「単位登録控」はご登録の証明となりますので、次回更新まで大切に保管してください。

※ご本人による登録のみが認められます。虚偽による登録が判明した場合には、専門医制度規則第10条により専門医資格の取消となりますのであらかじめご了承ください。

※65歳以上の単位取得免除制度は2008年3月31日をもって廃止されています。更新を希望される場合は年齢にかかわらず単位登録を行ってください。

学術集会

- 研修単位の登録は「専門医研修単位登録受付」(前頁表内に記載)にて行ってください。
- 研修単位は、参加日数に関わらず10単位です。

教育セッション

- 研修単位の登録は「教育セッション専門医研修単位登録受付」(前頁表内に記載)にて行ってください。
- 研修単位は、参加日数に関わらず5単位です。

医療安全・倫理に関する講演会

- 第82回学術集会では、第2回医療安全に関する講演会「医療安全管理の全体像～循環器診療も含めた平時と有事の対応～」(医療安全委員会)と第2回倫理に関する講演会「臨床研究の環境の変化」(倫理委員会)を必修研修単位である医療安全・医療倫理に関する研修単位付与対象としています。
- 研修単位の登録を行なうことで、2単位の医療安全・医療倫理に関する研修単位を取得できます。
- 研修単位の登録は「医療安全・倫理に関する講演会専門医研修単位登録受付」(前頁表内)にて所定の時間内に行ってください。

2018年度 日本循環器学会認定循環器専門医資格認定審査について

I. 審査方法

書類審査及び筆記試験(書類審査合格者のみ筆記試験の受験資格を有する)

II. 受験資格

1. 次の5項を充足していること.

- 1) 日本国の医師免許証を有し、医師としての人格及び見識を備えていること.
- 2) 受験年度の4月1日現在、認定内科医／総合内科専門医／外科学会認定登録医／外科専門医／小児科専門医、いずれかの資格を取得していること.
- 3) 本学会正会員であり、通算して6年以上の正会員歴を有すること(※1).
- 4) 医師免許取得後、専門医試験日前日をもって満6年以上の臨床研修歴を有すること(※2). 6年のうち3年以上は本学会指定の研修施設で研修していること(※3). 2004年度(平成16年度)以降に医師免許を取得したものは、基本領域資格取得後、専門医試験日前日をもって満3年以上本学会指定の研修施設で研修していること(※3, ※4).
- 5) 「AHA ACLS プロバイダーコース」「AHA ACLS-EP コース」「AHA ACLS インストラクターコース」「AHA ACLS-EP インストラクターコース」のいずれかを受講し、受験年度の4月1日現在有効な認定を受けていること. また小児科系に限り「AHA PALS プロバイダーコース」「AHA PALS インストラクターコース」も同等資格として認める.

2. 審査料(※5)および年会費を2018年6月末までに完納していること.

3. 喫煙が心血管病の危険因子であることを認識し、自ら禁煙し且つ禁煙の啓発に努めること.

4. 試験の合格後、専門医名簿への公開に同意すること.

※1 2018年4月1日現在6年目で可. 2014年度以降の入会者は受験できません.

※2 2003年度以前に医師免許を取得した方は2年間のスーパーローテーションを含む.

※3 研修関連施設での研修期間は1/2に換算されます.

※4 2015年9月以降の基本領域資格取得者は満3年以上の研修歴が満たないため、今回受験できません.

※5 払込用紙は5月上旬に送付の予定です.

III. 申請方法

以下の書類を事務局まで郵送してください. ①～⑤はWEBを介して作成し、印刷して提出してください.

⑥はWEB上よりダウンロードして必要事項を記入して提出してください. ⑦～⑧はコピーを提出してください.

書類作成にあたり、当会HPの「診療実績表評価基準」「よくあるご質問」「申請書作成の手引き」等を必ず確認してください.

※症例や引用論文は原則として10年以内のものとします.

※手術症例は開胸・開腹を伴うものとします.

※提出書類で個人が特定できる情報(氏名, ID, 住所, 生年月日の日にち)には必ずマスキングをして下さい. マスキングされていない(視認できる)場合には、それだけで不合格になることがあります.

(①～⑧まで全ての書類を同封してお送りください)

- ① 循環器専門医資格認定審査申請書
- ② 診療実績表(A)受持入院患者一覧表
- ③ 診療実績表(B)研修記録
- ④ 診療実績表(C)手術所見, (D)外科手術記録, (E)剖検記録のいずれか
- ⑤ 研修(研修関連)施設在籍証明書
- ⑥ 循環器専門医研修カリキュラム達成度評価表
- ⑦ 基本領域の資格証書のコピー
- ⑧ 「AHA ACLS プロバイダー」「AHA ACLS-EP」「AHA ACLS インストラクター」「AHA ACLS-EP インストラクター」、また小児科系に限り「AHA PALS プロバイダー」「AHA PALS インストラクター」いずれかのカードのコピー

IV. 日 程

日 程	内 容
1月31日～3月30日 16:00まで	受験申請・申請書類作成期間(※1) <u>この期間以後の新規受験申請は受付不可</u>
4月1日～4月9日 消印有効	申請書類提出期間(※2)
5月上旬	審査料払込用紙送付(※3)
5月～7月中旬	申請書類審査期間
7月下旬	書類審査結果通知(※4)
8月19日	筆記試験施行(※5)
10月下旬	可否通知

- ※1 受験者がWEBを介して受験申請・申請書類を作成する期間。
WEBで入力いただいたデータはこちらで保管しておりませんので、必要に応じてご自身で記録をお取りください。
- ※2 受験者が申請書類を事務局へ送付する期間。この期間以後に到着した書類は一切受け付け致しません。なお、提出された書類の確認は申請書類提出期間以降に行います。提出された書類は返却いたしませんので、必ず控えをとってお送りください。
(書類審査不合格の場合は、「研修カリキュラム達成度評価表」のみ返却致します。)
- ※3 事務局から審査料払込用紙を送付します。審査料は20,000円です。
1度支払われた審査料は、いかなる理由であっても返金しません。
- ※4 書類審査不合格の場合は、責任者にも判定理由を通知します。
- ※5 試験練習問題は学会ホームページ(一般公開)でご確認頂けます。

V. 認定について

- 試験の合格後、専門医認定申請の手続きをご案内致します。
- 認定料は30,000円です。

循環器専門医資格認定試験およびその申請書等において不正が判明した場合は専門医制度規則により厳格な処分が科せられます。

循環器専門医認定更新のご案内

2018年4月1日に循環器専門医資格認定更新となる循環器専門医へ、認定更新に必要な手続きについてご案内申し上げます。

認定更新の条件および手続き

	更新条件	手 続 き	対応期日
1	「更新」の意思表示 ※辞退する場合もお手続きください。	「認定更新 Web 申請」画面からご申請ください	2017年11月20日(月)中
2	基本領域の資格を取得していること (2018年4月1日現在有効な資格であること) 〈基本領域資格〉 認定内科医, 総合内科専門医, 外科専門医, 外科認定登録医, 小児科専門医	「認定更新 Web 申請」画面の URL は本ページ下に記載しています。 「認定更新 Web 申請」画面に『専門医更新 Web 申請の手引き』を掲載しています。確認しながら手続きを行ってください。	—重要— 11/20までに、更新に必要な単位を取得されていない場合も先にこちらのお手続きをお済ませ下さい。
3	更新に必要な単位の取得 〈必要単位数〉 次頁の所定単位表をご参照ください。 なお、所定単位表の別表Ⅰ～Ⅴは学会ホームページ内(循環器専門医制度→規定・規則)に掲載しております。	- 単位取得状況は、学会ホームページ(循環器専門医制度→「専門医単位照会」)よりご確認ください。 - 更新に必要な単位の不足分を「自己申告」で取得される場合は「認定更新 Web 申請」画面からご申請頂けます。	2018年3月31日(土)中
4	更新年度(2017年度)までの年会費の納入	- 納入状況は「認定更新 Web 申請」画面でご確認頂けます。 - 未納のため、振替用紙が必要な場合は下記【お問合せ先】E-mail までご請求ください。	2018年3月30日(金) 付ご入金まで
5	認定更新料(30,000円)の納入	条件1～4を満たされた先生から更新料振替用紙を順次発送させて頂きます。 郵便局よりお振り込みください。	振替用紙送付時にご案内します。

認定更新 Web 申請 URL : http://www.j-circ.or.jp/information/senmoni/web_shinsei.htm

- 認定期間終了時まで更新条件を充足していない場合、専門医資格は喪失となります。
- 証書は上記の更新条件を充足した方から、順次発送を致します。(3月中旬以降予定)
- 更新後の認定期間は2018年4月1日～2023年3月31日となります。

【お問合せ先】 一般社団法人 日本循環器学会 事務局
E-mail senmoni@j-circ.or.jp(専門医制度委員会 担当)
TEL: 03-5501-0864 FAX:03-5501-9855

Web 申請が難しい(インターネット環境がない)場合

以下に必要な事項をご記入の上、FAX にて本用紙を事務局まで至急送付してください。
必要書類・手続き方法を送付致します。

お名前： _____ (日循会員番号 _____)

ご住所：〒 _____ (TEL： _____)

循環器専門医認定更新 所 定 単 位 表

一般社団法人 日本循環器学会

以下の方法にて5年間に**必修研修単位を含む50単位**を取得することにより、循環器専門医の認定更新を行う。

★印については必修研修とし、認定期間内に30単位を必ず取得のこと。★内での組み合わせは自由。

☆印については必修研修とし、認定期間内に最低1回(2単位)は受講すること。

登録方法	対象者	必修	単位加算対象	単位数
専門医カード 単位登録票	参加者	★	日本循環器学会 学術集会	10
		★	〃 教育セッション	5
		☆	〃 医療安全・倫理に関する講演会※1	2
		★	日本循環器学会 地方会	5
		★	〃 地方会教育セッション	3
			〃 基礎研究フォーラム(BCVR)	3
事務局登録	筆頭著者		「Circ J」掲載論文(CL・EX・RC・ICMのみ)	10
	参画者		本会が推奨する臨床研究プロジェクト※2	2～4
			本会が実施するプログラム	◎
	自己研修		本会が実施する教育プログラム CD-ROM/DVD/ビデオ ※3	3
			本会が実施する教育研修eラーニング ※4	1
自己申告	参加者		循環器関連学会 年次学術集会 【別表Ⅰ】	3
			関連学会 年次学術集会 【別表Ⅱ】	1
			日本医学会総会	5
			WCC・AHA・ACC・APSC・ESC	2
			その他の海外循環器関連学会集会 【別表Ⅲ】	1
	筆頭著者		本会指定の循環器関連学会学術誌 掲載論文(英文) 【別表Ⅳ】	5
			〃 (和文) 【別表Ⅳ】	3
			本会指定以外の循環器関連学術誌 掲載論文(英文) 【別表Ⅴ】	3
			〃 (和文) 【別表Ⅴ】	1
	留学者		留学(連続して10ヶ月以上の場合のみ)	1×月数

《 単位登録方法について 》

専門医カード:学会当日会場において専門医カードを持参・提示することにより単位を取得する。

単位登録票:学会当日会場において、単位登録票に記入し提出することにより単位を取得する。

事務局登録:上記該当者は自動的に単位が加算される。

自己申告:単位不足の場合、自己申告期間(認定5年目)に所定の自己申告書にて不足単位を申告する。

但し、留学・研究プロジェクトについては『認定更新に関する規程』参照。

※1 医療安全・医療倫理に関する研修については、ホームページ上での視聴研修あるいは地方会でのDVDセッションでも可。ただし、同じ講演内容については、重複して単位は加算されない。

※2 詳細については「大規模臨床試験プロジェクト」単位付与規程に基づき専門医制度委員会で決定する。

※3 発売から約2年間のみが単位付与対象となる。各視聴教材に同封の単位申請ハガキに記載されている単位申請有効期限を確認すること。

※4 視聴と設問正解を以って単位付与とする。

ただし、認定期間5年間で最大15単位。同じ内容については、重複して単位は加算されない。

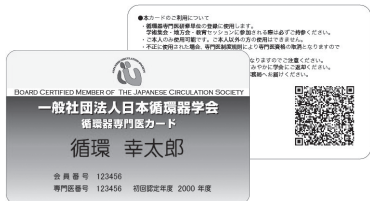
◎印の単位数は委員会判断とする。

「循環器専門医カード」再発行のご案内

(専門医の先生へ)

日本循環器学会主催学術集会、地方会には、専門医カードをお持ちください。
専門医カードをお持ち頂くと研修単位登録受付での登録がスムーズです。

紛失等された場合は、下記「循環器専門医カード再発行申請書」をFAX、
郵便、E-mailで、日本循環器学会事務局へご提出ください。



カード再発行の流れ

1. 下記「再発行申請書」に必要事項を記入後、FAX、郵便、E-mail等で事務局へご提出ください。
2. 再発行料(3,240円)の請求書をお届けします。郵便局からお振込ください。
改姓の場合は無料です。申請書内「事務局への連絡事項欄」に改姓のため等理由をご記載ください。
3. 再発行料のご入金を確認後、専門医カードをお届け致します。

発行時期 ※申請書の提出日によって、専門医カードの発行時期が異なります。

申請書提出メ切	専門医カード発行時期
12月末	2月下旬
3月末	5月上旬
7月末	9月上旬

ご提出・お問い合わせ：一般社団法人 日本循環器学会 事務局 専門医担当
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー18F
TEL: 03-5501-0864 FAX: 03-5501-9855 E-mail: senmoni@j-circ.or.jp

FAX: 03-5501-9855
E-mail: senmoni@j-circ.or.jp

(一社)日本循環器学会専門医制度委員会 循環器専門医カード再発行申請書

(一社)日本循環器学会
代表理事 殿

標記のカードを紛失致しましたので、下記のとおり再発行を申請致します。

なお、紛失したカードが発見された時には、速やかに学会に届け出を致します。

太枠内はもれなく記入してください

年 月 日

申請者氏名：	会員番号(6桁)：
生年月日：(西暦) 19 年 月 日	
事務局への連絡事項：	

※手続きには再発行料(¥3,240(税込))が必要です。申請書到着後、請求書を送付致します。

カード発行は、ご入金後となりますのでご了承くださいますようお願い申し上げます。

※万一、請求書送付から1ヶ月経過してもご入金確認ができない場合は、本件申込みは失効することと致します。

※再発行料請求書及び循環器専門医カードは、刊行物と同じ送本先へ送付致します。

事務局記入欄

申請受付日	請求書送付	入金確認	送付

地方会・関連学会・研究会情報

【お願い】 各学会情報は、申請された時点の情報を掲載していますので、開催までに情報に変更が生じることがございます。当日参加される場合は、必ず各学会・各地方会・各研究会にて情報をご確認ください。

日本循環器学会地方会情報

第119回北海道地方会

会 期：2018年 6 月23日(土)
会 場：北海道大学学術交流会館(札幌市)
会 長：三浦哲嗣(札幌医科大学 医学部循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座)

第166回東北地方会

会 期：2018年 6 月 2 日(土)
会 場：アイーナ いわて県民情報交流センター
会 長：富田泰史(弘前大学大学院医学研究科 循環器腎臓内科学講座)

第167回東北地方会

会 期：2018年12月 1 日(土)
会 場：仙台国際センター
会 長：渡辺昌文(山形大学 内科学第一講座)

第248回関東甲信越地方会

会 期：2018年 6 月 9 日(土)
会 場：ステーションコンファレンス東京(千代田区)
会 長：萩原誠久(東京女子医科大学 循環器内科)

第249回関東甲信越地方会

会 期：2018年 9 月22日(土)
会 場：ステーションコンファレンス東京(千代田区)
会 長：中村正人(東邦大学医療センター 大橋病院)

第136回北陸地方会

会 期：2018年 7 月 8 日(日)
会 場：富山国際会議場
会 長：絹川弘一郎(富山大学医学部 第二内科)

第151回東海地方会

会 期：2018年 6 月30日(土)
会 場：じゅうろくプラザ(岐阜市文化産業交流センター)(岐阜県)
会 長：西垣和彦(岐阜大学大学院医学系研究科 循環病態学・呼吸病態学・第二内科 臨床教授)

第125回近畿地方会

会 期：2018年 6 月30日(土)
会 場：ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター(大阪市)
会 長：石原正治(兵庫医科大学内科学 冠疾患科)

第126回近畿地方会

会 期：2018年11月24日(土)
会 場：ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター(大阪市)
会 長：安田 聡(国立循環器病研究センター)

第112回中国・四国合同地方会

会 期：2018年 6 月 2 日(土)・3 日(日)
会 場：広島国際会議場
会 長：三浦俊郎(地域医療機能推進機構 徳山中央病院)

第124回九州地方会

会 期：2018年 6 月30日(土)
会 場：かごしま県民交流センター(鹿児島市)
会 長：大石 充(鹿児島大学大学院 心臓血管・高血圧内科学)

海外学会情報

American College of Cardiology 2018

会 期：2018年 3 月17日(金)～19日(日)
開催地：ワシントン(U.S.A)
U R L：https://accscientificsession.acc.org/

APSC2018

会 期：2018年 5 月17日(木)～20日(日)
開催地：台北(台湾)
U R L：http://www.apsc2018.tw/index.php

ESC Congress 2018

会 期：2018年 8 月25日(土)～29日(木)
開催地：ミュンヘン(ドイツ)
U R L：https://www.escardio.org/Congresses-&-Events/ESC-Congress

AHA2018

会 期：2018年11月10日(土)～14日(水)
開催地：シカゴ(U.S.A)
U R L：https://professional.heart.org/professional/EducationMeetings/MeetingsLiveCME/ScientificSessions/UCM_316900_ScientificSessions.jsp

その他の学会開催情報

近畿心血管治療ジョイントライブ(KCJL)2018

会 期：2018年4月12日(木)～4月14日(土)

会 場：ナレッジキャピタルコングレコンベンション
センター

参加登録：2018年1月10日(水)から3月20日(金)まで、
ホームページより事前参加登録を受け付けます。

当番世話人：浜中一郎(洛和会丸太町病院)

問合先：KCJL 事務局

〒440-0851 愛知県豊橋市前田南町1-1-5 2E

Tel. 0532-57-1278 Fax. 0532-52-2883

E-mail: kcjl@kcjl.gr.jp

URL: <http://www.kcjl.gr.jp>

千里ライフサイエンスセミナー M1

老化メカニズムと疾患制御

日 時：2018年5月30日(水)10:00～15:50

会 場：千里ライフサイエンスセンタービル5階

山村雄一記念ライフホール

コーディネーター：

原 英二(大阪大学微生物病研究所 教授)

片桐秀樹(東北大学大学院医学系研究科 教授)

参加費：無料

申込方法：氏名、勤務先、所属、〒所在地、電話番号、
Eメールアドレスを明記の上、Eメールで下
記までお申し込み下さい。件名は「千里ライ
フサイエンスセミナー M1」として下さい。

申込先：千里ライフサイエンスセミナー M1 係

E-mail: sng@senri-life.or.jp

URL: [http://www.senri-life.or.jp/seminar/
seminar-1-20180530a.html](http://www.senri-life.or.jp/seminar/seminar-1-20180530a.html)

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル20階

TEL. 06-6873-2001

主 催：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団

第19回 CTO Club

会 期：2018年6月15日(金)～6月16日(土)

会 場：ウインクあいち

研究会 HP: <http://cct.gr.jp/ctoclub>

参加登録：2018年5月20日(日)まで、ホームページよ
り事前参加登録を受け付けます。

問い合わせ先：CTO Club 事務取扱

〒440-0851 愛知県豊橋市前田南町1-1-5 2E

TEL: (0532)57-1276 FAX: (0532)52-2883

Email: cto@heartorg.gr.jp

第24回第1種 ME 技術実力検定試験および講習会

主 催：公益社団法人日本生体医工学会

期 日：2018年6月17日(日)9:00～17:00

試験会場：《札幌会場》札幌医学技術福祉歯科専門学
校(予定)

《東京会場》帝京平成大学池袋キャンパス
(予定)

《名古屋会場》名城大学(予定)

《大阪会場》新梅田研修センター(予定)

《福岡会場》福岡工業大学(予定)

受験料：初回受験者 20,000円

再受験者(科目合格受験者を含む)12,000円

受験資格：次のいずれかを満たしていること(実務経
験の有無にかかわらず受験できます)

・第2種 ME 技術実力検定試験合格者

・臨床工学技士免許所有者

試験方法：筆記試験で、ME 基礎論(午前)、ME 機器
(午後)の2つの科目で行います。

ME 機器論には専門知識を問う選択問題と小
論文が含まれます。

申込方法：申し込みには資料(申込書等を含む)請求が
必要です。

講習会(2018年4月に全国主要都市で開催)は
2018年2月1日より、検定試験は2018年4月
1日より受付を開始いたします。

「第1種 ME 講習会資料希望」または「第
1種 ME 試験資料希望」のいずれかを明記
した封筒に長形3号の返信用封筒(宛先記載、
92円切手貼付)を入れて下記事務局まで郵送
ください。

問合先：ME 技術実力検定試験事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷3-25-4 津久井
21ビル3階 ME 技術教育委員会内

Tel/Fax. 03-3813-5521

E-mail: jimu@megijutu.jp

第30回日本医学会総会

会 期：2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝)

会 場：名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、
ウインクあいち

会 長：齋藤英彦(名古屋大学名誉教授)

参加登録：2018年2月1日(木)正午から2019年4月5
日(金)正午まで、ホームページより事前参加
登録を受け付けます。

問合先：第30回日本医学会総会 2019中部 学術準備室
〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-13 栄第
一生命ビルディング6階 株式会社コングレ
中部支社内

Tel. 052-950-3369 Fax. 052-950-3370

E-mail: isoukai2019@congre.co.jp

研究助成

公益財団法人循環器病研究振興財団

第26回(2018年度)バイエル循環器病研究助成募集要項

研究テーマ：血栓症とがん

助成金額：500万円／1件、250万円／2件

応募資格：1974年4月1日以降に生まれた日本に在住する研究者

応募方法：ホームページから申請書および承諾書を各自入手し、必要事項を記入・押印(申請者、推薦者および所属機関長の印)のうえ、財団まで送付

応募期間：2018年1月15日～3月15日(同日消印有効)

問合せ先：公益財団法人循環器病研究振興財団「バイエル循環器病研究助成」係

〒565-8565 吹田市藤白台5-7-1 国立循環器病センター内

Tel. 06-6872-0010 Fax. 06-6872-0009

E-mail: koubo@jcvrf.jp

URL: http://www.jcvrf.jp

平成30年度 岡本国際賞、岡本研究奨励賞(ともに第32回)

公益財団法人 健康加齢医学振興財団では、平成30年度健康加齢医学研究顕彰事業として、岡本国際賞(①)、岡本研究奨励賞(②)の候補者推薦を次の通り公募します。

趣 旨：健康な加齢(成長・成熟・老化)と加齢に関係する心血管系疾患、内分泌代謝疾患などの成因、病態、予防に関する基礎的研究において、①は顕著な研究業績をあげた国際的評価の高い国内国外の研究者に対し贈呈します。②は注目すべき優秀な研究業績をあげている40歳未満の研究者に、その将来の発展を期待して贈呈します。

贈呈数：①1名、②2名以内

内 容：①(1)賞状(2)賞牌(ゴールド・メダル)(3)副賞(研究助成金100万円)

②(1)賞状(2)賞牌(シルバー・メダル)(3)副賞(研究助成金30万円)

締 切：①平成30年3月20日(郵送の場合は当日消印有効)

②平成30年4月20日(郵送の場合は当日消印有効)

応募規定：

岡本国際賞

(1)他薦に限る

(2)候補者、推薦者共、国籍、年齢、性別不問

(3)研究分野：上記趣旨のとおり

(4)必要資料：以下の5項目の資料を規定の用紙により英文で作成し、財団事務局に送付して下さい。

1. 推薦書 2. 履歴書 3. 研究業績概要
4. 論文リスト 5. 主要論文の別刷(5編以内、コピー可)

規定用紙は下記の財団事務局へ文書によって請求して下さい。

岡本研究奨励賞

1. 応募には、財団様式による推薦書の添付が必要です。

2. 当財団の規定用紙を請求し、同用紙の指定する内容を記入すること。

3. 候補者は、2018年3月31日現在で原則として40歳未満であること。

4. 過去の受賞者を除く。

審 査：審査は当財団岡本賞選考委員会において行い、①は6月上旬、②は7月下旬に結果を通知する予定です。

授与式：①は2018年9月17日 中国・上海で開催の第18回国際 SHR シンポジウム会場において行われる予定です。

②は2018年12月6日熊本市で開催の第54回高血圧関連疾患モデル学会学術総会会場において行われる予定です。

既受賞者：財団 HP 参照

問合せ先：公益財団法人 健康加齢医学振興財団(旧：公益財団法人 成人血管病研究振興財団)

〒606-8413 京都市左京区浄土寺下馬場町86番地 国際健寿ビル 1F

Tel. 075-761-2381 Fax. 075-761-2382

公益財団法人福田記念医療技術振興財団

第29回(平成30年度)研究助成等募集

(公財)福田記念医療技術振興財団では、ME を利用した医療技術に関する研究助成を行っており、4月1日より次のとおり募集を行う。

公募事業：

①研究助成

1) 個人研究：100万円／件を限度に計6件

2) 共同研究：200万円／件を限度に計5件

②国際交流助成

1) 研究留学：100万円／件を限度に計4件

2) 国際会議出席：30万円／件を限度に計4件

3) 海外からの研究者招聘：100万円／件を限度に計4件

③論文表彰(副賞50万円)：2件

応募締切(当日消印有効)：

①については2018年4月26日

②については前期分2018年4月26日、後期分2018年12月31日

(注) 国際交流前期分は、出発が2018年7月1日か

ら2019年2月28日までの募集
国際交流後期分は、出発が2019年3月1日から
2019年6月30日までの募集

③については2018年12月31日

応募方法：財団所定の申請書に記載し、書留で事務局宛に送付

問合先：公益財団法人福田記念医療技術振興財団事務局

〒113-8570 東京都文京区湯島2-31-20 フクダ電子(株)春木町ビル内

Tel. 03-5684-0288 Fax. 03-5684-0268

<http://www.fukudakinen.or.jp/>

問合先：三井住友信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ 循環器学研究振興基金 申請口
〒105-8574 東京都港区芝3-33-1

Tel. 03-5232-8910 Fax. 03-5232-8919

URL: <http://www.smtb.jp/personal/entrustment/management/public/example/list.html>

公益信託循環器学研究振興基金

平成30年度募集要項

趣 旨：循環器学に関する研究に携わる埋もれた人材の発掘育成を念頭に置き、明治以来いまだ欧米に遅れをとっている循環器学域の進歩のために、この分野で研究に携わる若手医学研究者を対象とする研究助成を行うとともに優れた研究業績をあげた者に対して褒賞を贈呈することを目的とする

1. 研究助成

研究課題：心臓血管疾患の機序・診断・治療・予防に関する基礎的・臨床的研究

- 1) 血管の石灰化の治療と予防に関する研究
- 2) 肺動脈性肺高血圧症の病態・診断・治療に関する研究
- 3) 心房心筋症に関する研究
- 4) 心原性脳塞栓症の一次予防促進
- 5) 循環器疾患と線維化の研究
- 6) 腫瘍心臓病学に関する研究
- 7) オートファジー
- 8) モノクローナル抗体を使った抗体医薬品の循環器疾患への応用
- 9) 生活習慣病の適正治療に関する研究
- 10) その他

応募資格：日本国内で研究を行う40歳以下の研究者で、国籍は不問(但し、教授は除く)

助成金額：200万円／1件、総額1,400万円以内

助成金の使途：助成対象となる研究活動等に直接必要となる費用

研究期間：2年間

2. 褒賞(内田賞)

対象内容：日本国内で行った循環器分野の研究でかつ、2017年度(2017年4月～2018年3月)に学術誌に掲載された論文

対象研究者：論文のファーストオーサーで、応募時45歳以下の研究者(但し、教授・准教授は除く)

賞金額：500万円／1件、総額1,000万円以内

募集期間：2018年6月1日～7月27日(当日消印有効)

応募方法：申請書を下記URLからダウンロード

ACLS 講習会情報

●ACLS プロバイダーコース案内

受講料 (初回受講) 32,000円

受講料 (更新受講) 18,000円 ※受講要件は ACLS 更新コースと同様です。

受講対象者：原則として医療従事者(医師・看護師・救急救命士など日本国内での医療国家試験有資格者)。なお、臨床経験を有している方が望ましい内容が多く含まれていますので、医療従事者をめざしている学生(医学生、看護学生、薬学部学生など)の受講は原則として認めておりません。

受講申込方法：当会ホームページ「BLS・ACLS 講習会情報」のページからご希望のコースをお選びいただき、オンラインフォームにてお申し込みください。以下のコーススケジュールの募集締めきりは延長される場合がございますので、ホームページにてご確認ください。

【G2015暫定コース】JCS-ITC2018/02/24-25九州支部佐賀大学医学部附属病院 AHA ACLS プロバイダーコース

日程：2018年2月24日(土)・25日(日)

会場：佐賀大学医学部附属病院

コースディレクター：肥後 太基

(九州大学病院 循環器内科)

2018年1月29日(月)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：九州大学病院 循環器内科 肥後太基

E-mail: higo@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp

JCS-ITC2018/02/24-25関東甲信越支部長野赤十字病院 AHA ACLS プロバイダーコース

日程：2018年2月24日(土)・25日(日)

会場：長野赤十字病院

コースディレクター：宮澤 泉

(長野赤十字病院 循環器科)

2018年1月30日(火)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局 佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

JCS-ITC2018/02/24-25東北支部東北大学 AHA ACLS プロバイダーコース

日程：2018年2月24日(土)・25日(日)

会場：東北大学

コースディレクター：花田裕之(青森県立中央病院救命センター)

2018/02/15まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 東北支部講習会事務局 佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcsstohoku@acls-jcs.org

【G2015暫定コース】JCS-ITC2018/03/03-04九州支部熊本中央病院 AHA ACLS プロバイダーコース

日程：2018年3月3日(土)・4日(日)

会場：熊本中央病院

コースディレクター：平井信孝(熊本地域医療センター 循環器内科)

2018年1月28日(日)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：熊本地域医療センター 循環器内科 平井信孝

Phone: 096-363-3311/Fax: 096-362-0222

E-mail: nobutaka@krmc.or.jp

JCS-ITC2018/03/03-04近畿支部国立循環器病研究センター AHA ACLS プロバイダーコース

日程：2018年3月3日(土)・4日(日)

会場：国立循環器病研究センター

コースディレクター：田原良雄(国立循環器病研究センター 心臓血管内科)

2018年2月4日(日)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：日本循環器学会近畿支部 清水光則・猪田桂子

Phone: 075-212-2015/Fax: 075-212-0691

E-mail: kyoto@congre.co.jp

【G2015暫定コース】JCS-ITC2018/3/3-4九州支部出水郡医師会広域医療センター AHA ACLS プロバイダーコース

日程：2018年3月3日(土)・4日(日)

会場：出水郡医師会広域医療センター

コースディレクター：吉野聡史(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 心臓血管・高血圧内科学)

2018年2月3日(土)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 心臓血管・高血圧内科学 吉野聡史

Phone: 099-275-5318

E-mail: tanu1024@m2.kufm.kagoshima-u.ac.jp

JCS-ITC2018/03/03-04関東甲信越支部相澤病院 AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月3日(土)・4日(日)

会 場：相澤病院

コースディレクター：宮澤 泉

(長野赤十字病院 循環器科)

2018年2月12日(月)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

JCS-ITC2018/03/03-04関東甲信越支部帝京大学板橋キャンパス AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月3日(土)・4日(日)

会 場：帝京大学板橋キャンパス

コースディレクター：金子一郎(帝京大学 医学部救急医学講座)

2018年1月31日(水)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

JCS-ITC2018/03/03-04四国支部徳島赤十字病院 AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月3日(土)・4日(日)

会 場：徳島赤十字病院

コースディレクター：吉川 圭(坂出市立病院)

2018年2月19日(月)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：坂出市立病院 吉川 圭

Phone: 070-5516-8708/Fax: 0877-46-2377

E-mail: kayy@me.com

JCS-ITC2018/03/10-11東海・北陸支部合同市立島田市民病院 AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月10日(土)・11日(日)

会 場：市立島田市民病院

コースディレクター：岩嶋大介(市立島田市民病院)

2018年2月14日(水)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：日本循環器学会東海支部事務局 渡辺裕一

Phone: 052-950-3365/Fax: 052-950-3370

E-mail: jcs-tokai@congre.co.jp

JCS-ITC2018/03/17-18北海道支部国立病院機構 函館病院 AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月17日(土)・18日(日)

会 場：国立病院機構 函館病院

コースディレクター：高橋 弘(製鉄記念室蘭病院)

2018年2月26日(月)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：日本循環器学会北海道支部事務局(北海道大学大学院医学研究科 循環病態内科学内)横式尚司

Phone: 011-706-6973/Fax: 011-706-7874

E-mail: hokucirc@med.hokudai.ac.jp

JCS-ITC2018/03/17-18関東甲信越支部本郷マッシュアップスタジオ AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月17日(土)・18日(日)

会 場：本郷マッシュアップスタジオ

コースディレクター：中山英人

(埼玉医科大学病院 麻酔科)

2018年2月28日(水)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

JCS-ITC2018/03/17-18東海支部名古屋医療センター AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月17日(土)・18日(日)

会 場：名古屋医療センター

コースディレクター：鈴木秀一(名古屋医療センター)

2018年2月19日(月)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：日本循環器学会東海支部事務局 渡辺裕一

Phone: 052-950-3365/Fax: 052-950-3370

E-mail: jcs-tokai@congre.co.jp

JCS-ITC2018/03/17-18近畿支部和歌山県立医科大学 AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年3月17日(土)・18日(日)

会 場：和歌山県立医科大学

コースディレクター：加藤正哉(和歌山県立医科大学)

2018年2月18日(日)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：日本循環器学会近畿支部 清水光則・猪田桂子

Phone: 075-212-2015/Fax: 075-212-0691

E-mail: kyoto@congre.co.jp

JCS-ITC2018/03/17-18関東甲信越支部獨協医科大学

AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年 3 月17日(土)・18日(日)

会 場：獨協医科大学

コースディレクター：菊地 研(獨協医科大学 心臓
・血管内科)

2018年 2 月26日(月)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

JCS-ITC2018/04/21-22関東甲信越支部本郷マッシュ

アップスタジオ AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年 4 月21日(土)・22日(日)

会 場：本郷マッシュアップスタジオ

コースディレクター：中山英人
(埼玉医科大学病院 麻酔科)

2018年 4 月 4 日(水)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

JCS-ITC2018/05/19-20関東甲信越支部本郷マッシュ

アップスタジオ AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年 5 月19日(土)・20日(日)

会 場：本郷マッシュアップスタジオ

コースディレクター：中山英人
(埼玉医科大学病院 麻酔科)

2018年 5 月2日(水)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

JCS-ITC2018/05/19-20近畿支部和歌山県立医科大学

AHA ACLS プロバイダーコース

日 程：2018年 5 月19日(土)・20日(日)

会 場：和歌山県立医科大学

コースディレクター：加藤正哉(和歌山県立医科大学)

2018年 4 月22日(日)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：日本循環器学会近畿支部 清水光則・猪田桂子

Phone: 075-212-2015/Fax: 075-212-0691

E-mail: kyoto@congre.co.jp

●ACLS EP プロバイダー資格コース案内

コースの特徴：成人の心停止に対する二次救命処置を ACLS プロバイダーコースを学習した方が、さらにレベルアップするためのコースです。ACLS プロバイダーコースの知識・スキルを習得していることを前提として、心血管系エマージェンシー、心拍再開後ケア、臨床薬理および中毒学、呼吸および代謝のエマージェンシーにどう対応するかをディスカッション形式で学習していきます。
本コースを受講していただくことで、同時に ACLS プロバイダー資格を更新することができます。

受講料：18,000円

受講要件：1. 有効期限内の BLS ヘルスケアプロバイダーカードまたはインストラクターカードを有すること
2. 有効期限内の ACLS プロバイダーカードまたはインストラクターカードを有すること

追補1) 上記カード提示ができない場合は、受講当日であってもコースの受講をお断りすることがございますのでご注意ください。またカードを紛失している場合などは事前に各コースの責任者(コースディレクター)にご連絡ください。なお、受講希望者多数の場合には施設の重複を避けるなど、地域性も考慮して選考させていただきます。

対象者：原則として医療従事者：医師、救急集中治療の経験のある看護師など

追補1) ACLS プロバイダーとして実際の臨床経験を積んだ方で、心電図や病態の把握ができることが必要になります。

※下記コースの受講申込については、当会ホームページ「BLS/ACLS 講習会情報」ページよりオンラインフォームにてお申し込みください。

【G2015暫定コース】JCS-ITC2018/02/25関東甲信越
支部獨協医科大学 AHA ACLS EPプロバイダーコース

日程：2018年2月25日(日)

会場：獨協医科大学教育医療棟 5F

コースディレクター：菊地 研(獨協医科大学 心臓・血管内科)

2018年2月5日(月)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

【G2015暫定コース】JCS-ITC2018/04/22関東甲信越
支部本郷マッシュアップスタジオ AHA ACLS EP プロバイダーコースコース

日程：2018年4月22日(日)

会場：本郷マッシュアップスタジオ

コースディレクター：中山 英人(埼玉医科大学病院 麻酔科)

2018年4月4日(水)まで募集(延長の場合あり)

問合せ：JCS-ITC 関東甲信越支部講習会事務局
佐々木和也

Phone: 019-652-5406/Fax: 019-604-8244

E-mail: aclsjcskanto@acls-jcs.org

映像教材販売のご案内

教育研修映像販売のご案内

教育研修委員会

下記の教材 1 タイトルご購入につき、専門医研修単位が 3 単位加算されます。本体についている返信はがきに必要事項をご記入の上、切手を貼ってご郵送ください。ただし、単位の付加は、ご購入ご本人のみに限ります。単位受付は同じタイトルにつき 1 回限りの受付となりますのでご了承ください。

※なお、単位申請ハガキの受付には期限があります。詳細は下記の各 DVD 単位申請期間をご確認ください。

ご購入の申し込みは、日循ホームページ(<http://www.j-circ.or.jp/>)の「刊行物購入のご案内」からオンラインでお受けしています。もしくはファックス(03-6368-9509)で、ご希望のタイトル、氏名、会員番号、お届け先住所、電話番号をお書き添えの上、お申込みください。

■循環器教育セッション

※DVD-ROM は家庭用 DVD レコーダーでは再生できませんのでご注意ください

※座長所属はセッション開催時のもの。

第44回循環器教育セッション DVD-ROM ￥5,200(税込) 2016年 3月18日(金)～20日(日)

単位申請期間：2018年 3月31日

セッション I

1. 慢性血栓塞栓性肺高血圧症における経皮的肺動脈形成術

座長：福本 義弘(久留米大学心臓血管内科)

2. 心房細動に対するクライオバルーンアブレーション

座長：沖重 薫(横浜みなと赤十字病院心臓病センター内科)

セッション II 心臓血管イメージングの最前線

座長：尾崎 行男(藤田保健衛生大学循環器内科)

竹石 恭知(福島県立医科大学循環器・血液内科学)

セッション III わが国における心臓移植

座長：布田 伸一(東京女子医科大学重症心不全制御学)

松居 喜郎(北海道大学循環器・呼吸器外科)

第45回循環器教育セッション DVD-ROM ￥5,200(税込) 2017年 3月17日(金)～19日(日)

単位申請期間：2019年 3月31日

セッション I

1. 心臓リハビリテーションでの運動療法の主体は有酸素持久運動か筋力トレーニングか？

座長：後藤 葉一(国立循環器病研究センター心臓血管内科・循環器病リハビリテーション部)

2. EVT の進歩とピットフォール—血管外科医の視点から—

座長：大木 隆生(東京慈恵会医科大学外科学講座)

セッション II 成人先天性心疾患の管理

座長：丹羽公一郎(聖路加国際病院心血管センター循環器内科)

赤木 禎治(岡山大学病院成人先天性心疾患センター)

セッション III 突然死の原因となる致死性不整脈に対する診断と治療

座長：池田 隆徳(東邦大学循環器内科学分野)

渡邊 英一(藤田保健衛生大学循環器内科)

第81回



日本循環器学会学術集会 DVD-ROM発売!!

石川県立音楽堂他 10会場での講演記録

会期：2017年3月17～19日

購入し研修されると専門医研修単位が **3単位** 取得できます。

※単位の付加は、ご購入ご本人様のみに限ります、単位受付は同じタイトルにつき一回限りとなりますのでご了承ください。

発行予定
7月1日

DVD 購入者は

WEBでも ご視聴いただけます!

これ一枚で**49セッション 242** 延べ座長・演者、
52時間収録!

価格 **5,200円** (送料 税込)

<収録内容>

美甘レクチャー（日本心臓財団美甘基金）

1セッション

Genetics of Heart Disease

真下記念講演

1セッション

Vascular Endothelial Growth Factor and Its Receptor System: A Critical Regulator for Physiological and Pathological Angiogenesis

会長講演

1セッション

Perspectives in Cardiovascular Medicine for the Next Generation

特別講演 1～11、13～15

14セッション

SL01. Emerging Advances in Cardiac Ultrasound

SL02. The Changing Genetic Landscape of Dilated Cardiomyopathy

SL03. Transcatheter Interventions in Adult Congenital Heart Disease

SL04. The Implication of PCSK9 in Cardiometabolic Disorders

SL05. The Development and Current Status of BVS

SL06. The Changing Face of the Pathogenesis of the Acute Coronary Syndromes (ACS)

SL07. Improving Cardiovascular Outcomes by Integrating Research and Reality

SL08. TAVI: the Revolution, Has Started

SL09. PCSK9 Inhibitors; Does Reducing LDL Cholesterol to Low and Very Low Levels Have Additional Benefit on CVD Events or Safety Concerns?

SL10. Genetics of Coronary Artery Disease: Discovery, Biology and Clinical Translation

SL11. 2015 ESC non-ST-elevation Acute Coronary Syndromes Guidelines and Beyond

SL13. Cardiogenetics; Are We on the Right Track?

SL14. Cardiac iPSCs: from Personalized Medicine to Clinical Trial in a Dish

SL15. Complexity of the Aorta — the Basis for Aneurysmal Locations

プレナリーセッション 1、2、5、7、8、10

6セッション

PL01. Future Perspective on Diagnoses and Therapies for Dyslipidemia

PL02. Challenges for Elucidating the Pathogenesis of Heart Failure ~ From Genome to Organs ~

PL05. Action Plan for “202030” —ウーマノミクスが目指すもの

PL07. What is the Best Imaging Modality for Less Invasive Treatment of Structural Heart Diseases

PL08. 日本発のビッグデータをを用いた臨床研究

PL10. Advance in Assessment and Treatment of Valvular Heart Diseases

会長特別企画 2～6、8～10、12、13

12セッション

SS02. 循環器領域難治性稀少疾患の克服にむけて

SS03. 若者よ！世界を目指せ：世界なぜそこに？日本人？

SS04. 若者を心血管病から守る：金沢宣言への提言—

SS05-1. 次世代へつなぐ日本発の循環器基礎医学研究 循環器病学の歴史を変えた人々
心筋カルシウムハンドリングの解明と応用：心小胞体フォスホランパンの発見がもたしたものSS05-2. 次世代へつなぐ日本発の循環器基礎医学研究 循環器病学の歴史を変えた人々
細胞膜の非対称性とフォスファチジルセリンの暴露SS05-3. 次世代へつなぐ日本発の循環器基礎医学研究 循環器病学の歴史を変えた人々
スタチンの発見がもたらした人類への貢献

SS06. 疾患 iPS 細胞臨床応用の現状と展開

SS08. 90 分でマスターする循環器統計学 boot camp：応用編

SS09. 次世代へつなぐ日本発の循環器臨床研究 循環器病学の歴史を変えた人々 診断・治療学研究

SS10. 新内科専門医制度施行を控えての循環器専門医教育

SS12. 大規模災害と循環器病：首都直下型—南海トラフへの備え

SS13. How to Enhance the Intravascular Ultrasound in Future

シンポジウム 1～3、6、7、9、11～14、16～18、20

14セッション

SY01. 超高齢化社会における心不全の管理・治療

SY02. Vascular Biology as Interactive Science of Cardiovascular Disease

SY03. 重症虚血肢治療の現在と未来

SY06. Cardiomyopathies: A Diagnostic and Therapeutic Update

SY07. Bioresorbable Vascular Scaffold: Current Status and Future Expectation

SY09. 心臓突然死の遺伝的背景

SY11. 器質的心疾患に伴う持続性心室頻拍に対するカテーテルアブレーションの最前線

SY12. Understanding the Mechanism of Pulmonary Hypertension

SY13. 急性・慢性 B 型大動脈解離の治療戦略（内科治療、外科手術、血管内治療）

SY14. Precision Medicine Based on Genetic Information

SY16. 冠動脈疾患の残余リスクから新たな介入ポイントを考察する

SY17. Heart Failure and Diabetes Mellitus

SY18. ハートチーム医療の現状と展望

SY20. わが国の循環器救急診療の進歩と反省から新しい知見と技術を生かす

※本 DVD-ROM は DVD-Video プレイヤーでは再生できません。
セキュリティの観点よりインターネット接続状態の PC でご視聴が可能となります。

お申込みはインターネットまたは FAX でもお申込み頂けます。

日本循環器学会ホームページから、又は、https://www.medicalvista.jp/jcs_dvd にアクセスしてください。

DVD に収録されている座長・演者名（ご所属）及び演題名もご覧いただけます。

■お問い合わせ先

株式会社 メディカルビスタ
0120-046-844

FAX : 03-6368-9509

Mail : jcsdvd@medicalvista.jp

企画著作：一般社団法人 日本循環器学会
〒100-0011 東京都千代田区内幸町 1-1-1 帝国ホテルタワー 18F

制作販売受託：株式会社 メディカルビスタ
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 3-7-35 博多ハイテックビル 5F

第81回日本循環器学会学術集会 DVD-ROMのお申込

価格 1部 ¥5,200 (送料、税込)

お申込方法

① インターネットの場合

日本循環器学会ホームページ (<http://www.j-circ.or.jp>) 「刊行物購入のご案内」 から、
又は、次のURLにアクセスしお申込ください。

https://www.medicalvista.jp/jcs_dvd

② FAXの場合

下記お申込書にご記入頂き、**03-6368-9509** まで FAX にてお申込ください。

お支払方法

<お申込者個人名の場合>

■銀行振込、■郵便振替、又は■クレジットカード払いの何れかでお支払いください。

お申込受付後、ご指定いただいたお支払い方法についてのご案内をお送り致します。

ご送付先は、E-Mail アドレスのご記入がある場合 E-mail アドレス宛に、E-mail アドレスのご記入がない場合、
FAX 番号宛にお送りいたします。上記の何れかの方法でお支払いください。

DVDの発送はお支払い確認後、随時対応します。

<団体又は法人名の場合>

請求書、納品書、領収書等の発行を必要とされる場合、その他通信欄にご記入下さい。

DVD納品後のお支払いにつきましてもお申し出いただければ可能です。

第81回 学術集会DVD-ROMのお申込書

(FAX 番号、又は E-mail アドレスのどちらか必ずご記入ください。)

2017年 月 日

フリガナ お名前	申込部数	会員番号
ご所属	お支払方法 ☐ 銀行振込 ☐ 郵便振替 ☐ クレジットカード払い	
ご住所(ご送付先) 〒		☐ ご所属先 ☐ ご自宅
ご連絡先	TEL :	FAX :
E-mail アドレス	@	
その他通信欄		

JCS81_V2

<ご提供いただきます個人情報は、個人情報保護法に準拠して取扱います>

企画著作 一般社団法人日本循環器学会

制作販売受託

株式会社メディカルビスタ 日循 DVD-ROM 事務局

☎ 0120-046-844 (9:30-18:30) FAX: 03-6368-9509

E-mail: jcsdvd@medicalvista.jp



JCS2017

第45回 循環器教育セッション

会場：ホテル金沢 日時：2017年3月17～19日

発行予定
6月20日

DVD-ROM発売!!

DVD購入者はWEBでもご視聴いただけます。

価格 5,200円 (送料、税込)

購入し研修されると専門医研修単位が **3単位** 取得できます。

※単位の付加は、ご購入ご本人様のみに限ります、単位受付は同じタイトルにつき一回限りとなりますのでご了承ください。

お申込みはインターネットまたはFAXでもお申込み頂けます。

日本循環器学会ホームページから、又は、https://www.medicalvista.jp/jcs_dvd にアクセスしてください。

<収録内容>

教育セッション I

教育セッション I-1

心臓リハビリテーションでの運動療法の主体は
有酸素持久運動か筋カトレニングか?

学会1日目 3月17日(金) 11:30～12:15

座長:

後藤 葉一 (国立循環器病研究センター
心臓血管内科・循環器病リハビリテーション部)

演者:

絹川 真太郎 (北海道大学 循環病態内科学)

コメンテーター:

高橋 敬子 (兵庫医科大学
医学教育センター / 内科学冠疾患科)

教育セッション I

教育セッション I-2

EVTの進歩とビットフォール ー血管外科医の視点からー

学会1日目 3月17日(金) 12:15～13:00

座長:

大木 隆生 (東京慈恵会医科大学 外科学講座)

演者:

笠島 史成 (国立病院機構金沢医療センター 心臓血管外科)

教育セッション II

成人先天性心疾患の管理

学会2日目 3月18日(土) 11:10～12:40

座長:

丹羽 公一郎 (聖路加国際病院 心血管センター循環器内科)
赤木 慎治 (岡山大学病院 成人先天性心疾患センター)

演者:

島田 衣里子 (東京女子医科大学 循環器小児科
成人先天性心疾患病態学)

八尾 厚史 (東京大学 保健・健康推進本部)※

宮崎 文 (国立循環器病研究センター 小児循環器科)

笠原 真悟 (岡山大学 心臓血管外科)

福田 旭伸 (聖路加国際病院 循環器内科)

教育セッション III

突然死の原因となる致死性不整脈に対する診断と治療

学会3日目 3月19日(日) 14:00～15:30

座長:

池田 隆徳 (東邦大学 循環器内科学分野)
渡邊 英一 (藤田保健衛生大学 循環器内科)

演者:

池田 隆徳 (東邦大学 循環器内科学分野)

渡邊 英一 (藤田保健衛生大学 循環器内科)

栗田 隆志 (近畿大学病院 心臓血管センター)

副島 京子 (杏林大学病院 循環器内科)

堀江 稔 (滋賀医科大学 循環器内科)

●動作環境

※本DVD-ROMはDVD-Videoプレイヤーでは再生できません。

セキュリティの観点よりインターネット接続状態のPCでご視聴が可能となります。

Windows

2.33GHz以上のx86互換プロセッサ

512MB以上のRAM(1GB以上推奨)、128MB以上のグラフィックメモリ

プラットフォーム: Windows Vista、Windows 7、Windows 8.1、Windows 10

ブラウザ: 最新バージョンのMicrosoft Internet Explorer、Microsoft Edge、Mozilla Firefox、Google Chrome、Opera

プラグインソフトウェア: Adobe Flash Player

Macintosh

Intel Core Duo 1.83GHz以上のプロセッサ

512MB以上のRAM(1GB以上推奨)、128MB以上のグラフィックメモリ

プラットフォーム: Mac OS X v10.6以降

ブラウザ: 最新バージョンのSafari、Mozilla Firefox、Google Chrome、Opera

プラグインソフトウェア: Adobe Flash Player

※こちらの演題は収録しておりません。

■お問い合わせ先

株式会社 メディカルビスタ

☎ 0120-046-844

FAX: 03-6368-9509

Mail: jcsdvd@medicalvista.jp

第45回 循環器教育セッションDVD-ROMのお申込

価格 1部 ¥5,200 (送料、税込)

お申込方法

① インターネットの場合

日本循環器学会ホームページ (<http://www.j-circ.or.jp>) 「刊行物購入のご案内」 から、
又は、次のURLにアクセスしお申込ください。

https://www.medicalvista.jp/jcs_dvd

② FAXの場合

下記お申込書にご記入頂き、**03-6368-9509** まで FAX にてお申込ください。

お支払方法

<お申込者個人名の場合>

■銀行振込、■郵便振替、又は■クレジットカード払いの何れかでお支払いください。

お申込受付後、ご指定いただいたお支払い方法についてのご案内をお送り致します。

ご送付先は、E-Mail アドレスのご記入がある場合 E-mail アドレス宛に、E-mail アドレスのご記入がない場合、
FAX 番号宛にお送りいたします。上記の何れかの方法でお支払いください。

DVDの発送はお支払い確認後、随時対応します。

<団体又は法人名の場合>

請求書、納品書、領収書等の発行を必要とされる場合、その他通信欄にご記入下さい。

DVD納品後のお支払いにつきましてもお申し出いただければ可能です。

第45回 循環器教育セッションDVD-ROMのお申込書

(FAX 番号、又は E-mail アドレスのどちらか必ずご記入ください。)

2017年 月 日

フリガナ お名前	申込部数	会員番号
ご所属	お支払方法 ☐ 銀行振込 ☐ 郵便振替 ☐ クレジットカード払い	
ご住所(ご送付先) 〒		☐ ご所属先 ☐ ご自宅
ご連絡先 TEL :	FAX :	
E-mail アドレス		@
その他通信欄		

JCS_ES45_V2

<ご提供いただきます個人情報は、個人情報保護法に準拠して取扱います>

企画著作 一般社団法人日本循環器学会

制作販売受託

株式会社メディカルビスタ 日循 DVD-ROM 事務局

☎ 0120-046-844 (9:30-18:30) FAX: 03-6368-9509

E-mail: jcsdvd@medicalvista.jp

事務局からのお知らせ

〈住所／勤務先変更の届出について〉

毎月の「CJ」や各地方会の開催案内、プログラム等を確実にお手許にお届けできるよう、適時、住所／勤務先変更の届出をお願いしております。

ホームページ(<http://www.j-circ.or.jp/>)より、会員限定ページにて変更登録をお願い致します。または、次ページの「登録事項変更届」をご利用ください。

なお、学会活動や医療情報などに関する重要なお知らせをEメールで発信する機会が増えておりますので、可能な限りEメールアドレスをお届け下さいますようお願い致します。

〈会員限定 HP へのアクセス等について〉

- UMIN(大学病院医療情報ネットワーク)のID を利用しての会員のみのアクセス制限をしております。
- 新規ご入会の先生につきましては、当学会にてUMINID の取得申請を代行しております。ご入会手続き後に UMINID が取得次第、順次 ID と仮パスワードを郵送致します。

● 学会に関する問い合わせは下記事務局までご連絡下さい。

(一社)日本循環器学会

〒100-0011 東京都千代田区幸町1-1-1 帝国ホテルタワー18F

各業務担当メールアドレス・電話番号のご案内		
	メールアドレス	電話番号
代表(下記のどの担当か不明の場合)	admin@j-circ.or.jp	03-5501-0861
総務(登録事項変更・入会・退会等)	soumu@j-circ.or.jp	
編集(Circulation Journal 関連)	cj@j-circ.or.jp	
情報広報(購読・HP・地方会)	webmaster@j-circ.or.jp	
BLS/ACLS 関連事業(AHA 心肺蘇生法講習他)	itc@j-circ.or.jp	
IT/Database(JROAD 他)	ITDatabase@j-circ.or.jp	03-5501-0862
学術集会	meeting@j-circ.or.jp	
ガイドライン関連	jcsGL@j-circ.or.jp	
男女共同関連	jcs-danjyo@j-circ.or.jp	03-5501-0863
経理(各請求書・年会費等)	keiri@j-circ.or.jp	
禁 煙	nonsmoking@j-circ.or.jp	
予防関連	j-yobou@j-circ.or.jp	03-5501-0864
専 門 医	senmoni@j-circ.or.jp	
国際交流	international@j-circ.or.jp	
国内交流(国内学会とのジョイントシンポジウム)	kokunai@j-circ.or.jp	

FAX(業務共通)

03-5501-9855

ホームページ URL

<http://www.j-circ.or.jp/>

* 重要なお知らせを E-mail でお届けする機会が増えております。ぜひメールアドレスをご登録ください。